地方独立行政法人大阪市博物館機構
令和7事業年度にかかる業務の実績に関する
業務実績報告書

年度評価
令和8年3月31日現在

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	1

中期計画	
	ア 専門的人材及び各種活動の充実 **1. 博物館等の運営の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成** 本法人の活動を支える専門人材を安定的に確保し、育成に取り組む。 館蔵品保存管理、広報、教育、資金調達等に特化した専門人材の安定的確保と充実を目指す。

法人自己評価	
3	**各館においては、欠員となっていた学芸員を計画的に採用するとともに、その他職種についても適切な採用・配置を行い、安定的な運営基盤の確保を図った。また、館横断的な研究会・研修を実施するとともに、国等が主催する研修や協議会へ積極的に参画し、専門知識の習得や情報収集を通じて職員の資質向上に取り組んだ。 【主な取組】内部:学芸員研究報告会(1回)、広報・プロモーション研修(3回) 外部:全国科学館連携協議会国内研修会、国立公文書館アーカイブズ研修、西日本自然史系ネットワーク主催ドローン映像活用研修会、他 防火・防災、保存科学、IPMに関する研修等**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 専門人材の安定的確保を図る。 イ 人材育成の一環として、文化庁の主催する博物館活動に資するセミナーへの学芸員の受講を推進する。	ア 令和7年10月1日付で学芸員を2名新規採用し、適切な分野に配置する等、安定的な組織基盤の確保に努めた。 イ 東京文化財研究所の主催する博物館・美術館等保存担当学芸員研修(上級コース)を受講した。令和7年7月7日～11日の5日間受講した。 新規採用者数:2名 職員数:22名 うち学芸員数:10名	3
大阪市立自然史博物館	ア 必要な分野の学芸員および必要な職能の職員を安定的に配置し、またライフプランに応じ、休職時などには業務継続に必要な措置を速やかに確保する。 イ スキルアップのため、関連催事(関連分野の学術集会、博物館学関連行事、職能研修 等)をオンライン・オフラインで誘致・実施する。 ウ 外部研究者とのネットワークづくりや研究能力の向上を目的とした、館内外で開催される学会参加など専門的研修へ参加する。積極的にオンライン会議などを活用する。 エ 総務系職員、案内要員を含めた、館の活動への理解を深めるための研修を実施する。	ア 4月に脊椎動物化石担当主任学芸員及び兼任で保存科学担当主任学芸員が着任した。(2名) イ 西日本自然史系ネットワーク主催のドローン映像活用研修会、3Dプリンタ研修会が開催され、複数の職員が参加している(延べ7名)。 ウ 菌学会、ベントス学会、魚類学会、鳥学会、植物分類学会、生態学会など、今年度も各学芸員は学術集会に積極的に参加し、またオンライン会議システムを活用した研究会合なども開催されている(延べ20人以上参加)。 エ 新人研修と兼ねた職員向けの館ミッションなどの講習を実施、特別展の内容を深く理解するための展示ガイド研修などを実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 日常的な学芸事務や展覧会事業などにおけるデスクワーク、作品の取扱研修や展示撤収業務を通じた館内研修などによる育成に取り組む。 イ 文化庁が主管する国指定文化財に関する取扱、企画・展示セミナー研修などを積極的に利用して学芸員の質的向上を図る。	ア 作品調査や展示撤収業務を通じた指導・育成を行った。また、科学研究費助成事業の補助を受けた2件の作品研究(天王俑と鼻煙壺)に関する作品の取扱指導と研究内容に関する助言等を行った。 イ 文化庁研修や各種研修への参加等を行った。 【研修参加人数】6名	3
大阪市立科学館	ア 科学館活動に関連する各種学会、研究会、研修会等に随時参加して、専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図る。 イ プラネタリウム、サイエンスショー及び企画展の制作時と制作後の組織内評価並びに来館者アンケートをとおして学芸員の事業企画に係る資質向上を図る。 ウ 市民向けワークショップ等の事業の計画・実施に向けた試行を行い、スキルの向上を図る。	以下のとおり、各種研究会の開催や職員参加、プログラムの修正等により、学芸員の専門性の向上と広範囲の情報の収集に努め、資質向上を図った。 ア 全国プラネタリウム大会2025・大阪を日本プラネタリウム協議会と共催で開催(6/16～18)、国内外から、300名規模の参加があり、プラネタリウム全般についての発表、意見交換を行った。また、全国科学館連携協議会第2回国内研修会を当館他で開催(9/4,5)し、当館職員6名を含む42名の参加があり、概要説明、質疑応答、意見交換を行った。 イ 3か月に1度管理職及びプラネタリウム番組制作者、その時点で実施している企画展担当者との事業検討会を実施(4/16,7/16,10/16,2/18)し、投影開始から約1か月後の状況確認と、必要に応じて内容の修正を行っている。また、二次元コードを利用して、プラネタリウムやサイエンスショーのアンケートを行い、来館者の意見を収集し、必要に応じ内容の修正を行っている。2月の検討会からは、サイエンスショーも改めて検討会の対象とし、演示状況等の検討を行った。新規採用学芸員(物理担当)が令和7年度学芸員専門研修に参加し、科学技術資料の分解・組立を研修、修了した。全国科学館連携協議会の補助を活用したタイ国への海外研修に学芸課長が参加した。 ウ 1～3月に「光と色」を統一の題材とした3本の市民向けワークショップを実施し、うち1本は、展示場1階で開催し、新たな事業展開の実施方法を模索した。 なお、職員体制としては、以下のような形で整備を図った。 ・令和6年度3月の退職補充として、4月に物理担当の学芸員1名を直ちに採用した。 ・プラネタリウム関係業務の充実を図るため、7月に契約職員(技術職員)1名を採用した。また、1月からの職員産休に対して契約職員(事務職員)1名を採用した。新規採用者数4名(正規:学芸1名、事務職員1名(登用)、有期契約:技術職員1名、事務職員1名) 職員数24名(1人産休中)内学芸員は12名(館長含)。	4
大阪歴史博物館	ア 館の活動を支える人材を確保し、適切な職員配置、業務分担などを模索する。 【令和5年度実績】新規採用:0人 職員数:31人(うち学芸員19人) イ 職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め、参加機会を得る。 【令和5年度実績】研修5回、参加者5人 【令和7年度目標】研修5回、参加者5人	ア 欠員となっていた考古担当学芸員1人を採用した。 【令和7年度実績】 新規採用者1人(職員:33人 学芸員:20人) イ 文化庁主催「公開承認施設担当者会議」(6月)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(6月)に参加し、2月に防火管理者資格更新に伴い「防火・防災講習会」を受講した。 (参考)令和6年度実績 文化庁主催「公開承認施設担当者会議」(6月)、「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(6月)、奈良文化財研究所文化財デジタルアーカイブ課程1人(7月)、九州国立博物館IPM研修1人(10月)	3

大阪中之島美術館	ア　館活動を支える学芸人材の確保を目指す。 イ　学芸員はもとより学芸業務にかかわる職員の育成やスキルアップを図るため、研修情報などの収集に努め参加機会を増やす。	ア　安定的な運営の実現に向け人員配置等について、PFI事業者と意見交換等を実施した。 イ　学芸員を含めた職員のスキルアップの研修を行うとともに、国等が実施する研修情報を収集し、IPMにかかる研究報告会やアーカイブ、広報・プロモーション等各種の研修に参画した。 【実績】 国立公文書館アーカイブズ研修：アーキビストが受講	3
事務局	ア　学芸員に対して、各種の研修を行い資質の向上を図る。 イ　広報やマーケティング・リサーチ等の研修を実施する等、本法人の重点事項にかかる能力開発を積極的に進める。	ア　新任職員研修において機構内外の博物館・美術館等を取り巻く社会情勢や関係法規等にかかる研修を実施するとともに、下半期には研究にかかる報告会や他館の展覧会の合同見学会を6館で開催し新たな知見を享受・共有する等その資質の向上を図った。 また、全職員対象を対象にe-learningによるハラスメント研修を実施した。 イ　外部から講師を招聘のうえ、各館の広報担当者を対象にSNS運用能力向上やマーケティング基礎能力習得を目的とした研修を実施した。また事務局よりマーケティングにかかるノウハウ等を他館に展開することで総務系職員の知識向上を図った。 【令和7年度実績】 ・Instagram研修　2回 ・X研修　1回 ・博物館・美術館等保存担当学芸員研修：保存科学担当学芸員が受講 ・国立公文書館アーカイブズ研修：アーキビストが受講 ・研究報告会（保存科学について） ・展覧会合同視察会（自然史・「学芸員のおしごと」展）	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	2

中期計画	
	ア 専門的人材及び各種活動の充実 **2. 博物館等資料に関する調査研究** 各館が対象とする実物、標本、現象に関する資料そのほかの資料(以下「博物館等資料」という。)に関する専門的見地からの調査・研究を実施する。

法人自己評価	
3	**各館とも計画通り着実に調査研究を進め館活動に大きく貢献した。5館で、科研費や民間助成金を活用して積極的調査研究活動を進め、特に科学館では全国理工系学芸員会議や全国科学博物館協議会、全国プラネタリウム大会2025・大阪への積極的な参画を通じた調査・研究活動を展開した。また、自然史博物館では、外部研究者による収蔵庫利用やデータ公開により研究支援を積極的に進めた。** **【実績】令和7年度科学研究費助成事業(科研費) 新規採択件数:6件、令和8年度科研費応募数:29件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館蔵品、寄託品及びその関連作品に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和7年度目標】 作品・資料等実地調査 30件 著書・論文・図録等執筆 10件 研究発表・講演・シンポジウム等 10件	館蔵品や寄託品、各担当分野の作品について調査を進め、論文や著作、コラムなどの執筆や、研究発表、講演会、学会などの発表など、基礎研究を行った。 【令和7年度実績】 ・作品・資料等実地調査121件 ・著書・論文等(研究ノート・コラムなど含む)18件 ・研究発表等 (講演会・パネラーなど含む)21件	3
大阪市立自然史博物館	ア 学芸員による館蔵資料を活用した研究及び野外での現況や生態に関する基礎研究を継続的に進める。 イ 外来研究員や外部研究者による館蔵品を用いた研究を支援する。 ウ 科研費や民間助成金を積極的に活用し、必要な調査を計画的に行い、機会を捉えて積極的に成果発表を行う。	ア 科研費などを活用した野外研究を積極的に行っている。その成果として学芸員16名中11名が外部査読誌に原著論文を公表している。(実績総数集計中) イ 外部研究者による収蔵庫利用は高いレベルで続いている。同時に植物標本、描画資料を中心にデジタル化を積極的に進めており、公開による研究支援をすすめている(収蔵庫利用者集計中)。 ウ 令和7年度の科研費の新規採択は3件(主担2,分担1ほか転入1件)、ほか民間助成金や継続研究を含め外部研究費による活動を進めている。また令和8年度に向け科研費11件を申請、2件の採択が内定した。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	館蔵品や、その関連作品に関する基礎研究を継続的に進め、展示や講演会・講座などでの成果の反映を図っていく。	引き続き、科学研究費助成事業の補助を受けた4件の研究を計画通り進めた。 また特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」、特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」及び特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART2」の出品作品の調査、解説原稿作成、講演・講座等を実施した。	3
大阪市立科学館	ア 館蔵資料等関連資料に関する基礎研究や科学教育に関する実践的研究等を継続的に進め、結果を口頭発表や論文・著作物としてまとめ公表する。 イ プラネタリウムのテーマ解説の製作にあたって、当該分野の最近の研究の進展が解説内容に取り入れられるよう調査と研究を行う。	ア 企画展開催に向けての調査研究や、科研費を新規に1件獲得して研究を実施している。 また、8月に研究報告誌第35号を発行し、7件の論文を掲載した。 共同研究者が電気学会(9/3～5)にて連名にて口頭発表を行った。 また、11月には、全国理工系学芸員会議にて、館長と学芸課長が館蔵資料に関しての口頭発表をそれぞれ行った。 また、主任学芸員が2月の全国科学博物館協議会で科学館の活動についてのポスター発表、3月の天文学会におけるプラネタリウム投影機に関する連名での口頭発表など、令和7年度における各種学会等における口頭発表は、14件、その他講演等での講演・発表は、10件行った。 イ 6月に当館などを会場として全国プラネタリウム大会2025・大阪を開催・参加し、最新のプラネタリウムに関する情報を収集した。また、当館学芸員による2件の口頭発表を行った。 さらに協議会開催初日に、当館のプラネタリウムの取組みについて特別投影を行い、全国のプラネタリウム関係者に、当館の取組みについて紹介し、その内容や情報を共有、意見交換を行った。 9月に北京天文館(Beijing Planetarium)を会場として Innovation for the Future under the Stars: というプラネタリウムに関する国際フォーラムがあり、当館学芸員による1件の口頭発表(招待講演)を行った。また、関連したインタビュー収録に対応した。また、国際フォーラムには中国ほか12カ国の参加があり、各国および中国の研究やプラネタリウムを使った科学教育に関する情報を収集した。 また、11月17～19日に、開催された、全国プラネタリウム研修会2025に参加し、学習投影、プラネタリウムで伝えるべきことなど投影の目的や技術について学んだ。	4
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料に関する基礎研究を継続的に進める。 【令和5年度実績】共同研究事業3本、基礎研究事業1本 著書・論文数54件、研究発表70件 【令和7年度目標】共同研究事業3本、基礎研究事業1本 著書・論文数50件、研究発表60件	ア 個々の学芸員による日常的な館蔵品等に関わる調査研究とともに共同研究2件、基礎研究5件を進め、『共同研究成果報告書18』を刊行した。 (参考)令和6年度実績 共同研究3本、基礎研究1本、著述・論文数56件、口頭発表95件。『共同研究成果報告書17』刊行。	3
大阪中之島美術館	館蔵品に関する調査・研究を継続的に推進する。	年間8本の展覧会や随時実施するワークショップ・セミナー等の開催を通じて館蔵品に関する調査・研究を進めるとともに、自主企画展の企画・立案にあたり、継続的な情報収集を行った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	3

中期計画	
	ア 専門的人材及び各種活動の充実 **3. 博物館等資料の保管に関する調査研究** 最新の情報の収集を図るなど、博物館等資料の保存や修復に関する調査・研究を実施する。

法人自己評価	
3	**計画に基づき、博物館資料の保存や修復に関する情報収集を行うとともに、調査・研究を実施した。 自然史博物館と事務局兼務で配属された保存科学担当学芸員が能登半島文化財レスキューや東京文化財研究所の研修に参加したほか、各館の収蔵環境の点検等を行った。これらの研修の成果や知見および各館点検の結果等、組織内で共有する研修会を機構内で実施し、組織全体での博物館等の資料の保管に関する調査・研究活動に取り組んだ。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	東京文化財研究所、文化財活用センター、文化財防災センター、文化庁、国宝修理装潢師連盟及び日本博物館協会等が開催する研修会、文化財レスキュー活動及び所蔵作品の修復監督業務等の機会を通じて、美術作品の保存や修理に関する知見の習得に務める。 【令和7年度目標】 各種研修会2回 修復監督業務2回	東京文化財研究所「令和7年度博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）」を受講した。令和7年7月7日～11日に受講した。（再掲） 【令和7年度実績】 光影堂修理監督1件、楽浪文化財修理所仏像修理監督2件	3
大阪市立自然史博物館	ア 大規模改修をにらみ、必要な収蔵体制や条件などについて大規模改修検討会議、学芸会議等でより精緻に検討を進め、具体的な諸室の条件などを明確化、基本計画や設計に反映する。 イ 文化財防災ネットワークと連携し、大規模災害に備えるとともに、調査や研究・研修などで貢献する。 ウ 国際自然史標本保存学会や文化財科学会など、自然史分野の保存科学関連の情報を積極的に収集し、またそれを機構内や国内に還元する。 エ 「自然史博物館研究報告」などで当該分野の研究報告を受け入れる。	ア 大阪市との協議により築65年となる2038年（令和20年）の建替えに向けての様々な検討（建替えまでの施設維持、自然史博物館のあり方等）を進めている。当面の改修として第2展示室天井改修に伴う展示検討を進めた。 イ 保存科学担当学芸員1名を能登半島文化財レスキューに派遣、文化財防災ネットワーク関係者と共同研究に向け科研費を申請し、採択が内定した。 ウ 保存科学担当学芸員を東京文化財研究所の関連研修に派遣、機構内に向けた共有研修を12月に実施した。 エ 研究報告は発行したが、当該内容の投稿はなかった。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア IPMなどを通じた作品や資料の保全を図り、館蔵品の計画的な補修に努めるとともに、収蔵庫や展示室における温湿度環境の改善に対する検討する。 イ 作品を安全に保管する桐箱について、優先順位をつけながら、損傷のあるものには修理を施し、桐箱がない作品には新調をしていくなど、予算化に向けて検討する。	ア 8月から全展示室及び収蔵庫（資料展示室含む）の文化財歩行害虫調査を開始し、11月末～12月初旬の展示替期間に展示室10および資料展示室のIPM重点クリーニングを実施した。 イ 作品調査や展示作業等で箱の状態・有無を確認し、箱の修理・新調が必要な作品のリストを整理した。また、韓国陶磁の箱を3点新調、2点修復した。	3
大阪市立科学館	日本博物館協会をはじめとした関連団体や文化庁の研究会・研修会等に参加し、博物館マネジメントや資料の収集ポリシーや除却手続き、収蔵庫に関する課題など、資料保存や保管に関する新しい情報の収集に努める。	日本博物館協会館長会議（7/2）全国科学博物館協議会（7/3,4）に参加し館運営や事業内容の情報を収集した。また、国立国会図書館・内閣府知的財産戦略推進事務局主催のデジタルアーカイブフェスティバル（8/25）に参加し、資料情報のデジタル化、その活用などについて情報を収集した。 また、文化庁主催の研修会「博物館資料に係る電磁的記録の作成と公開」（1/14）にも参加し、館蔵資料のデジタル化の記録方法等を学んだ。 資料関係の調査は以上4件。	3
大阪歴史博物館	ア 博物館資料の保管にかかわる情報を研修や研究会などを通じて収集し、その研究で得た成果を活かす。 【令和5年度実績】特別展示室のケース改修、新規ケースの導入 【令和7年度目標】エキヒュームに代わるIPMを検討する イ 展示ケースの劣化度合いを調査し、修理可能なケースは修理計画を、修理不能なケースは廃棄計画を立て、安全な展示作業環境を整備する。また、補充導入するケースについても調査を行う。	ア エキヒュームSに代わる虫菌害対策として、1～2月に二酸化炭素殺虫処理を行うとともに、収蔵庫内の浮遊菌調査を年2回実施し、問題ないことを確認した。 イ 令和5年度に改修・購入した展示ケースは定期的に空気環境調査・温湿度測定を行い、異常がないか経過観察を行った。4面ケースは照明に不具合が発生したため修理を実施した。未改修の独立ケースは引き続き温湿度測定を行い、そのうち13台については開閉機能の調査を10/21に行い、2/24に修理した。	3
大阪中之島美術館	館蔵品の保存状態を常に確認し、その保存に関する調査研究を進め、最新の情報の収集に努める。	館蔵品の保存状態等に関する調査研究を行うとともに、館内外での活動や各種の研修等を通じてその情報収集を図った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	4

中期計画	
	ア 専門的人材及び各種活動の充実 **4. 博物館等資料の展示に関する調査研究** 最新の情報の収集を図るなど、博物館等資料の展示をはじめとする公開・活用に関する調査・研究・開発を実施する。

法人自己評価	
3	**各館においては、国や外部機関等が開催する研修会・協議会への参加を通じて展示手法や展示設備等展示に関わる専門知識の最新情報の収集に努め、計画に基づき調査・研究・開発を推進した。また、市立美術館では、大型展覧会の開催を通じて最新の設備に関する知見を蓄積し、機器の購入・配置を進めることで展示環境の機能向上を実現した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大規模改修工事により導入された展示ケース、免振装置、照明器具に関する操作・使用経験を重ね、鑑賞効果と安全性向上について記録・分析を行う。また、最新設備導入館の全国的リサーチ、各種新製品の仕様に関する情報収集を継続する。 【令和7年度目標】 鑑賞効果・安全性向上の記録、分析 1件 最新設備導入館・新製品仕様リサーチ 1件	最新式の各種スペック(長尺、長高のミュージアムガラス、低反射フィルム貼り、タブレット操作できるマルチパターン照明システム、一部免振装置、前進可動壁面などの採用)を備えた展示ケースの施工が終了し、「What'sNew展」や「日本国宝展」、「根来展」、「妙心寺展」、企画展示で運用し、試行錯誤のうえ各場面で適宜修正した。また、大型の彫刻で使用できる免震装置や、最新の行燈ケースを導入した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大規模改修を目指し、新たな展示手法や包摂的な展示手法の積極的な情報収集、開発に努める。 イ 外部資金などを活用し，デジタルを活用した展示，SDGsの達成に向けた教育に関する展示の開発を続ける。 ウ 西日本自然史系博物館ネットワークや全国科学博物館研究協議会、全日本博物館学会などと連携した展示手法に関する研究会・学会に参加し、情報収集及び当館の取組を発表し、議論する。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークとすすめている文化庁事業などを活用したデジタル面での開発、「大阪博」事業などの機会を捉えて情報収集、開発を進めた。 イ RISTEX事業が終了したため、当該事業の総括を執筆した。発展する内容を助成金申請したが、不採択となり、さらなる検討を重ねている。デジタル展示としては外部寄付に伴う事業として情報サイネージなどを強化した。 ウ 全国博物館大会を実施し、プログラム・エクスカーションを作成、多くのスタッフが会場スタッフとして参加し、議論に触れることができた。合わせて自然史博物館の取り組みを紹介した。全国科学系博物館協議会でも発表を行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	文化庁や国立文化財機構などが開催する研修会への参加を通じて、展示をはじめとする公開・活用に関する知見の獲得に務める。	令和7年8月25日から29日にかけて京都国立博物館で開催された「第13回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー」に参加し、館蔵品活用の活性化、博物館と社会連携、教育普及活動、防災等をテーマとする講義を受講し、各項目に関するディスカッションを通じて課題を深め、各館の事例から知見を得た。	3
大阪市立科学館	ア 全国科学博物館協議会、全国理工系学芸員会議など関連団体の展示手法に関する研修に参加する等、最新の情報の収集に努める。 イ サイエンスガイド等ボランティアから展示物等について意見聴取し、展示物等の改善・改修のための調査を行う。	ア 日本プラネタリウム協議会(6月)全国科学博物館協議会(7月)、全国科学館連携協議会研修、科学館・博物館若手職員向けクローズアップ研修交流会(9月)、全国理工系学芸員展示研究大会(11月)浜松サイエンスショーフェスティバル2026、全国科学博物館協議会研究発表大会(2月)に参加し、館運営、展示場の運営、普及事業などの情報を収集した。本項目に関する研修等参加数 7件 イ サイエンスガイドリーダーから展示物の取扱いや、不具合などについて随時情報を聞取り、情報共有アプリケーションを使用して、学芸課でその内容を共有、対処に当たっている。	3
大阪歴史博物館	博物館資料の展示にかかわる情報を他館や研究会等を通じて収集し、その研究で得た成果を活かす。 【令和5年度実績】展示場照明のLED化について費用と工期を検討した 【令和7年度計画】LED照明への交換計画の策定	特別展示室では劣化した旧LEDケース照明を補うために外部照明を設置できるような造作を作成した。同時に、LED未交換の展示室やケースのLED化については、交換計画を施設管理課と調整し、2026年度から着手、2030年度まで段階的に行っていく計画を策定した。	3
大阪中之島美術館	展覧会開催時に展示作品の状態に合った展示手法を検討・調査するとともに、他館の展示方法や関係研究所や展示事業者等から最新の情報の収集を行う。	年間8本実施する展覧会の開催を通じて展示手法の検討や調査を行った。また、巡回展の開催時に他館の展示方法や関係研究所等から積極的に情報収集を図った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	5

中期計画	
	ア 専門的人材及び各種活動の充実 **5. 博物館等の運営に関する調査研究及び評価** 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 国内外からの来館者や各種活動への参加者のニーズを把握するため、マーケティング調査やビッグデータを活用したデータ分析を行う。

法人自己評価	
3	**紙面及びオンラインによるアンケートを実施し、来館状況の把握に努めた。また、他機関が主催する研修会等への参加を通じて博物館運営に関する知見の収集を図り、調査・研究を計画に基づき推進した。 事務局において大阪公立大学「博物館経営論」の講義提供にあたり、国内の博物館や他の地方独立行政法人における評価手法等について研究を進めるとともに、11月の全国博物館大会では「大阪博」のマーケティング等の取組に関する発表を行った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	全国の博物館・美術館が参画する各種研究会、マスコミ各社の文化事業部等との情報交換をもとに、大都市及び地方中核都市での展覧会の開催動向や運営戦略について調査・研究を行う。	・日本経済新聞社や読売新聞社、毎日新聞、産経新聞社、NHKなどと展覧会を行うにあたり、運営や展覧会の在り方などについて適宜協議を行い、世論やニーズの把握に努めた。 ・学芸員向け研修3Dプリンタで広がる触察モデルの世界＠大阪市立自然史博物館（2026/2/5―6）に参加して、最新の3Dプリンタ技術を使用し、視覚障害者向けの触察モデル作成の理解を深めた。	3
大阪市立自然史博物館	ア 科研費共同研究などの機会を捉えて、博物館の来館者の期待、経営手法及び寄附開発などについての研究を進める。 イ モバイル端末などのビッグデータ活用を行い、来館者属性の分析を進める。 ウ 博物館を取り巻く様々な属性を持つ（潜在的）利用者からのヒアリングの機会を設け、インクルーシブな博物館づくりを目指す。 エ 主要な利用者の代表である友の会からの声を運営に活かす。	ア 科研費ですすめた「ミュージアムの新たな評価手法構築に関する実践研究－社会的価値と事業改善に着目して」の研究成果の市販書籍が秋に刊行。また、博物館内で関連NPOと遺贈寄附に関する検討を進めている。 イ 特別展などの来館者情報を中心に解析を進めているほか、経営企画課と連携してSNSターゲティング広告を活用した発信・分析を進めた。 ウ 外部有識者会議などを招いてのヒアリングは行うことができなかったが、視覚障害や発達障害など様々な支援団体との連携事業を実施し、また館内での催事などにも協力をいただいている。 エ 4月29日に博物館友の会と合同で活動報告会などを実施、積極的に対話をすすめている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	日本博物館協会や全国美術館会議などの動向や、マスコミ各社との情報交換を行いながら、当館で開催する展覧会の入館者に対するアンケート調査を実施しつつ、広報関連業者からの効果的な情報提供や広報活動等への活用について検討し、その方向性について協議する。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」会期中、Web広告配信業者に計7回のWeb広告配信を委託し、6回分のクリエイティブ別配信結果速報を受領した。また、途中結果をもとに、7月にはライト層をターゲットとしたWeb広告配信やコラムの取材・発信、インフルエンサーによる情報発信を企画・実施した。 特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」会期中、Web広告配信業者に計7回のWeb広告配信を委託し、3月までに6回分のクリエイティブ別配信結果速報を受領した。また、途中結果をもとに、2月にはライト層をターゲットとしたインフルエンサーによる情報発信を企画・実施した。 【実績】アンケート回答者数： ・特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」（4月19日～11月24日）：136件 ・特別展「「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」（12月13日～3月22日）：34件	4
大阪市立科学館	ア 展示・プラネタリウム・サイエンスショーなど各種事業に関して、アンケートにより入館者の満足度等を調査し、館の運営、事業内容の改善を行う。 イ 日本博物館協会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会をはじめとした関係団体の研究会等に参加し、運営に関する情報を収集する。	ア プラネタリウム（662件）やサイエンスショー（5,310件）についてオンラインでのアンケートを取り、その情報を館の管理職会議や事業検討会で共有し、適宜改善を図っている。 イ 全国プラネタリウム大会2025・大阪の開催・参加（6/16～18）、全国科学館連携協議会総会及び第1回国内研修会（6/30）、令和7年度全国博物館長会議（7/2）、全国科学博物館協議会総会（7/3,4）、全国科学館連携協議会第2回国内研修会（9/4,5）全国科学博物館協議会研究発表大会（2月）などに参加し、館運営、プラネタリウム事業、展示場の運営、普及事業などの情報を収集した。	3
大阪歴史博物館	ア 他館の事例研究や研究会等への参画を通じて、博物館運営に関する調査・研究を実施する。 イ 効果的な広報戦略を策定するため、来館者を対象としたアンケートを実施し、他館の結果も参照して分析を行う。 【令和5年度実績】来館者アンケート随時、特別企画展1回、特集展示4回 【令和7年度目標】来館者アンケート随時、特別展・特別企画展4回、特集展示5回 ウ 展覧会事業を館内組織で事後検証し、以後の企画立案に活用する。 【令和5年度実績】展覧会事後分析1回 【令和7年度目標】展覧会事後分析4回 エ 事務局と連携し、事務局において収集したマーケティング・リサーチ結果やビッグデータを活用し、戦略的な広報を展開する。	ア 文化庁や国立の文化財研究所等の研修や、日本博物館協会、全国歴史民俗系博物館協議会の研究集会に参加し、博物館運営に関する情報収集を行った。 イ 特別展2回、特別企画展2回のアンケートを実施。特集展示では令和6年度からの継続分を含めて5回実施。 ウ 開催終了した特別展2本、特別企画展1本について振り返りを実施。 エ 令和7年度開催の展覧会について、事務局経営企画課と連携して人流データから巡回展の他会場、類似展覧会の傾向を分析し、ターゲット等の確認に役立てた。	3

大阪中之島美術館	他館の調査・情報を収集をするほか、ブランディングやマーケティング等に関して営利団体の手法等も調査・研究の対象とする。	国内外の他館にかかる情報収集を行うとともに、展覧会関係者である営利団体等のブランディングやマーケティングにかかるノウハウを積極的に研究しそのノウハウを収集した。	3
事務局	博物館の評価についての情報収集に努めるとともに、上半期終了後に令和7年度の中間評価（仮評価）を実施し下半期の業務改善に繋げる。	他の博物館・美術館や地方独立行政法人等の調査・研究に関する状況を調査し、各項目における評価指標等の洗い出しを行った。また上半期終了時点における中間評価（仮評価）を実施し計画の進捗状況を把握したうえで下半期の業務改善に繋げた。 大阪公立大学「博物館経営論」の講義を提供するに際し、国内における博物館等や他の地方独立行政法人の評価手法等について研究を進めた。 11月の全国博物館大会では、「大阪博」のマーケティング等の取組についての発表も行った。 大阪市教育委員会主催の令和7年度大阪市生涯学習関係職員研修（テーマ：ウェルビーイング）に参加した。 日本博2.0の補助金を活用し、5館において来館者調査を実施し、利用者の満足度や認知経路等を把握し、事業の効果測定等に利用した。（回答数約1,200）	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	6

中期計画	
	イ 資料の充実 **6. 博物館等資料の収集、整理及び提供** 博物館等資料について、調査研究、寄贈、購入等を通じて、新たな獲得を目指す。 博物館等資料に関する図書、文献、調査資料その他必要な資料(以下「図書等」という。)を収集するとともに、博物館等資料及び図書等に関するデータベース等の作成と公開を行う。

法人自己評価	
3	**各館においては、計画に基づき寄贈による資料収集を着実に推進した。 科学館では、大阪・関西万博のアメリカ館で展示されていたSLSロケット模型をはじめ、各パビリオンで使用されたデバイス類など計13点の寄贈を受け、展示・活用を進めることで館活動の充実に大きく寄与する資料収集を実現した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集を実施する。 【令和5年度実績】購入0件 寄贈12(うち重文4)件 寄託 受入118件 返戻119件 イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録を収集する。 【令和5年度実績】購入 図書・雑誌110件 【令和7年度目標】館蔵品データベースの画像追加1,000 件程度	ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、博物館活動に有効な作品収集に努めた。 【令和7年度実績】 購入 0件 寄贈317件 寄託 受入 3件(数百点 整理中) 返戻 1件 イ 調査研究に資する図書・雑誌・展覧会図録等を収集した。 購入 図書・雑誌 50件 館蔵品のアーカイブ化に向けたデータベースの作成と公開(主要作品250件の情報更新)	3
大阪市立自然史博物館	ア 自然史標本の今後の収蔵計画について「大阪市立自然史博物館資料収集方針」を改定し、社会共有の財産である自然史標本を適切に収集し、次世代へ継承するために受け入れ、保存管理する。 イ 収蔵品の増加ペース及び残存収蔵スペースを精査し、大規模改修をにらみつつ、将来にわたる確実な収蔵のために必要な計画を立てる。	ア 「大阪市立自然史博物館資料収集方針」の改訂版を2025年4月に公開した。瀬戸剛シダ植物標本(約2,600点)及び蔵書(250箱)、大阪教育大学移管標本(約2,700点)など新規の寄贈を受け入れた。 大阪府産植物標本のデジタル化などを積極的に進めている。 イ 大規模改修計画の一環として進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 寄贈、購入、寄託などを通じて、展示や調査研究などの活動に有効な作品の収集に努める。 イ 展示や調査研究などの活動に有用な書籍、展覧会図録、研究雑誌などの収集に努めるとともに、インターネットで検索できる雑誌のサイトなどを活用しながら、書庫の有効活用も検討する。	ア 寄贈、購入、寄託などを通じて、展示や調査研究などの活動に有効な作品の収集に努めた。 【令和7年度実績】 ・寄附申出件数 46件(内1件、重要文化財) ・書籍受入 148冊 ・雑誌受入 73冊 ・科研費購入図書 132冊 イ 展示や調査研究などの活動に有用な書籍、展覧会図録、研究雑誌などの収集に努めるとともに、館内において書庫の有効活用について検討を進めた。	3
大阪市立科学館	ア 物理学、化学、天文学、気象学、科学史、科学技術を中心とした分野の新規資料を収集する。 【令和5年度実績】寄贈0件 イ 科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行う。 ウ 当館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行う。 【令和5年度実績】有償提供12件 エ 継続的に図書、研究図書の収集を行う。 【令和5年度実績】研究用単行本50冊、雑誌9誌	ア 大阪・関西万博におけるアメリカ館で展示されていたSLSロケット模型をはじめ、各パビリオンで使用していたデバイス類、13種類の寄贈を受けた。 イ 企画展に向けて、科学における「現象」そのものを展示化するための装置開発・調査研究を行っている。 ウ 当館が持つ資料・展示物画像の有償提供を行った。今年度は、3件 エ 継続的に図書、研究図書の収集を行った。研究用単行本50冊、雑誌8誌 当館所蔵品について、デジタルでのデータベース化をするためのアプリケーション利用の契約を行い、デジタル化に着手した。これまで、館蔵資料データ管理を紙資料やエクセルで管理してきたが、「I.B.MUSEUM SaaS」という収蔵品管理システムを導入し、資料の情報を一元管理できるようにした。このシステムを導入したことで、将来的には、国が進めるデジタルアーカイブ分野横断型統合ポータルサイト「ジャパンサーチ」に連携できる。	4
大阪歴史博物館	ア 歴史・考古・美術・民俗・芸能・建築の諸分野において、購入及び寄贈の受け入れを継続的に行う。 【令和5年度実績】購入0件0点、寄贈280件310点 イ 博物館活動に有効な資料の寄託の確保に努める。 【令和5年度実績】寄託0件0点 ウ 継続的に館蔵資料のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進める。 【令和5年度実績】館蔵資料撮影38カット、マイクロフィルム撮影0カット エ 住民の閲覧に供し、また調査研究に資するため、継続的に図書の収集を行い、年度内を目途にデータベースへの登録を進める。 【令和5年度実績】図書2,702 点	ア 令和7年度は671件1,211点の寄贈を受けた。資料収集は、引き続き収蔵庫の空きスペースを勘案しながら進めることとなる。 (参考)令和6年度実績 購入0件0点、寄贈337件489点 イ 令和7年度は新たに4名の寄託者より17件27点の寄託資料を受け入れた。今後は収蔵可能なスペースを鑑み、特に博物館活動に有効と認められる寄託品の維持に努めることとなる。 (参考)令和6年度実績 寄託品受入れ点数0件0点 ウ 令和7年度は、考古・美術・歴史・建築資料について、38件118カットの撮影を実施した。 (参考)令和6年度実績 館蔵資料撮影38カット エ 図書の受贈数2,080点、購入・その他581点、合計2,661点で、順次、図書データベースへの登録を進めている。 (参考)令和6年度実績 図書2,360点	3
大阪中之島美術館	ア 購入及び寄贈・寄託を通じて、美術館活動に有効な作品収集に努める。 【令和5年度実績】購入20件、寄贈等61件 イ 引き続き、館蔵映像資料や紙資料のデジタル化を進め、その公開に努める。	ア 購入予算や基金・寄附金を活用して館の魅力向上に資する作品を購入した。また寄贈・寄託の積極的な受入れを通じて、館の諸活動に有効な作品の収集に努めた。 【令和7年度実績】購入19件、寄贈等341件 イ 昨年度に引き続き、館蔵映像資料や紙資料のデジタル化を進めるとともに、アーカイブ情報室において積極的に館蔵映像資料や紙資料を公開した。	3
事務局	計画なし	「大阪博」のレガシーとして、大阪歴史博物館において、所蔵のタイムカプセルEXPO'70の3D化等、デジタル化を進めた。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	7

中期計画
イ 資料の充実 **7. 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復** 博物館等資料の保存・継承と、常設展示や企画展示等による効果的な活用を図るため、それぞれの館において優先順位を決め、必要な修復を進める。

法人自己評価	
3	**館においては、資料の状態に応じて必要な修復を判断し、計画的に修復及び展示物の改修を進めた。また、修復した資料を「大阪博」において展示するなど、常設展示への活用を図った。 【主な資料】市立美術館：重要文化財2件、東洋陶磁美術館：李秉昌コレクション韓国陶磁3件3点**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	企画展示での効果的な活用を目指し、館蔵品の修復を計画的に進める。 【令和6年度実績】3件（うち国指定文化財2件） 【令和7年度目標】2件（国指定文化財2件継続）	重要文化財2件を含む計2件の下記所蔵作品について、光影堂（京都国立博物館内）にて保存修理（2カ年目）を実施した。 ・重要文化財「紙本墨画護摩壇様並三十七尊三昧耶形」 ・重要文化財「絹本著色大日如来像」	3
大阪市立自然史博物館	ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進め、現状の状態を確実に記録し、将来の保全に役立てる。同時にデジタル画像の公開を進める。 イ 大山文庫・岸川蔵書などの現状の記録と修復手法について標本委員会等で検討・協議を進める。 ウ 保存科学担当職員の支援を得てIPM管理を推進する。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークよるInnovateMuseum事業が今年度も採択され、植物標本のデジタル化は進んでいる。合わせてデジタル化に関係した科研費が採択され菌類標本関連資料のデジタル化も進んでいる。 イ 引き続き検討を進めている。 ウ 保存科学担当学芸員1名の加入により館内におけるIPM管理の検討・推進を随時進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	特別展やコレクション展等での活用を念頭に、館蔵品の中で優先順位を設けながら、韓国陶磁などの修復を計画的に行う。	優先順位を設けながら、韓国陶磁などの修復を実施した。 【令和7年度実績】 ・李秉昌コレクション韓国陶磁3件3点	3
大阪市立科学館	2025年大阪・関西万博期間を中心とした時期に展開する「大阪の宝」公開に向けて、必要に応じて展示用ケースを用意する等、適切な活用環境を整備する。	当館の「大阪の宝」対象の展示資料20点のうち資料の保存環境を考慮し、貴重本資料4点については、9/9から10/13までの約1か月間1階展示場で展示した。湿度管理保管庫を導入し、貴重本資料等を適切な湿度で管理できるようにした。	3
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料の状態を勘案した修復の短期計画を作成し、優先順位の高いものから修復を行う。 【令和5年度実績】修復0件 【令和7年度目標】修復2件	ア 令和7年度は5件5点の修復を行った。 （参考）令和6年度実績 修復4件4点、修復予備調査1件	3
大阪中之島美術館	館蔵資料の状態を勘案し、優先順位の高いものから修復・額付けを行う。 【令和5年度実績】修復作品6点、額付け作品4点	館蔵品資料について、修復の必要性の高い館蔵品から修復・額付けを行った。 【令和7年度実績】修復作品18点、額付け作品15点	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	8
中期計画 イ 資料の充実 **8. 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管及び将来への継承** 博物館等資料について、収蔵庫等において適正な温度・湿度等の下、防災や防犯にも備えた環境で適切に保管し、将来へ継承する。		

法人自己評価	
3	**各館において計画通りに温湿度管理、IPM、防災・防犯に取組み博物館等資料の適切な管理・保管を行った。またIPM等にかかる研修会への参加を通じて資料の管理等にかかる知識の習得に努めた。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 館蔵品、寄託品を保管・展示する収蔵庫、一時保管庫、1・2階の展示室、3階のアトリエほか、事務所、機械室などバックヤードを含む全館の総合的虫菌害の管理業務(IPM)にかかる長期契約(3年)を締結する。 イ 害虫トラップ、空気環境の調査・分析、清掃、コンサルティングの定期的実施により、新規設備を最適運用するための諸データ収集、防犯・防災システムの定期的点検を実施する。	作品保護のため下記のとおりIPM等を実施した。 ・害虫トラップの設置・分析(歩行性昆虫調査) ・空気環境の調査(年3回)・分析(年2回の空中浮遊菌・付着菌調査) ・常時の温湿度分析、定期的なサーモ調査 ・改修工事引き渡し後のIPMメンテナンス ・館内のゾーニング(土足禁止エリアの設定、粘着マットの設置) ・常設の石仏の清掃、メンテナンス ・清掃 ・防犯・防災システムの点検 ・コンサルティングを含めた月次会議の開催 ・各種IPM研修の受講、文化財保存修復学会の加入	3
大阪市立自然史博物館	ア 収蔵庫内での虫菌害の監視及び温湿度管理を継続的に行う。 イ 入室記録、貸出管理簿による適切な資料の管理を行う。 ウ 防犯・防災システムを定期的に点検し、訓練を実施する。 エ 収蔵庫内の棚転倒防止対策を順次実施する。 オ 西日本自然史系博物館ネットワーク・文化財防災ネットワークなどとの連携による災害対策について標本委員会等で検討・協議を進める。 カ 大規模改修により館屋の耐震性能の向上をはかり、人と物の安全を図る。	ア 継続的に実施しているが、今年度から、保存科学担当学芸員1名の加入で、より包括的に充実した体制で実施することができた。また、毎月定例で全学芸員に報告し、設備担当を含め積極的に館内の情報共有を進めることができた。 イ 継続的に実施している ウ 点検を続けている。防災訓練を2月に実施した。 エ 昆虫標本棚、貝類標本棚など一部の棚で試験的に固定を試みている。 オ 文化財防災ネットワークとの連携に勤めている。 カ 吊下げくじら標本の補強・改修を実施した。特定天井改修計画を推進するとともに、博物館の大規模改修の準備を進めている。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 収蔵庫や展示室等のIPM調査などの虫菌害の監視と対策を実施し、空調システムによる温湿度管理を行いながら、展示ケース内の温湿度調査を行って、適切な収蔵・展示環境の整備・改善に努める。 イ 保管スペース確保のため、資料展示室などを対象とした収蔵庫スペースの拡充についての方策を模索し、令和8年度の改修をめざして、方策について協議する。	ア 温湿度については、各展示ケース及び収蔵庫に設置したデータロガーで収集し、その分析を大阪市立自然史博物館の保存科学担当学芸員に依頼した。展示ケース内の環境調査として、展示室11の鼻煙壷展示ケース内における有機酸及びアンモニアの空気測定も同学芸員と実施した。さらに、令和7年8月からは歩行害虫トラップによる展示室・収蔵庫(資料展示室を含む)の害虫調査を継続している。令和7年11月末から12月初旬の展示替期間には、自然採光展示室(展示室10)及び資料展示室でIPM重点清掃を実施した。また、令和7年度末までに歩行害虫の侵入が疑われる通用ロドアに侵入防止のドアブラシを設置した。 イ 保管スペース確保のため、資料展示室などを対象とした収蔵庫スペースの拡充について協議を行った。その他、令和7年6月17日文化庁主催の「国宝・重要文化財(美術工芸品)防災・防犯対策研修会」(オンライン)に参加し、防災等に関わる取り組みの事例についての報告を聴講した。	3
大阪市立科学館	館蔵品定期検査要綱に基づき、館蔵品の点検を行い、必要に応じて保守、修繕を実施し、館蔵品の健全な保全状態を維持する。	急遽の予算措置に伴い、貴重本などを保管するための湿度管理保管庫を購入・設置し、資料の劣化を防ぐ対応をとった。また、保管庫・棚等の転倒防止措置を施した。	3
大阪歴史博物館	ア 収蔵庫内での虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行う。 イ 出納簿によって収蔵庫からの資料の出し入れを記録する。 ウ 防犯・防災システムを適切に運用する。 エ 新規受入資料の登録を継続的に行う。 【令和5年度実績】燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回 【令和7年度目標】燻蒸方法検討、収蔵庫内生物調査1回	ア 収蔵庫内にてトラップを用いた生物調査を1回、浮遊菌調査を2回実施し、いずれも問題ないという結果を得た。また、エキヒュームSに代わる殺虫処理として二酸化炭素殺虫処理を1回実施した。 (参考)令和6年度実績 エキヒュームSによる燻蒸庫燻蒸2回、収蔵庫内生物調査1回 イ 出納簿を収蔵庫前室に設置し、資料の出し入れを記録した。 ウ 防犯・防災システムおよび空調設備の点検・修理を行い、システムの維持に努めた。 エ 今年度の新規受け入れ資料についてはデータベースへの登録は完了した。統合データベース、登録手続き、館蔵品台帳が連動する企画は継続中である。	3
大阪中之島美術館	ア IPMの考え方に沿って収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視および温湿度管理を継続的に行い、適切な環境の整備・改善に努め、作品保存を行う。 イ 貴重資料や新規に収蔵する資料については、状態を勘案し燻蒸を行うこととする。 ウ 貴重資料等についても同様の処置をするものとする。	ア 館蔵品資料について、収蔵庫や展示室等の虫菌害の監視や温湿度管理を行い、適切な環境の整備・改善を図った。 イ 貴重資料や新規に収蔵する資料の保存状態を勘案し燻蒸を行った。 ウ その他の資料についても、貴重なものについては保存状態を勘案し燻蒸を行った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	9

中期計画	
	イ 資料の充実 **9. ICTを活用した博物館等資料のデジタルアーカイブ化及び有効利用** 博物館等資料のデジタルアーカイブ化、著作権等に配慮したオープンデータ化を推進するとともに、来館の案内や展示解説等にAI技術その他様々な技術を用いた活用を行う。

法人自己評価	
3	**各館とも計画通り博物館資料のアーカイブ化やオープンデータ化を進めた。特に市立美術館では主要作品250件のデータベース化を実現した。また、法人全体で構築したデジタル大阪ミュージアムをジャパンサーチと連携させる準備を進める等、オープンデータ化を精力的に進めた。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館蔵品データベースの画像追加(1,000 件程度)とともに、館蔵品の3Dデジタルコンテンツ(10件程度)を公開し、館蔵品に対する一般の関心を獲得する。 【令和6年度実績】 美術館HP、大阪デジタルミュージアムズにおいて、館蔵品データベースとして、9,791件(画像付842件)公開	館蔵品のアーカイブ化に向けたデータベースを作成し、公開した。 【実績】主要作品250件	3
大阪市立自然史博物館	ア 外部補助金を活用しながら標本のデジタル撮影を計画的に進めることとし、植物から順に記録を行う。 イ 大阪博の館蔵品データベースを活用したジャパンサーチへのデータ提供に向けたデジタル・アーカイブ化等について諸条件を確認し、可能なものから各種補助金を活用して実現を図る。 ウ 研究資料のJAIRO Cloudによる公開を引き続き実施するとともに、未公開の資料についても順次公開を図る。更なる公開流通の方途についても検討、開発を進める。 エ 自然史分野のAI活用に関しての情報収集を進める。	ア 西日本自然史系博物館ネットワークよるInnovateMuseum事業が今年度も採択され、植物標本のデジタル化は進んでいる。合わせてデジタル化に関係した科研費が採択され菌類標本関連資料のデジタル化も進んでいる。(再掲) イ 国立国会図書館と調整、手続き中 ウ 当館Webサイト内「リポジトリサービス」ページにて公開中。J-STAGEを通じた公開も検討中。 エ SPNHC(国際自然史標本保存学会)での活用事例収集を行った。翻訳や推敲を中心に活用中。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 新規寄贈作品の手続き終了後に写真撮影を行うこととともに、展示や調査研究、収蔵確認作業などに対する優先順位を勘案しながら、未撮影の館蔵品に関して継続的に撮影して、アーカイブ化を図る。 イ 館蔵品のオープンデータ化を継続的に進める。 ウ ジャパンサーチと連携しながら、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図る。	ア 新規寄贈作品の写真撮影を行うこととともに、未撮影の館蔵品に関して継続的に撮影して、アーカイブ化を図った。 【実績】 特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」のための撮影:11件、寄贈品:4件 イ 館蔵品のオープンデータ化を進めた。 【実績】飛青磁花生(重要文化財令和7年度寄贈):1件 ウ ジャパンサーチと連携しながら、公開デジタル・アーカイブの利活用促進を図った。	3
大阪市立科学館	ア 館蔵品のデジタル撮影を行い、アーカイブ化を進めるとともに、広報や画像提供サービスに利用する。 イ 展示場の展示物の各解説について学芸員によるYouTube解説映像を計画的に制作する。 【令和5年度実績】撮影件数11件、アーカイブ化10件	ア 「大阪博」Webサイトの大阪コレクションズ・アーカイブのために「大阪の宝」選定の館蔵品17点を撮影し、前年度撮影分に追加して計20点を掲載し、Webサイトで公開した。 公開(アーカイブ化)点数「大阪の宝」Webサイトにて20点 イ 展示解説ビデオを4本公開した。	3
大阪歴史博物館	統合データベースへの登録を推進するため、新規資料撮影等の様々なデジタル化を実施し、既存の資料のアーカイブ化を進める。 【令和5年度実績】アーカイブ化38カット	館の資料情報の統合データベースである資源データベースへの登録を進めるため、38件118カットの資料写真を撮影し、アーカイブ化した。 (参考)令和6年度実績 アーカイブ化38カット	3
大阪中之島美術館	ア 引き続き、未撮影収蔵作品及び新収蔵作品の撮影を計画的に進め、収蔵品データベースにて公開する。 イ アーカイブズ情報室にて、収蔵資料をデジタル化し、その画像をデータベースで公開する。 【令和5年度実績】デジタル・アーカイブ化 911件 ウ アーカイブズ事業の充実のため、アーカイブズ資料やアーカイブズ図書の整理や登録等の業務を継続して行う。	ア 未撮影の収蔵作品や新たに収蔵した作品の撮影を順次進めるとともに、それらのアーカイブズを収蔵品データベースにおいて広く公開した。 イ アーカイブズ情報室にて収蔵資料のデジタル化を図り、その画像をデータベースで公開した。 【令和7年度実績】デジタル・アーカイブ化 395件 ウ 昨年度に引き続き、アーカイブズ事業の更なる充実を実現するため、アーカイブズ資料及びアーカイブズ図書の整理や登録等を継続して行った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	10

中期計画	ウ 施設及び設備の充実 **10. 博物館等の機能維持及び快適な利用環境の確保に向けた施設及び設備の計画的な整備及び改修** 博物館等の機能維持や快適な鑑賞環境を提供し、SDGsなど社会の課題に対する取り組みを実現するため、費用対効果や来館者への影響等も勘案しながら、各館の施設整備の充実を計画的に実施する。 大阪市立自然史博物館では、今後の館のあるべき姿を考え、将来にわたり持続的に発展する博物館として大規模な改修実施に向けて検討を進める。
法人自己評価 **3**	**各館においては、計画に基づき施設整備を進め、館機能の維持に努めた。歴史博物館では、展示室のWi-Fiを活用したスマートフォン対応の多言語ミュージアムガイド(音声ガイド)を導入するとともに、特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」において二次元コードを用いたキャプションを設置するなど、来館者の快適な鑑賞環境の確保に取り組んだ。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修後の館の持つ機能を把握し適切に運営することで、安全性や・快適性の向上を確保する。	本館1及び2F北側展示室にエアタイトで一定の空気環境を維持できる壁面ケースを設置した。特に展示室13には、高さ5mの展示ケースを設け、大きな掛け軸などが展示可能となるよう整備を行った。また、展示室2については、免震装置を導入し、地震や災害から文化財を守る機能を備えた。 あわせて本館新館共に、空調設備を一新させることによって、改修前と比べ、展示室のみならず収蔵庫や執務室の温湿度のコントロールを、より適切に行うことができた。	3
大阪市立自然史博物館	大規模改修による機能強化に向け、予算獲得及び実施に向けた検討を進め、関係各所との対話の機会を確保し、着実に実施を進める。	照明のLED化を実施した。特定天井工事などと連動した現建屋での機能強化について検討を進めた。さらなる改修について博物館機構事務局及び大阪市経済戦略局と相談して進める。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	貴重な作品を安全に管理するための収蔵スペースの整備し、貴重な作品を安全かつ最適な環境で展示・保管するための展示室・収蔵庫の温湿度管理環境の改善の実施を目指す。 ア 作品の安全かつ最適な鑑賞環境の向上のために、展示室の温湿度管理環境の改善をはかり、快適な鑑賞環境の改善のために老朽化したガラスの高透過化・無反射化などの改修に向け準備を進める。 イ 作品の安全な保管のため、収蔵庫スペースの拡充と温湿度管理など、基本環境の改修に向けて事前の検討と計画を進める。	ア 展示室の温湿度測定、ガラス傷確認等実施した。 イ 収蔵庫の温湿度測定を通年実施。また、作品保管環境の向上と保持のため、毎月各収蔵庫の清掃を実施した。	3
大阪市立科学館	ア プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を試行する。 イ QRトランスレーターを使用して、館のリーフレットを15か国語(日本語を含む)に対応させ、海外からの来館者対応を行う。 ウ 館内案内ではJISピクトの使用し、利用者に分かりやす館案内を行う。また、必要に応じて日英文字での表示を行う。 エ サイエンスステージ改修の検討を行う	ア 文化庁の「日本博2.0」事業として、プラネタリウム番組「GALAXY」の英語ナレーションを用意し、副音声で提供した。 イ QRトランスレーターを使用して、館のリーフレットを15か国語(日本語を含む)に対応させ、海外からの来館者対応を行っている。 ウ 館内案内ではJISピクトを使用し、利用者に分かりやす館案内を行っている。 エ サイエンスステージ改修について、課内で検討した。	3
大阪歴史博物館	展示室における適正な展示環境の維持や、照明のLED化に取り組む。また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築を館内部で協議を進める。 ア 老朽化した展示ケースや展示機器、展示照明の状況を把握し、修理や備品類新調など適宜対応する。 イ 展示改修基本計画に基づき、活動の見直しや展示の部分改修へ向けての準備を進める。 ウ 改修した特別展示室の展示ケースの空気環境を維持し、未改修ケースについても可能な限り展示環境の改善を図る。 エ 2025年大阪・関西万博に向けて展示室のネットワーク環境の活用を進める。 オ 公開承認施設として認可される展示環境を維持する。	展示室における適正な展示環境の維持や、照明のLED化を検討し、また、増加する海外からの来館者に対応するための施設整備や、展示場内での情報提供について新たな運用システム構築の協議を進めた。 ア 大半の展示ケースが抱えている展示用蛍光灯及び10年以上前に交換したLEDの劣化問題の解消のためLED化について検討を進めた。 イ 映像機器の経年劣化による故障に対しては、随時、修理等の対策を実施した。常設展示室ではシステムが古く活用の目途が立たなくなった展示情報端末を撤去した。DVDで稼働していたモニター再生機4台をSDカード式に変換した。 ウ 特別展示室の空気環境については、展示を実施していない期間は展示ケースを開放し、扇風機で換気を行っている。さらに、展示改修基本計画報告書にもとづき、LED照明を最優先に部分的改修を実施できるよう検討した。 エ 展示室のWi-Fiを活用し、スマートフォン対応の多言語ミュージアムガイド(音声ガイド)を実施した。令和7年度の特別展「日本刀1000年の軌跡」、特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」では、二次元コードを用いたキャプションを設置した。 オ ケース内の空気環境が改善したことを受け、令和7年3月に承認を受けた。引き続き良好な展示環境の維持のため、特別展示室でのケースの換気を実施した。	3
大阪中之島美術館	利用者サービスの更なる向上を図るべく、令和8年度の導入に向けてチケット販売・受付に関するシステム・設備の更新を進める。	利用者サービスの更なる向上や館運営にかかる機能強化を目指し、チケット販売・受付に関するシステム・設備の選定作業を鋭意進め令和8年度の導入・本格実施を実現した。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (1) **各種活動の基盤をなす専門的人材及び博物館等資料の充実並びに施設及び設備の整備** 各館の各種活動の発展及び継承並びに大阪における文化資源の蓄積を図るため、専門的人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の適切な整備に取り組む。	中項目No.	1
	小項目No.	11

中期計画	
	ウ 施設及び設備の充実 **11. バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設及び設備の計画的な整備・改修** 特に改修を進めている大阪市立美術館及び大阪市立科学館において、高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性の向上を図るため、バリアフリー化を推進するとともに、さまざまな利用者を念頭に、ジェンダーに配慮するなどユニバーサルデザイン化を推進する。

法人自己評価	
3	**各館においては、SDGsに配慮した施設整備を計画的に推進した。市立美術館では適切な場所に身障者用トイレを新設した。また、自然史博物館では、花と緑と自然の情報センター1階のレイアウト変更に伴う点字ブロックの更新について整備の方向性を整理した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	エレベーターの設置、身体障碍者用トイレの新設等、バリアフリー化した施設を適切に活用することで、来館者の利便性の向上を確保する。	本館1Fから3F及び新館に身障者用トイレを新設した。また本館2Fを除くすべての箇所に介助ベッドを設置し、オストメイト対応とした。さらに各身障者用トイレのサインには、触覚地図を設けるとともに、来館者の意見を反映しサインの変更を行い視認性を向上させた。	3
大阪市立自然史博物館	ア 花と緑と自然の情報センター2階のトイレについてバリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した改修を行う イ 大規模改修の中でのハードウェア的な改善を目指すとともに、運用による改善が可能な項目についての検討を進める。 ウ 特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。	ア 改修工事完了。 イ 花と緑と自然の情報センター1階のレイアウト変更に伴う点字ブロックの更新については、指定管理業者であるわくわくパーククリエイト㈱※と設置案を協議。整備については令和8年度以降となる見通し。(※で予算化の上、工事実施) ウ 令和8年4月末に盲導犬を連れた大型団体様の受入が確定。(盲導犬10頭、被介助者10名、介助者10名の予定)館内の触察案内図と建物の模型を用いた事前レクチャーや館内集会室での昼食、学芸員による展示案内を行う中で、視覚障がいをお持ちの方の博物館観覧に関するニーズヒアリングを行う計画を進めた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	カフェ入口へ続くスロープ、転回スペース、店内の通路幅は、ベビーカー、車椅子がゆとりをもって通れる十分な幅を確保した上で利便性の向上に努める。	カフェ入口へ続くスロープ、転回スペース、店内の通路幅は、ベビーカー、車椅子がゆとりをもって通れる十分な幅を継続して確保している。ショップを含めて、利便性向上に寄与した。また(公財)日本博物館協会から一般財団法人宝くじ協会助成事業において寄贈を受けた車いすを館内で活用した。	3
大阪市立科学館	ア 施設管理課と調整の上、第2期中計画期間中(令和9年度頃)予定をしている展示場各階のトイレ改修についての事前調査を始める。	館内照明のLED化及び、非常用発電機、防火シャッターについての修繕計画について、施設管理課と打合せを行った。また、科学館外壁工事を来館者への影響がないように工事方法を調整し、7月から実施し3月末で完了した。	3
大阪歴史博物館	ア 2023年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき館内の充実を図る。 イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭においてユニバーサルデザイン対応を進める。 ウ 震災・火災等の非常時の案内について、様々な来館者に対応できる方策を情報収集し館内で協議を進める。	ア 令和5年度に認定された「観光庁／観光施設における心のバリアフリー認定制度」に基づき、耳マークを設置し筆談対応を実施。既に設置していた車椅子についても更新を行った。また、ベビーカーの貸出しなど館内の充実を図った。 イ 海外からの来館者など様々な利用者を念頭におき、ホームページに7か国語での館概要の紹介を行うほか、「やさしいにほんごによるごあんない」ページを設け、ユニバーサルデザイン対応を進めている。特別展「正倉院 THE SHOW」では英語表記での案内を掲示した。 ウ 2024年度に取りまとめたBCP(事業継続計画)をもとに法人全体の取り組みを踏まえて館内で検討した。	3
大阪中之島美術館	多様な利用者の利便性の向上に資するべく、展覧会開催時の案内等の整備・充実を図る。	各展覧会開催時における案内・誘導等に関して、外国人利用者を含めた多様な利用者にとってわかりやすい環境整備・充実を図った。また多くの来館者の利便性に寄与すべく待機列の解消等のため、館内誘導等を積極的に行った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	12

中期計画	**12. 2025年大阪・関西万博のレガシーを継承した展示等の実施** 「大阪博」により得られたノウハウや知見、及びWebシステム等を継承し、活用する。 アーカイブ化等の手法を用いて、「大阪の宝」のデータベース等をレガシーとして継承し、各館の展示等への活用を行う。

法人自己評価	
4	**大阪・関西万博にあわせて開催した「大阪博」において開設したWebサイト「デジタル大阪ミュージアム」で、「大阪の宝」120点を掲載するとともに、各館が連携してこれらの資料を展示し、各館や大阪の魅力発信を図った。 また、各館においては万博関連事業で作成した収蔵品データ等を活用し、魅力向上に取り組んだ。市立美術館では大阪・関西万博で展示されたイタリアの至宝を公開する「天空のアトラス展」を開催したほか、科学館では大阪・関西万博アメリカパビリオンの「SLSロケット模型」やドイツパビリオンの「サーキュラー」等、万博関連資料を受け入れた。 さらに、歴史博物館では1970年万博で埋納された「タイム・カプセルEXPO'70」について三次元データ化および公開を行い、東洋陶磁美術館では「五大陸の石」の展示に向けた受け入れ準備を進めるなど、万博のレガシーを継承した展示等の実施により各館の魅力向上に活用した。 【実績】天空のアトラス展:227,087人(目標:104,000人)**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	「企画展示」において「大阪の宝 」を紹介する。(館蔵の優品20件展示)また館蔵品データベースへの画像を追加し(1,000件程度)3Dデジタルコンテンツ(10件程度)を公開する。	「大阪の宝」選定の作品を、当館企画展示内で展示した。また、大阪・関西万博のイタリア館で展示されていた文化財を万博のレガシーとして展示する特別展「天空のアトラス」を開催し多くの来館者を迎えた。 【実績】目標数値:104,000人 実績:227,087人	4
大阪市立自然史博物館	以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを継承する準備を進める。 ア デジタル資料の充実を生かしたコンテンツ展開を大阪博と連動して行う。 イ 当館と接点を持つ万博会場内外での出展者の展示や活動に必要な協力を提供し、同時に当館でのレガシー継承に心がける。	大阪・関西万博期間内に開催された以下の取組により、大阪・関西万博のレガシーを理念的に継承する準備を進めている。 ア デジタル資料の充実を生かしたコンテンツ展開を「大阪博」と連動して行う。ナガスクジラを展示するポーチにはARに誘導する二次元コードを設置した。 イ 当館と接点を持つ万博会場内外での出展者の展示や活動に必要な協力を提供し、同時に当館でのレガシー継承に心がける。花と緑と自然の情報センターでのフランスリール市による関連展示、9月15日にはIUCNやWWFとの共催による万博関連シンポジウムを開催した(参加235名同時オンライン視聴者含む)。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	2025年大阪・関西万博期間に開催する特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」において館蔵品を中心に構成し、優れた館蔵品を十分に活用した展示を行う。また、大阪博で選定した「大阪の宝」20点に関しても、大阪・関西万博期間は特別展とコレクション展において、全作品をリアル展示を行うとともに、今後の作品展示にも、こうしたレガシーを継承した展開を図る。	大阪・関西万博で開催された「Love Stone Project EXPO2025」において、彫刻家・冨長敦也氏が制作し、24の国と地域の7,400人を超える人々により磨かれた「五大陸の石」について、大阪石材工業株式会社から寄贈を受け、エントランス棟南側敷地に設置した。また、大阪・関西万博のレガシーとして、大阪・関西万博の記憶と理念を継承するとともに、新たな展示資源として活用することで、当館の魅力向上および来館促進を図っていく準備を進めた。 また大阪・関西万博開催記念の企画として「大阪の宝―MOCOの宝20選」の開催と関連コンテンツ(油滴天目AR)を展開しキャプションに加え、二次元コードパネルによる「デジタル大阪ミュージアムズ」Webサイトとのリンク付けする等の取組を行った。	4
大阪市立科学館	「大阪の宝」で選定した資料をはじめ、当館所蔵の資料の情報をオンライン等で積極的に発信する。	「大阪の宝」について、展示情報や資料の紹介を、当館広報・館長・学芸員公式「X」や月刊『うちゅう』、館内チラシ等を通じて広報を行った。8月29日には、NHKラジオにおいて、当館の「大阪の宝」展示について、主任学芸員が生出演し、関西圏に放送された。また、昨年度に撮影した「大阪の宝」の資料写真を、広報等に活用した。	3
大阪歴史博物館	2025年大阪・関西万博における「大阪博」コンテンツを充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進める。	・大阪・関西万博開催に伴い、「大阪博」のコンテンツを充実させ、画像や解説についてアーカイブ化を進めた。また、1970年万博の際に埋納された、近現代の「大阪の宝」であるタイム・カプセルEXPO'70の三次元データ化を進め、「Sketchfab」上で公開した。 ・「大阪博」関連展示として、特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」を開催し、関ケ原合戦図屏風の超高精細画像を拡大モニターで展示、明王贈豊太閤冊封文の現代語訳の音声を公開した。また、特集展示「オープン the タイムカプセル」や「YABU MEIZAN」でも、イベントやWebサイトを通じて作成したデジタルデータを公開した。	3
大阪中之島美術館	「大阪博」の実施に向け各館と連携を図り、コンテンツの充実を目指す。	「大阪博」において選定した20点の「大阪の宝」をデジタル大阪ミュージアムにて公開した。 また、引き続きアーカイブズ事業の充実の更なる充実を実現するため、アーカイブズ資料及びアーカイブズ図書の整理等を行った。 【アーカイブ情報室活動実績】 開室日:計203日間 予約閲覧利用者:計67名 レファレンス対応:計90件 デジタルコンテンツ:公開資料数 7,105件(追加:395件、更新:10件)	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	13
中期計画 **13. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者への鑑賞機会の確保** これまで受け継いできた各館が所蔵するコレクションの魅力を伝えるための常設展示について、次の方針のもと、その充実を図る。		

法人自己評価	
4	**各館が所蔵するコレクションを用いた企画展示を実施し、魅力の発信を図るとともに大阪の都市魅力の向上を実現した。 大阪・関西万博開催による学校の遠足利用の減少があったが、インバウンドを含めた観光客の増加等の好影響もあり、特に科学館では、目標を大きく上回まわるなど、6館では、目標数を超える来館者を迎えた。 【実績】常設展6館合計 1,800,521人(目標:1,713,260人)**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を多彩な作品ジャンルから企画する。東アジアの美術・歴史・文化に特化したテーマによる「特集展示」も開催する。 【令和7年度目標】 中国石仏・カザールコレクションの常設化、特集展示「売茶翁と花月菴」(仮称)の開催、「企画展示」の300日開催、有料入館者数35,000人 (特別展有料入館者400,000人除く)	令和7年度の企画展示として、南2階で4月1日～6月15日に「中国の彫刻」ほか2展(51点)、南1階で7月5日～8月1日(117点)、8月23日～9月28日に「アジアの彫刻」ほか2展(122点)、北1階で8月2日～9月15日に「絵になる人々」ほか3展(53点)、9月20日～10月19日に「売茶翁から花月菴展」(134点)などの企画展示を実施し、所蔵するコレクションを積極的に展示した。 【令和7年度実績】 有料 30,628名 無料 691,959名 ※特別展チケット持参者を含む 合計 722,587名	3
大阪市立自然史博物館	常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示などで、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信などデジタルメディアを活用して展示品の背景情報についても伝えていく。 ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催する。 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。	ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施した。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催し、多くの収蔵品を紹介した。自由研究展示は「学芸員のおしごと」展の中で展示した。来場人数としては、遠足利用が万博へと流れたことなどが影響し、計画値に1割ほど届かなかった。野心的な目標には至らなかったものの十分高い来館者数に資料を公開できたと考えている。 ・4/12(土)～6/15(日)「大阪の宝 第一期」(一部は前年度3/11より開始) ・7/5(土)～10/13(月・祝)「大阪の宝 第二期」 ・4/1(火)～6/29(日)ミニ展示「植物の標本を使って研究する」 ・9/9(火)～10/13(月・祝)ミニ展示「東アジアのカラスアゲハの仲間」 ・7/19(土)～8/31(日)テーマ展示「種類の多さ日本一！？琵琶湖・淀川のドジョウたち」 ・10/18(土)～11/16(日)テーマ展示「化石を楽しむ2025」 ・1/6(火)～1/25(日)新春ミニ展示「午年展」～ウマにちなんだいろいろな標本～ 【令和7年度常設展来館者数実績 実績/計画、 266,503人/297,960人】 イ 子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。36回実施し、2,198人が参加した。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組について助成事業を活用して植物園来場者誘客用動画、展示品紹介コンテンツ12編などを作成した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	安宅コレクションや李秉昌コレクションなどの、国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的なレベルの館蔵品に対して、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成など、多様な切り口から鑑賞できるようにする。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」(目標来館者数:71,300人、実績:45,022人)で館蔵品を利活用した展覧会を開催した。 特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」(目標来館者数:26,100人、実績:16,953人)で館蔵品を利活用した展覧会を開催した。	2
大阪市立科学館	物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を確認できる体験型展示を行う。 また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。 ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【令和5年度実績】常設展示入場者 234,629人 【令和7年度目標】常設展示入場者428,000人 イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置する。 ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。 エ 企画展示コーナーにおいて、企画展などで所蔵コレクションを公開する。	ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、また来館者の前で実際の科学の現象をサイエンスショーなどの演示をとおして紹介、解説している。 【令和7年度実績】 入場者数 460,985名(1989年の開館以来の最高を更新) 有料観覧者率は目標55%に対して64.7%(目標比118%)、観覧料は予算比の126%。 (参考)令和7年度目標 常設展示入場者428,000名 イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置し、来館者に対し、科学の理解を深めてもらっている。今年度は、EXPO2025大阪・関西万博のアメリカ館で展示されていたSLSロケット模型を寄贈されたことうけ、4階展示場に常設展示を行った。 ウ 今年度よりサイエンスショーを毎回異なる実験内容で、演示をしている。 エ 企画展「プラネタリウム100年(4/22～6/29)」、「大阪の宝」の貴重書展示「科学館資料で見る科学のあゆみ(9/9～10/13)」を実施し、「大阪の宝」を含めた所蔵コレクションの展示、公開を行った。また、常設展示している「大阪の宝」資料については、「大阪博」のコンテンツに誘導するための掲示を行い、資料の魅力を伝えている。「静電気の世界展(12/5～2/8)」においても、当館所蔵の貴重本を公開し、「万博体験のパートナー、手持ちデバイス展」でも、ドイツ館のサーキュラーなど当館に寄贈を受けたり借用したデバイス類13種類を公開した。	4

大阪歴史博物館	第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。展示更新を継続的に行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。 ア　古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などを通じて展示する。 【令和5年度実績】常設展示入場者243,229 人 【令和7年度目標】常設展示入場者360,000 人 イ　最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。 【令和5年度実績】テーマ展示1回、展示更新39回 【令和7年度目標】テーマ展示2回、展示更新30回 ウ　館蔵資料及び市内出土の考古資料等を紹介するため、5本の特集展示を実施する。 ・オープン the タイムカプセル　4/16～6/23 ・新収品お披露目展　6/25～9/1 ・YABU MEIZAN　9/3～11/3 ・デザインの玉手箱・鐔　11/5～1/12 ・郷土玩具が好き―風土と造形の愉しみ―　1/14～4/7 エ　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。 オ　個人端末による音声ガイド（多言語）を活用し、展示の理解度を高める。 カ　常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。	【令和7年度】 常設展示入場者288,471人 ア　常設展示の更新は63件を実施した。また、両替商の道具の露出展示を行うなど、体感的な展示を実践した。さらに、考古学体験ゾーンの一部を、ボランティア監視員の配置を前提に再開し、活気ある展示空間を実現した。 イ　季節や時宜に応じた展示を目指し、7月には天神祭に関する展示を常設展示9階で実施した。 ウ　特集展示は予定している下記5本を実施した。特に郷土玩具の展示は、当館開館後初めてのまとまった展示機会となり、当館が所蔵する郷土玩具の魅力を新たに引き出す機会を提供した。 ・オープン the タイムカプセル　4/16～6/23 ・新収品お披露目展　6/25～9/1 ・YABU MEIZAN　9/3～11/3 ・デザインの玉手箱・鐔　11/5～1/12 ・郷土玩具が好き―風土と造形の愉しみ―　1/14～4/6 エ　キャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物（考古学体験ゾーンの解説等）については四か国語のリーフレットを整備した。 オ　スマートフォンを用いた多言語対応のミュージアムガイドを運用し、様々な国籍の方、視覚・聴覚障害のある方にも展示解説を提供した。 カ　常時体験できる文楽人形かしらメカや、土器の立体パズルを展示し、拓本体験と両替商体験を月1回交互に実施した。実際の展示物を展示空間内で触る体験を提供した。	3
大阪中之島美術館	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。 ア　年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ　4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	万博開催年度において、国内外から来阪した多くの来館者に対し、館所蔵コレクションの鑑賞機会を拡充する成果を上げた。具体的には、「大阪博」の開催に合わせ、当初予定になかった「小出楢重展」開催時に特別コーナーを新たに設置し、代表的な所蔵コレクションを効果的に展示することで、来館者サービスの向上とコレクション発信の強化を実現した。 ア　年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備を進めた。 イ　4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を進めた。	4

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	14
中期計画 **14. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者への鑑賞機会の確保** 自主企画による展覧会等についても、コレクション等を活かし、来館者が求める企画の実現に努め、各館の魅力向上につなげる。		

法人自己評価	
3	**市立美術館においては、日本国宝展や根来展において所蔵コレクションを活用した。また、科学館においては1階展示スペースを活用し、企画展を年8回実施することで、最新の話題や科学に関する知見を広く市民に発信した。 さらに中之島美術館においては、万博開催年度であることを契機として、代表的な所蔵コレクション6点を「大阪の宝」に選定し、小出楢重展の開催時に無料で観覧できるよう展示を行い、来館者の鑑賞機会の確保を図った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	日本と中国の美術を中心とする館蔵品の特性を活かすとともに、国内外のさまざまなジャンルの優れた作品に注目した自主企画による特別展、及び新聞社・テレビ局など他機関と協働した特別展を開催する。 【令和7年度目標】 新指定の館蔵国宝作品を公開する 「日本国宝展」 目標有料入館者数 200,000人 館蔵・寄託の漆工作品をまとめて公開する 「NEGORO根来ー赤と黒のうるし」展 目標有料入館者数 15,000人	自主企画の特別展として、4月26日～6月15日に「日本国宝展」、9月20日～11月9日に「NEGORO 根来－赤と黒のうるし」を開催した。特に「日本国宝展」においては目標を大幅に超える来館者を迎える等、都市の賑わいの創出に貢献した。 また根来展については広報印刷物のメイン画像に館蔵品(田万コレクション)を掲載し、大阪会場の広報印刷物が2025年度タイポグラフィ年間を受賞した。 【実績】 日本国宝展 ・目標来館者数:250,000人 ・来館者数:278,864人 根来展 ・目標来館者数:30,000人 ・来館者数:13,809人	4
大阪市立自然史博物館	学芸員の研究や住民との協働研究に根ざし、大阪の自然の新たな一面や資料の新たな価値を紹介する特別展を開催する。展示だけでなくオンライン配信やSNSの展開と合わせ、その価値を広く住民と共有できるものとする。 ア 昨年度に引き続き「貝に沼る展」を開催する。また年度後半には「学芸員のお仕事展」を開催し、これらの特別展で学芸員の研究に根ざした展示及び解説を行う。同時にマスコミと連携した巡回展示においても、必要に応じ当館の資料を活用していく。 イ 学芸員の専門、特別展の内容に則した「自然史オープンセミナー」を開催する。	ア 「貝に沼る」展は関連分野の研究者を含め、高い評価を得て開催された。期間を通じた入館者は12,321人と目標の14,390人に達しなかったものの有料入館者数については計画6,390人に対し実績6,854人と計画を上回った。 「学芸員のおしごと」展は目標19,230人に対し8,721人と大きく下回った。どちらの特別展も、遠足需要が万博に流れたことにより子どもの入館者(無料)が目標を下回ったことが原因である。(貝展で2,500人減、おしごと展では9,961人減) 一方で、高校生・大学生を含む有料来館者は比較的堅調であり、ギャラリートークの参加者も多く、研究成果は十二分に発揮されたといえる。 イ 自然史オープンセミナーは特別展講演会など他の講演会の体裁をとったものも含めほぼ毎月実施した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	学芸員の調査研究の成果をもとに、コレクションを最大限活用しながら、国内外の美術館・博物館などと連携しつつ、当館の特徴を活かした魅力ある独自企画の特別展を開催する。 ア コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。 【令和7年度目標】 ・特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」71,300人 ・特別展「蔵出しコレクション―安宅・李秉昌コレクションとともに―」26,100人 イ 海外の美術館・博物館と連携して、当館コレクションを活用した充実した企画の展覧会に作品を貸与してゆくなど、当館のコレクションの魅力を諸外国へも発信する。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」(目標来館者数:71,300人、実績:45,022人)における国宝「飛青磁花生」をはじめとしたコレクションを利活用した展覧会を開催した。 急遽寄贈されることとなった重要文化財「飛青磁花生」及び「青磁双耳花生」についても、早急に寄贈書類を整えて10月中に手続きを済ませ、11月中に特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」に出品・展示することができた。 特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」(目標来館者数:26,100人、実績:16,953人)における、松惠コレクションをはじめとしたコレクションの利活用。 海外の博物館からの館蔵品の出品依頼が1件あり、承諾した。	2
大阪市立科学館	プラネタリウムの投影を特別展と位置づけ、年4回テーマを変え公開する。また、館蔵品や調査研究成果を活用した企画展(年3回程度)や、博物館、大学及びその他団体等、地域の多様な主体との連携による展示などを実施する。 ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、適宜「学芸員スペシャル」等の特別プログラムを実施する。 【令和5年度実績】プラネタリウム入場者数203,719 人 【令和7年度目標】プラネタリウム入場者数337,000人 イ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするプログラムを開発する。 ウ 企画展「万博で夢見たサイエンス展」、「プラネタリウム100年」、「極限時空・ブラックホールと重力波展(仮)」、「MIRAI－Bit展(仮)」、「静電気の世界(仮)」を実施し、市民の科学への興味を喚起する。	ア プラネタリウムの新プログラムを3か月に1本制作・投影するほか、土日祝日等に「学芸員スペシャル」の特別プログラムを実施する。入場者数 330,239名 (参考)令和7年度目標 プラネタリウム入場者数337,000名 イ プラネタリウムや展示等の各種事業において学芸員の専門性を生かし、幅広い年齢層にアピールするため、プラネタリウムでは、土日祝のプラネタリウム最終投影で、「学芸員スペシャル」を行って、学芸員の専門的な内容を投影内容に反映している。 ウ 企画展は、「万博で夢見たサイエンス展(～4/6)」、「プラネタリウム100年(4/22～6/29)」、「極限時空・ブラックホールと重力波展(7/19～8/31)」、「MIRAI－Bit展(9/6～10/5)」、「科学館資料で見る 科学のあゆみ(9/9～10/13)」、「静電気の世界展(12/6～2/5)」を開催、また、世間の関心に応えるため当初計画になかった「野辺山天文台展(10/15～11/24)」、「万博体験のパートナー、手持ちデバイス展(2/19～)」を臨機に開催し、最新の話題や深堀した科学の話題を市民に提供し、来館動機を高めたり、普及を図った。企画展実施回数8回。	4

大阪歴史博物館	国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催する。 ア　自主企画による特別展を1本実施する。 ・「全日本刀匠会50周年記念　日本刀1000年の軌跡」目標来館者数29,200人 【令和5年度実績】特別展示室の改修により開催実績なし イ　常設展示枠内で特別展示室を活用し、特別企画展を2本実施する。 ・「大阪市博物館機構連携企画　大阪の宝 in 大阪歴史博物館」（自主企画） ・「河内源氏と壺井八幡宮」（自主企画） 【令和5年度実績】「異界彷徨―怪異・祈り・生と死―」（自主企画）	国内外の博物館やコレクター、大学、新聞社・テレビ局などと連携し、館蔵品を活かした自主企画展を開催した。 ア　自主企画の特別展「日本刀1000年の軌跡」（4/4～5/26）を、全日本刀匠会、合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会、株式会社テレビせとうちクリエイトと開催した。館蔵品及び外部資料を約80件展示し、日本刀100年の軌跡とともに現代作品を併せて紹介する独自の構成で22,495人の来場者を得た。 （参考）令和6年度実績 特別展「大化改新の地、難波宮」（自主企画） イ　自主企画の特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」（9/13～10/13）を開催した。大阪・関西万博開催期間の時機をとらえて、博物館と収蔵資料の魅力を広く発信することができた。年度後半には特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」（1/16～3/15）を開催した。壺井八幡宮の社宝と河内源氏に関する館蔵資料等をあわせて展示し、好評を博した。 （参考）令和6年度実績 特別企画展「おおさか街あるき―キタ・ミナミ―」 特別企画展「発掘！大人たちの蔵屋敷－「天下の台所」に集う米・物・人－」	3
大阪中之島美術館	大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展を実施する。 館の特色を活かした特別展や、時代や社会のニーズにあった広い視点を持った特別展を実施する。 ア　コレクションの研究成果を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施する。 イ　海外の美術館・博物館と連携して、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施する。	万博開催年度であることを契機に、代表的な所蔵コレクション6点を大阪の宝に選定し、小出楢重展開催時に無料で観覧できるよう展示を進め、来館者の鑑賞機会の確保を実現した。大阪の美術館として地元大阪で育まれた美術に関する特別展「Osaka Directory」を関西・大阪21世紀協会とともに実施した。 館の構造・附帯設備を活かした特別展や、時代や社会のニーズ等を勘案した特別展を実施した。 ア　研究成果等を踏まえ、コレクションを活用した特別展を企画・実施した。 イ　海外の美術館との連携を図り、コレクションを活用した独自企画の特別展を実施した。 【Osaka Directory実績】 ・10 Supported by RICHARD MILLE　金 光男 令和7年11月15 日～ 12月14日　来場者：5,417人 ・11 Supported by RICHARD MILLE　天牛 美矢子 令和7年12月20日～令和8年1月18日　来場者：13,891人 ・12 Supported by RICHARD MILLE　和田 真由子 令和8年1月24日～2月23日　来場者：8,058人	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No. 小項目No.	2 15

中期計画	**15. 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長** 2025年大阪・関西万博を契機として、マーケティング・リサーチにより把握した来館者のニーズを踏まえて、来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長を計画的に進める。 具体的には、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館においては、夜間開館を2024年度に試行実施し、大阪市立美術館を含め3館は2025年大阪・関西万博期間中に本格実施していく。 それらの検証結果を踏まえ、2026年度以降に最適な開館時間の延長を実施できるよう計画的に進めていく。
法人自己評価 **4**	**大阪・関西万博を契機として、各館において利用者サービスの向上に向けた取組を実施した。** **市立美術館および中之島美術館では適切な日時における開館延長を実施し、東洋陶磁美術館では中学生以下及びその保護者を対象とした臨時開館を行った。また、科学館ではプラネタリウムの追加投影を実施し、利用機会の拡充を図った。** **さらに、歴史博物館では大阪迎賓館とのタイアップによるナイトツアー開催にあわせて開館延長を実施するなど、柔軟な開館時間の確保に取り組んだ。** **【主な実績】(市立美術館)・日本国宝展:13日 ・ゴッホ展:14日 ・天空のアトラス展:23日 ・企画展示:51日** **(中之島美術館) ・日本美術の鉱脈展:16日 ・ルイ・ヴィトン展:23日 ・小出楢重展:4日**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、2025年大阪・関西万博期間中に、夜間開館対応を実施して来館者利便性向上を実現する。	利用者サービス向上のため、「日本国宝展」、「ゴッホ展」及び「天空のアトラス展」期間中において2時間の開館時間の延長を実施した。 【実績】 ・日本国宝展:13日 ・ゴッホ展:14日 ・天空のアトラス展:23日 ・企画展示:51日	4
大阪市立自然史博物館	ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。 イ 観察会や講演会などを伴った特別な付加価値を持ったイベントとして、ナイトミュージアムの開催等について検討と試行を行う。	ア 巡回特別展は共催者の意向により夜間鑑賞は実施しなかった。独自主催特別展では友の会等向けの夜間展示鑑賞【11月1日、72人参加】の企画を試行実施した。 イ 友の会とともにナイトミュージアム事業の試行を行った。【7月26日、135人申し込み、抽選の結果47名参加】	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 光の饗宴開催期間中の令和7年12月19日に夜間開館を実施する。 イ 中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを令和7年8月4日開催する。 ウ マーケティングによるニーズ把握をおこなっており、開館日や各種のイベントにも反映する。GW中の令和7年4月28日、お盆期間中の8月12日は、祝日の翌日であるが通常開館とする。	ア 光の饗宴開催期間中の12月19日に夜間開館(17:00～19:00)を実施。館長による特別講座を開催した。(参加者68名) イ 8月4日に中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリースペシャルデーを開催し家族連れのお客様が安心して鑑賞できる機会を提供した。【来館者数:70名】 ウ GW中の令和7年4月28日、お盆期間中の8月12日は、祝日の翌日であるが通常開館した。	4
大阪市立科学館	多数の来館者が見込まれる土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行いオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。	来館者が多い毎土・日・祝日並びに8/12～15の多客期にプラネタリウムを17時から追加投影し、通常のプログラム番組と異なる学芸員の専門性を活かした投影内容の「学芸員スペシャル」を実施している。これにより多数の来館者の対応、並びに紹介する科学知識についてややレベルの高い専門的内容の話題を提供している。	3
大阪歴史博物館	過去の実績データなどを含めたマーケティング・リサーチに基づき、特別感のあるコンテンツとして夜間開館や貸切開館などを実施する。	ア 令和6年度など過去の取組実績のデータや費用対効果などを勘案し、夜間開館延長は実施しなかったが、特別展「正倉院 THE SHOW」では夜間貸切開館を実施した。 イ 大阪迎賓館と連携して7/31・8/8にナイトツアーを実施し、ツアー参加者向けに開館時間を30分延長した。	3
大阪中之島美術館	来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期間の特別展において、開館時間延長を実施する。(予定:計22日間)	来訪者や地元市民の来館機会を拡大すべく、夏期に実施した「日本美術の鉱脈展」「ルイ・ヴィトン展」「小出楢重展」開催中の金曜日、土曜日及び祝前日において開館時間の延長を行った。 ※延長時間:2時間(17:00～19:00) 【実績】 開館延長時間の延べ来館者数 計7,513人 ・日本美術の鉱脈展 16日 1,111人(1日平均:69,4人) ・ルイ・ヴィトン展 23日 6,331人(1日平均:275,2人) ・小出楢重展 4日 71人(1日平均:17,8人) 「日本美術の鉱脈展」関連イベントとして、親子連れが休館日の展示室をゆったり鑑賞できる特別開室を実施(8月18日開催)し、家族連れの利用者が快適に鑑賞できる機会の創出を実現した。	4

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	16

中期計画	**16. 博物館機構一体としての各館の連携事業等の実施** 6館一体で実施する「大阪博」や各館学芸員による講座など博物館機構一体としての連携事業のほか、複数の博物館等が連携・協働した企画展・特別展を実施する。 複数の博物館等が共同して外部資金等を獲得し、各館の枠組みを超えた調査研究を実施する。

法人自己評価	
3	**「大阪博」においては、Webサイト「デジタル大阪ミュージアム」を開設し、「大阪の宝」120点をWeb上で展示・紹介するとともに、各館の常設展及び特別展等においても同資料を展示した。 また、大阪公立大学との包括連携協定に基づき、大学における講義やミュージアム連続講座、博学連携シンポジウム等へ計画どおり出講した。 さらに、大阪商工会議所との包括連携協定に基づき、「なにわなんでも大阪チャレンジ」への作問や「チェンバーカレンダー2026」の作成に参画するなど、連携事業を推進した。 【令和7年度実績】 講義提供数:41コマ、なにわなんでも大阪チャレンジ:3回実施、チェンバーカレンダーへの館蔵品データ提供数:12件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 本法人が開催する大阪博において、企画展示で当館の大阪の宝20点を公開する。 イ ミュージアム連続講座等、本法人の連携事業に学芸員が出講する。	ア 本法人が開催する大阪博において、大阪の宝20点を選定し企画展示において公開した。 イ ミュージアム連続講座等へは企画上、学芸員が出講しなかった。	3
大阪市立自然史博物館	ア 連続講座や大阪博事業に積極的に関与する。 イ 共同した外部資金獲得の可能性について積極的に情報収集し、公開の場であるべき姿の議論を進める。 ウ 全国博物館大会の大阪大会開催にあたり、博物館の課題を公開で議論・共有する。	ア 連続講座には主任学芸員が参加講演した。「大阪博」事業にもメンバーとして参加、展示を実施した。このほか、本法人の学芸員向け共同研修にて当館を会場として提供、取り組みを紹介した。 イ 法人内部に限らない共同研究同様、様々な資源を持っている法人内部での共同研究の可能性について、個々に検討している。3Dスキャニングなどについて情報交換しているほか、当館で行った3Dプリンタ研修に本法人の科学館・美術館学芸員が参加した。地方独立行政法人制度についての検証の研究会の必要性を検討している。 ウ 博物館大会では自然史と事務局で兼務の実行体制を作り、法人内から合計4名の演者などを出したほか、プログラム運営で貢献した。また、大会の成果も『博物館研究』誌に館長・学芸課長が執筆した。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 本法人所属の各館と連携しながら「大阪博」を開催し、事務局とともにコレクションの魅力を多角的にPRしていく。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に大阪中之島美術館や科学館とともに参加し、連携事業や共同広報を推進する。	ア 大阪・関西万博開催記念の企画として「大阪の宝―MOCOの宝20選」の開催と関連コンテンツを展開した。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に大阪中之島美術館や科学館とともに参画し、今年度は「中之島パビリオンフェスティバル2025」において「中之島パビリオン周遊パス」の発売を実現した。また、昨年度の「中之島15の物語」の継続企画である「公募作品のAR化企画」に、当館所蔵の加彩婦女俑の画像を提供した。応募作品35件をもとにARコンテンツが制作され、令和7年9月27日から11月29日まで、エントランスの一角に二次元コードを設置した。	3
大阪市立科学館	大阪中之島美術館との連携による分野横断的な普及事業を実施する。また、地域連携であるクリエイティブアイランド中之島の一員として大阪中之島美術館、東洋陶磁美術館を連携した事業を行う。	大阪中之島美術館「大カプコン展」の関連イベントとしてワークショップ「ドット絵で宇宙を見る～ドット絵・電波ぬりえにチャレンジ！」を実施した(5/24)。参加者70名 「クリエイティブアイランド中之島」事業では、実行委員会とワーキンググループに参加し、共同の広報事業を行ったほか、今後の連携事業の検討を行った。 「クリエイティブアイランド中之島事業」の「中之島パビリオンフェスティバル」の春季イベントとしてスペシャルナイト「プラネタリウム100周年クロージングイベント(5/24)」を実施した。 「日本酒をたのしむ！大人の化学クラブ 伝統的酒造りと化学」では、自然史博物館の学芸課長による発酵に関する講演も実施し、化学と(微)生物というそれぞれの扱う分野の連携による事業を実施、また、酒ミュージアム(白鹿記念酒造博物館)との共催で、日本酒にまつわる歴史・文化と化学の横断的内容の実験教室、講演、ミュージアムツアーなどを開催した。実験や講義内容の深化を図った。 また、市立美術館において急遽開催となった「天空のアトラス イタリア館の至宝」展についてアトラスの天球儀に科学館の知見から解説を加え大阪・関西万博イタリア館での展示以上の魅力を加えた。	4
大阪歴史博物館	ア 特別企画展「大阪市博物館機構連携企画 大阪の宝 in 大阪歴史博物館」を開催実施するほか、関連企画を推進する。 イ 文化庁等の補助金、博物館支援事業の募集に各館と共に応募する。 ウ 大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。	ア 特別企画展「大阪市博物館機構連携企画 大阪の宝 in 大阪歴史博物館」を開催し、関連企画を実施した。 イ 文化庁の令和7年度「日本博2.0を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」に機構各館と共に参画し事業を推進した。 ウ 大阪市立美術館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出した。 エ 大阪市立美術館の特別展「日本国宝展」と「妙心寺展」へ学芸員を派遣し展示協力を行った。	3

大阪中之島美術館	ア　クリエイティブアイランド中之島実行委員会や中之島ウエスト・エリアプロモーション等と連携し、事業や広報の展開を図る。 イ　中之島地区の他機関と連携した誘客策を実施する。	ア　クリエイティブアイランド中之島実行委員会と連携した事業「ARでめぐる『中之島15の場所での物語』」において、AR総合演出および体験プラットフォームの提供を行った。また協働した広報施策を展開した。 イ「クリエイティブアイランド中之島」と協働し、エクスチェンジプログラムや講演会、ワークショップなどの開催情報を発信した。また鉄道事業者や周辺の飲食店等と連携した広報施策を展開した。	3
事務局	ア　本法人が開催する大阪博において、WEB上で大阪の宝を紹介するとともに、各館の展覧会等において大阪の宝を広く紹介する。 イ　大阪公立大学との包括連携協定に基づき、各種講義やミュージアム連続講座等に学芸員が出講する。 ウ　大阪商工会議所との包括連携協定に基づき、なにわなんでもWEBチャレンジやチェンバーカレンダーの作成等に参画する。	ア　本法人が開催する「大阪博」において、Webサイト「デジタル大阪ミュージアム」を開設し「大阪の宝」120点をWeb上で展示・紹介するとともに、各館の常設展及び特別展等において、「大阪の宝」を展示した。 イ　大阪公立大学との包括連携協定に基づき、大学における講義「博物館経営論」「博物館展示論」「博物館保存論」を提供するとともに、講演会、ミュージアム連続講座、博学連携シンポジウム等に計画通りに出講した。 ウ　大阪商工会議所との包括連携協定に基づき、なにわなんでも大阪チャレンジへの作問や、「チェンバーカレンダー2026」の作成に参画した。また、大阪・関西万博の機運醸成を図るべく、連携して駅構内でのPR活動を展開した。 【令和7年度実績】 講義提供数：41コマ、なにわなんでも大阪チャレンジ：3回実施、チェンバーカレンダーへの館蔵品データ提供数：12件	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	17

中期計画
17. 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働 博物館等資料の公開と認知度の向上を図るため、他館への貸出等を行う。 博物館等資料や図書等の館外研究者への貸出の対応を行う。 他の施設に対して、展覧会企画やプラネタリウム番組の配給を行う。 企画展や特別展等の充実のため、他館資料を借用し、有効活用する。 災害時において関係館との連携を図り、博物館等資料の保全に努める。 他館との博物館等資料に関する情報の共有と相互利用を推進する。

法人自己評価	
3	**各館においては、国内外の博物館・美術館に対して博物館等資料の貸出を実施した。 また、令和7年11月19日から21日にかけて、本法人が主催し、全国博物館大会を大阪市中央公会堂等において開催した。関西圏の博物館関係者の協力を得ながら準備・運営を行い、円滑な実施に努めた。 本大会では、持続可能な社会における博物館の社会的役割や、新技術・ネットワーク活用等について議論を深めるとともに、全国の博物館関係者との交流を通じて職員の理解促進と意識向上を図った(参加者482名)。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	令和7年度より、他の博物館施設に対する作品の貸借を、自館の企画展示での使用状況を考慮しながら再開する。	文化財の活用及び国内外の機関との連携強化に積極的に取り組んだ。具体的には、文化庁や京都国立博物館、韓国・国立中央博物館、上海博物館などに対し、計20件の収蔵品貸出を実施し、国際的な文化交流の推進に寄与した。また、「日本国宝展」、「根来展」、「妙心寺展」においては、各100件を超える法人外の博物館施設と連携し、文化財の借用業務を円滑に遂行した。さらに、「根来展」をサントリー美術館へ巡回させ、社寺及び博物館所蔵の貴重な作品を一堂に展示することで、文化財の魅力発信に貢献した。加えて、名古屋市博物館に対し「豊臣秀吉像」(高台寺所蔵)の画像提供を行い、複製資料の作成にも協力するなど、資料活用の幅を広げた。	3
大阪市立自然史博物館	ア 資料の研究利用目的での貸出・展示目的での貸出を積極的に進める。 イ 外来研究員をはじめとする、博物館資料の活用をする研究者の受け入れを積極的に行う。 ウ 特別展示などの際に、外部博物館から資料を借り入れを適切に行移転時を充実させるとともに、博物館相互の信頼を維持向上させる。 エ 文化遺産防災ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワークなどと連携した防災及び相互レスキューの体制を維持向上させる。	ア 例年通り、館外の研究者の利用を進めた。 イ 外部研究者の利用受け入れを進めた。より円滑な運用のために外来研究員の利用規定を整備し、その運用により70人の外来研究員を受け入れた。 ウ 昆虫マニアック展開催に際し、国立科学博物館、九州大学博物館をはじめ多くの博物館の協力を得た。 エ 文化財防災センターとともに活動に参画している。被災地の文化遺産レスキューに学芸員を派遣し、経験蓄積に努めた。また西日本自然史系博物館ネットワークとともにInnovate Museum 事業を実施し、事業や研修を通じた相互理解に努めた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への所蔵作品の貸し出しを行い、様々な地域の人々に当館の館蔵品の魅力の発信に努める。	・令和7年度は、作品計17件(海外の博物館1件、国内の博物館16件)の貸出を行った。なお、国内の博物館への貸出のうち3件は現在も貸出中。 ・館蔵品の写真データをオープンデータとしてホームページを通じて広く提供し、多くの人々が利用しやすい環境を整備している。なお、オープンデータ化していない作品については、別途申請手続により貸出を行っている。	3
大阪市立科学館	ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。また、企画展「極限時空・ブラックホールと重力波」では、国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用する。 エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 オ 全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会を開催する。	ア 当館所蔵の「15㎝反射望遠鏡経緯台 」を京都産業大学に貸出し、先方の企画展「西村製作所と中村要 反射望遠鏡にかけた夢」への協力及び当館館蔵品の有効活用を図った。 イ 他の科学館等に対してこれまで当館で作成したプラネタリウム番組を配給する取り組みを行っている。 ウ 企画展「プラネタリム100年」の関連イベントとして開催したスペシャルナイト(5/24)では、日本プラネタリウム協議会との連携で同会会員館とオンラインで結んでのイベントを開催した。 企画展「極限時空・ブラックホールと重力波(7/19～8/31)」では、台湾の国立自然科学博物館製作の企画展コンテンツを中心に国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用した。 また、全国同時七夕講演会として、大阪公立大学と連携して「重力波観測の過去、現在、そして未来(7/26)」の連携事業をスペシャルナイトとして行った。 また、京都工芸繊維大学「科学・ものづくり教育普及プロジェクト ″ぽっけ″」や千葉工業大学教授、株式会社QunaSysの協力を仰ぎ、ジュニア科学クラブで実験教室を実施してもらうなど、関連他業種と連携をしている。千葉工業大学教授、株式会社QunaSysには、コンピューター化学、量子コンピューターといった先端科学の内容を取り扱ってもらった。 10月に関西を中心とする20の大学から天文学担当の教員が集まり、学生に大学の研究や教育について紹介する合同オープンキャンパスイベント「天文学者大集合！」を実施した。 エ 大阪管区気象台との共催で、実験教室「夏休みミニ気象台2025(8/21,22)」や企画展示「気象業務150年(7/19～8/31)」を実施した。 オ 全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会をはじめとする各種関連団体と会議への参加、企画展の協力、研修会の実施を行った。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会2025・大阪を6月16日－18日に開催した。全国理工系学芸員会議は11月27・28日に開催した。	3

大阪歴史博物館	ア　資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑み、継続して各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努める。 【令和5年度実績】貸出15件47点、借用資料0件0点 イ　常設展において、文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図る。 【令和5年度実績】借用6件1,486点 ウ　関係機関と包括連携協定を結び、資料の活用や展示環境調査への協力を得る。 【令和5年度実績】 　　包括連携協定:(一財)大阪市文化財協会・大阪市教育委員会 　　共同研究:江戸東京博物館 【令和7年度目標】 　　包括連携協定:大阪市教育委員会、大阪府教育委員会・近つ飛鳥博物館 　　共同研究:江戸東京博物館 エ　東日本大震災を機に発足した全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として、災害時のネットワーク機能を果たす。	ア　資料の保存状況や展覧会趣旨などを鑑み、各館への資料貸出し及び借用を行い、館蔵品の魅力の発信と当館の展示の充実に努めた。また、韓国ソウル歴史博物館と台湾国立故宮博物院への貸出しを行った。 (参考)令和6年度実績 貸出資料　12件80点、借用資料　特別展2本で254件550点、特別企画展1本で約60件432点、特集展示4本で686件719点 【令和7年度実績】 貸出資料　14件90点、借用資料　特別展2本で91件136点、特別企画展2本で59件70点 イ　常設展において文化庁や大阪市教育委員会等から資料を年間借用し、展示の充実を図った。 【令和7年度実績】 借用6件1,486点 ウ　関係機関と連携し、資料の活用への協力を得た。大阪府立近つ飛鳥博物館においては、事業連携に基づき展示資料の出品や講座等に出講した。 【令和7年度】 包括連携:大阪市教育委員会 事業連携:大阪府教育委員会・近つ飛鳥博物館 共同研究:江戸東京博物館 エ　全国歴史民俗系博物館協議会の幹事館として幹事館会に出席した。	3
大阪中之島美術館	ア　作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への作品貸し出しを行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ　国内外の他館から作品・資料を借用することで、展覧会の充実を図る。 ウ　災害時の作品・資料保全のため他館の事例を参考とする。	ア　国内外の博物館・美術館等への作品貸し出しを通じて、館の館蔵品の魅力発信を図った。 イ　国内外の他館から作品・資料を借用し展示を行うことで、展覧会の充実を図った。 ウ　災害時における作品・資料保全に関連する他館等の事例を検証した。	3
事務局	本法人が中心となり大阪市で開催する全国博物館大会を通じて、全国の博物館関係者と積極的に協力・交流し成果を上げるとともに、博物館を取り巻く多くの社会課題の解決に取組む。	令和7年11月19日から21日にかけて本法人が主催となり全国博物館大会を大阪市中央公会堂等で開催した。関西圏の博物館関係者の協力を得て、本大会の準備及び運営を行った。また、本大会の開催により、持続可能な社会や博物館の社会的役割、新技術やネットワーク活用などについて議論を深めるとともに、全国の博物館関係者との交流を通じて職員の理解と意識向上を図ることができた。 (参加者482名、本法人職員を中心に運営スタッフとして延べ96名が従事)	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (2) **幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力向上** 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータを積極的に活用し、各館が機構内における連携をはじめさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の関係機関(以下「他の博物館等関係機関」という。)と積極的に連携し、博物館等の魅力向上に取り組む。	中項目No.	2
	小項目No.	18

中期計画	**18. 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の展開** 大阪観光局や民間事業者等と連携し、各館施設の活用と魅力の発信に向けてユニークベニューを計画し、市場ニーズと合致した館・施設から段階的に実施する。

法人自己評価	
3	**各館とも施設や附帯設備を活用し幅広い事業を行った。 市立美術館及び中之島美術館においては附帯施設を活用し、ユニークベニューを実施することで館の魅力向上を実現した。 【主な実績】 (市立美術館)・オマーン国レセプション ・WorldBrandingAward2025 合計15件 (中之島美術館)在大阪イタリア総領事館レセプション、オーストリア大使館 万博関連 展示会、ヒロココシノインターナショナル㈱ ファッションショー 合計51件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館内施設を活用して、ユニークベニューを実施する。	大規模改修で整備された建物設備を活用し、積極的にユニークベニューを実施した。 【実績】 件数:15件 主な案件: ・オマーン国レセプション (パーティイベント) 100名 ・ブルームバーグ 特別鑑賞会&懇親会 80名 ・カプコン ゲーム音楽の録音 ・ブライダル撮影 6件 ・WorldBrandingAward2025 100名 ・他、MVや雑誌撮影など5件	4
大阪市立自然史博物館	ア 学会等の催事開催を積極的に誘致する。 イ エコカーの展示など企業活動と連携した催事の誘致についてMICE事業者などと情報共有を進め、実施に繋げる。 ウ 長居植物園のイベント開催に関連したユニークベニュー利用の誘致を行う。	ア 大阪地学団体研究会、日本甲虫学会などの催事を開催した。また日本生態学会生態学教育委員会とブックトークイベントを実施した。 イ 学会催事などと連動した小規模な活用は実施している。企業向け研修利用の検討を進めている。 ウ クジラポーチに置ける万博期間中長居植物園で開催されるLille3000企画展示(フランス)に関連したファッションショー企画を推進した。【約200名が観覧】	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ユニークベニュー開催の計画、実施に向けて、施設を有効利用した幅広い事業展開を模索し、実現に向けて事務局や事業者との協議をおこなう。	ユニークベニュー事業の円滑な実施に向け、事業者に対するサウンディング調査を実施するとともに、要綱等を制定し、令和8年4月1日から実施可能な体制を整備した。 フォトウェディング事業者の協力を得て、エントランス等においてウェディング撮影を実施し、今後、当館の広報等で活用可能な画像を取得した。	3
大阪市立科学館	プラネタリウムを活用した「スペシャルナイト」等のイベントを実施することにより、需要 創出を図る。 【令和5年度実績】プラネタリウムスペシャルナイト開催2件。参加者数347名。	プラネタリウムを活用した「プラネタリウム100周年クロージングイベント」(参加者234名)、全国同時七夕講演会「重力波ナイト」(参加者数226名)、「世界最高峰の星空をお茶の間へ 朝日新聞宇宙部の歩み」(参加者130名)のイベントを開催し、市民に対し時機に応じた科学話題提供と理解を深める機会を提供した。 【令和7年度実績】プラネタリウムスペシャルナイト開催件数3回 参加者数590名	3
大阪歴史博物館	ア 、博物館南側の史跡指定地内に復元された5世紀の倉庫のガイドツアーなどを実施する。 【令和4年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者663人(5月11日再開～3月31日) イ 大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。	ア ボランティアによる遺跡ガイドツアー「難波宮遺跡探訪」を1日2回実施している。 (参考)令和6年度実績 「難波宮遺跡探訪」参加者2,837人 【令和7年度実績】「難波宮遺跡探訪」参加者4,271人 イ 令和4年度に開始した大阪迎賓館(バリューマネジメント社・大阪城西の丸庭園内)によるナイトミュージアムとディナーのセット企画を7月・8月に2回継続実施した。 (参考)令和6年度実績 大阪歴史博物館ナイトミュージアム2回	3
大阪中之島美術館	ホールや芝生広場等を活用したユニークベニューの実施に努める。	展覧会の開催のみに留まらず、館の立地や開放感のある構造を活かし、各種イベントやユニークベニュー等を積極的に進めた。 【令和7年度実績】 ・5月10日～16日にかけて、芝生広場で、クリエイティブユニット「graf」によるマルシェイベント「FANTASTIC MARKET」を開催 ・ユニークベニュー実施回数:51件 (主な利用実績) 在大阪イタリア総領事館 レセプション、オーストリア大使館 万博関連 展示会、ヒロココシノインターナショナル㈱ ファッションショー 他	4

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (3) **国際的な連携及び発信** 各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。	中項目No.	3
	小項目No.	19

中期計画	**19. 国際会議やシンポジウム等における各種活動成果の発表等** 学芸員が積極的に国際会議やシンポジウム等に参加し、各種活動成果の発表を行う。

法人自己評価	
4	**各館とも計画通り国外の学会等において研究発表を行いその成果を還元した。特に科学館では2026年国際プラネタリウム協会の開催に向け準備を進めるとともに、大阪・関西万博会場のオーストラリア館、ポルトガル館において館の取組みを紹介するなど計画以上の活動を行った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	東アジア各地域の美術史やミュージアム経営戦略などに関する学芸員の調査・研究活動の成果について、国際的に視野を拡大して情報発信を図る。	第24回鍋島報效会研究助成研究報告会において研究発表を行うとともに、国際会議やシンポジウム等へ計5件参加し、知見の深化に努めた。また、「関西の未来を考える会」を大阪市立美術館にて実施し、美術館の歴史やユニークベニュー事業について発信した。さらに、ミュージアムグッズ事業者による3Dプリンタ事業に参画し、新たなミュージアムグッズの企画・実現に取り組んだ。	3
大阪市立自然史博物館	ア ICOMドバイ大会や関連する学術分野の国際大会への参加・発表を検討する。 イ 大阪で開催される全国博物館大会を成功に寄与する。	ア ICOMドバイ大会への参加は日本博物館協会博物館大会の日程と近接することからオンライン参加を検討したが、通信事情なども悪く断念。 イ 博物館大会に向けて、自然史から4名が兼務。事務局とともに分科会プログラム及びエクスカーションをオーガナイズした。また、博物館研究での報告に2名が執筆した。(再掲)	3
大阪市立東洋陶磁美術館	国際会議や各種シンポジウム等において、当館学芸員の調査研究等の活動成果の発表を行う。	小規模館でありながらも、館長をはじめとする学芸員が主体的かつ積極的に国外との学術交流を推進し、国際会議や各種シンポジウム等の場において、それぞれの専門分野に基づく調査研究成果を継続的に発表した。これにより、当館の研究活動の国際的な認知度向上と学術的プレゼンスの強化に大きく貢献した 【実績】 ・国際会議・シンポジウム参加・発表:3件 ・各種活動成果の研究発表件数:7件	4
大阪市立科学館	ア 2026年の国際プラネタリウム協会の福岡大会に向けて、実践報告をはじめとした活動成果の発表・講演を準備する。 イ 多数のインバウンドが訪れる大阪・関西万博会場で、当館ボランティア等が培ってきた実験の技術や内容を実験ショーとして披露する。	ア 2026年の国際プラネタリウム協会の福岡大会に向けて、実践報告をはじめとした活動成果の発表・講演を準備中で、3件の発表を申込み、受諾されている。9月に北京天文館(Beijing Planetarium)で開催された国際フォーラムで、大阪市立科学館の活動成果を英語で講演し(中国語の同時通訳)、国際会議での講演を体験した。また、国際会議の発表の行い方や内容について他参加者のものを見聞し、来年の準備とした。 イ 大阪・関西万博会場のオーストラリア館(5/16)、ポルトガル館(7/31)で開催された式典・シンポジウムにおいて当館の取組について紹介を行った。また、アジア太平洋地域科学館協会(ASPAC)のワークショップを当館で開催(7/19)し、当館職員も参加しながら、海外の科学館職員との展示手法についての意見交換を行った。 多数の外国人が訪れる万博会場では、当館ボランティアがこれまで培ってきた実験の技術や内容を実験ショーとして披露している(6テーマ38回実演 参加者数2,789名)。	4
大阪歴史博物館	国際会議やシンポジウム等において各種活動成果の発表を行う。 【令和5年度実績】研究発表70件(国内のみ)	研究等各種活動を進め、海外誌に寄稿するほか、その成果の発表を行った。 (参考)令和6年度実績 研究発表1件(国外)・94件(国内)	3
大阪中之島美術館	国際会議・シンポジウムの開催に向け、国内外の美術館・美術関係者との交流を図る。	「中之島バビリオンフェスティバル2025」での館長の基調講演など、同フェスティバルへの参画を通じて、万博来訪者を含む多様な国際的観客層との接点を拡大し、文化発信拠点としての役割を強化した。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (3) **国際的な連携及び発信** 各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。	中項目No.	3
	小項目No.	20

中期計画	**20.海外の他の博物館等関係機関との学術交流による人的ネットワークの形成** 学術交流を積極的に進めることにより、海外の博物館等関係機関との人的ネットワークの形成・拡大を図る。

法人自己評価	
3	**各館においては、交流のある海外館との連携を促進し、人的ネットワークの拡大を図った。市立美術館では、海外館との共催による展覧会を開催するとともに、館長がICOMドバイ大会に出席し、国際的ネットワークの強化を図るなど、連携基盤の充実に取り組んだ。科学館では、ボランティアとの協働により大阪・関西万博会場のオーストラリア館において実験ショーの演示や来場者向けワークショップを実施するなど、国際的な場における教育普及活動を積極的に展開した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	国外館の書籍出版等による画像掲載依頼への協力、各種刊行物の交換などを通じて、学芸員の学術交流を深めるとともに、国外作品に関する情報蓄積を継続的に行う。	海外機関との連携及び国際的な学術・文化交流を推進した。具体的には、西安文物交流中心の招待により現地博物館や始皇帝陵の視察を行い、館長がICOMドバイ大会に出席した。また、ゴッホ美術館との共催による「ゴッホ展」や、万博イタリア館・イタリア領事館と連携した特別展「天空のアトラス」展を開催した。さらに、画像貸出や書籍交換を実施するとともに、中国・台湾・韓国・アメリカの研究機関からの画像掲載依頼に協力し、京都大学の科学研究費助成事業による敦煌壁画調査にも従事した。	4
大阪市立自然史博物館	ア ICOMドバイ大会関連する学術分野の国際大会への参加・発表を検討する。(再掲) イ SPNHCで形成したアジアの連携を活用すべく活動を検討する。	ア ICOMドバイ大会への参加は日本博物館協会博物館大会の日程と近接することからオンライン参加を検討したが、通信事情なども悪く断念。(再掲)ICOM倫理規定の検討に参加した。 イ SPNHC／TDWGの国際誌に投稿準備中。SPNHCの連携が基礎となり、台湾から協力依頼の打診があり国際オンラインシンポジウムで発表した。 その他 このほかJICAの「地域コミュニティと博物館研修」で9カ国10人の研修を受け入れた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	相互協力の提携がある台北・國立故宮博物院などをはじめとして、国内外の関連機関との共同研究や学術交流などを展開する。	・昨年度開催した上海博物館とのコラボレーションの展覧会の返却が4月に実施され、作品返却後に上海博物館の副館長ほかとの学術交流を実施した。(1件) 【実績】 ・中国福建省建陽建盞交流団、上海世博会博物館、復旦大学、ソウル工芸博物館・ソウル国立科学技術大学校、韓国・国立中央博物館(5件) ・姉妹館である國立故宮博物院との交流(2件) ・科研費の海外出張にて、北京故宮博物院の館員との学術交流を実施(1件)	3
大阪市立科学館	大阪・関西万博を通じて、オーストラリアの国立科学技術センター(クエスタコン)等と交流を実施する。	・オーストラリア国立科学技術センター(クエスタコン)とは、当館ボランティアとの協働で当館や大阪関西万博会場でのオーストラリア館での実験ショーの演示や、来場者向けのワークショップ(5/18,7/20)を開催した。 ・アジア太平洋地域科学館協会(ASPAC)のワークショップ(7/19)を当館で開催し、海外館の職員と展示や将来の科学館の在り方について意見交換を行った。 ・その他、11か国からの当館視察、15か国の万博会場等での招待・調査の実施。 ・企画展「極限時空・ブラックホールと重力波(7/19～8/31)」における台湾の國立自然科學博物館、國立清華大學との協力・連携実施。	4
大阪歴史博物館	ア 韓国・大邱博物館との学術交流協定にもとづいた研究交流など、東アジアの博物館との交流や情報交換を行う。 イ 世界の博物館等関係機関の視察を受け入れ、博物館運営についての情報を収集する。 【令和5年度実績】視察11件	ア 韓国・国立大邱博物館の館長一行が来館し(5/21)、今後に向けた協議を行った。韓国ソウル歴史博物館や台湾故宮博物院に対して朝鮮通信使関連史料などの貸出を行い、展示を通じて学術的な交流を行った。 イ 中国上海市教育発展基金会(4/23)、タイ文化振興局(4/24)、韓国慶北大学校(6/22)、タジキスタン副首相(6/26)などの視察を受入れ、交流を行った。 (参考)令和6年度実績 視察8件 【令和7年度実績】 視察6件	4
大阪中之島美術館	作品の貸借を契機とした海外美術館との交流をもとにネットワークの形成・拡大を図る。	作品の貸借の機会を通じて、海外美術館との交流を積極的に進めることでネットワークの形成・拡大を図った。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (3) **国際的な連携及び発信** 各館の各種活動の発展及び認知度の向上を目指し、海外の他の博物館等関係機関と積極的に連携する。	中項目No.	3
	小項目No.	21

中期計画	**21. 博物館等資料の貸出及び借用を含む他の博物館等関係機関との相互支援及び協働(再掲)** 関連する分野における博物館等資料の貸出・借用等を通じて、海外の博物館等関係機関と積極的に連携・協働を行う。

法人自己評価	
3	**各館においては、国内外の関係機関との資料の貸出・借用を通じて連携を促進した。また、関係機関への講師派遣や研修の受入れ、関係誌への寄稿等を通じて、海外諸機関との連携を積極的に推進した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	中国・上海博物館、同・瀋陽故宮博物院の学芸員との連携・協働により、展覧会(交換展含む)開催準備を進める。韓国中央博物館による李朝時代の美術展への作品貸出する。	東アジア地域を中心とした国際連携を推進した。韓国国立中央博物館「朝鮮前期の美術大展」展に際しては、所蔵品の貸出に加え、近隣所有者の作品集荷に伴う収蔵庫の提供及び学芸員のクーリエ派遣を行った。また、台湾の何創時雲瑞博物館と連携し秋季特別展「躍動する明代の書展」の企画を進めるとともに、上海博物館(東京国立博物館との共催)への漆工品貸出を実施した。	3
大阪市立自然史博物館	海外研究者との資料の閲覧・貸出について、デジタル・実物両面で対応する。	・海外研究者の来訪に伴う資料閲覧、デジタルでの閲覧、貸出などは適宜実施している。現在集計中。 ・タイ国立博物館、マレーシア セランゴール州政府の視察受け入れを行った。また、モンゴル国立博物館と保存科学に関する教育・研究に協力し、講師派遣、研修受け入れを行った。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	作品の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、国内外の美術館・博物館等への所蔵作品の貸し出しを行い、様々な地域の人々に当館の館蔵品の魅力の発信に努める。	国内外の美術館・博物館等への所蔵作品の貸出を行った。 ・上海博物館への貸出:1件	3
大阪市立科学館	ア 資料の保存状況、展覧会趣旨などを鑑みながら、他館への資料、展示物の貸出及び借用を行い、当館の館蔵品の魅力の発信に努める。 イ 他の科学館等に対してプラネタリウム番組を配給する。 ウ 大阪大学、大阪公立大学など近隣大学、各種研究機関と展示、調査研究、講演会など各種事業の連携を行う。また、企画展「極限時空・ブラックホールと重力波」では、国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用する。 エ 気象台や電気学会等、関連他業種と連携した実験教室、講演会等各種事業を開催する。 オ 全国理工系学芸員会議をはじめとする各種協議会・会議等と情報共有や協働を行う。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会を開催する。	ア 当館所蔵の 「15cm反射望遠鏡経緯台 」を京都産業大学に貸出し、先方の企画展「西村製作所と中村要 反射望遠鏡にかけた夢」への協力及び当館館蔵品の有効活用を図った。 イ 他の科学館等に対してこれまで当館で作成したプラネタリウム番組を配給する取り組みを行っている。 ウ 企画展「プラネタリム100年」の関連イベントとして開催したスペシャルナイト(5/24)では、日本プラネタリウム協議会との連携で同会会員館とオンラインで結んでのイベントを開催した。 企画展「極限時空・ブラックホールと重力波(7/19～8/31)」では、台湾の国立自然科学博物館製作の企画展コンテンツを中心に国内外の大学との連携により、先端科学の情報や資料を利用した。 国際プラネタリウム協会／国際天文連合が主催したイベント「プラネタリウムの24時間」へ参加し、世界に大阪市立科学館の魅力を発信した。 また、全国同時七夕講演会として、大阪公立大学と連携して「重力波観測の過去、現在、そして未来(7/26)」の連携事業をスペシャルナイトとして行った。 また、京都工芸繊維大学「科学・ものづくり教育普及プロジェクト ″ぽっけ″」や千葉工業大学教授、株式会社QunaSysの協力を仰ぎ、ジュニア科学クラブで実験教室を実施してもらうなど、関連他業種と連携をしている。千葉工業大学教授、株式会社QunaSysには、コンピューター化学、量子コンピューターといった先端科学の内容を取り扱ってもらった。 10月に関西を中心とする20の大学から天文学担当の教員が集まり、学生に大学の研究や教育について紹介する合同オープンキャンパスイベント「天文学者大集合！」を実施した。 エ 大阪管区気象台との共催で、実験教室「夏休みミニ気象台2025(8/21,22)」や企画展示「気象業務150年(7/19～8/31)」を実施した。 オ 全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会をはじめとする各種関連団体と会議への参加、企画展の協力、研修会の実施を行っている。また、日本プラネタリウム協議会と協働し、全国プラネタリウム大会2025・大阪を6月16日－18日に開催した。全国理工系学芸員会議は11月27・28日に開催した。	4
大阪歴史博物館	韓国ソウル歴史博物館および台湾故宮博物院による朝鮮通信使関連展覧会に館蔵品を出品し、陳列・撤収作業に学芸員を派遣する。	韓国ソウル歴史博物館の朝鮮時代の通信使特別展「心のつきあい、余韻が波のように」に館蔵品・寄託品26件30点を出品するとともに、陳列・展示替・撤収作業に学芸員を派遣した。台湾故宮博物院の特別展「地縁政治的國際萬象―十四至十九世紀的東亞世界」については館蔵品9件10点を出品するとともに、陳列・展示替・撤収作業に学芸員を派遣した。また、館長が月刊誌『故宮文物月刊』516期に朝鮮通信使について寄稿した。	4
大阪中之島美術館	作品の状態を鑑みながら可能なものの貸し出しを行い、他館との交流を図る。	所蔵コレクションについて作品状態の精査を継続的に行い、その結果に基づき、国内外の他館への資料貸出を積極的に実施し、展覧会等への出品機会を創出するとともに、他館との学術的・文化的交流の促進およびコレクションの価値発信の強化を実現した。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (4) **戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信** 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。	中項目No. 小項目No.	4 22

中期計画	**22. 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得** 「大阪博」にむけて、Web等のプロモーション活動を積極的に展開するとともに、各館のターゲット分析に基づき、各館事業を周知し、国内外からの来館者を獲得する。

法人自己評価	
5	**来館促進及び展覧会の魅力発信を目的として、「大阪の宝」や各種展覧会に関するWeb広告を戦略的に配信し、来館者の着実な獲得に繋げた。 また、経営会議において月別の来館実績を把握するとともに、事務局において日々の来館者データを精査することで状況を的確に分析し、さらなる上振れが見込まれる展覧会については会期途中における追加の広告宣伝やプロモーションを機動的に実施し、法人発足後最高となる来館者数を達成した。 【令和7年度実績】 6館合計来館者数実績 約402万人（目標360万人、対目標比111.6%）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大阪博を通じて、市立美術館の告知や事業内容を周知して来館者数を獲得する。	大阪市立美術館の保有する「大阪の宝」を公開する展覧会「大阪の宝@大阪市立美術館」(8/2～9/15)を開催した。合わせて、Webページも作成しSNSによる発信も行った。 また、2025大阪・関西万博のイタリア館で展示されていた文化財を万博のレガシーとして展示する特別展「天空のアトラス」を開催し多くの来館者を迎えた。 【実績】 大阪の宝展示期間中の企画展示鑑賞者数:28,654人 天空のアトラス展:目標数値:104,000人　実績:227,087人	5
大阪市立自然史博物館	ア　大阪博と連携してプロモーション活動を行う。 イ　万博期間中長居植物園で開催されるLille3000企画展示（フランス）と連携したプロモーション活動を行う。	ア　大阪・関西万博「住友館」連動企画である書籍「日本の森の歩き方」に博物館の紹介ページを執筆した。また、事務局と連携して長居地区のプールや植物園と連携したNFTを活用したキャンペーンを実施した。自然史博物館の利用実績は332（うち、コンプリート:197）件であり、長居公園エリアでは最大だった。 イ　Lille3000は展示以外のイベントがほとんどなく、設営協力などにとどまった。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	各館と連携して「大阪博」を開催するために、事務局とともに各種プロモーション活動やコンテンツの作成等の協議を行い、準備を進めて実施する。	スペシャルコンテンツ「大阪の宝バーチャル体験展示室」では油滴天目茶碗のARコンテンツを制作して好評を博し、あわせてInstagram・X・YouTubeにて「大阪の宝―MOCOの宝20選」を配信（青花虎鵲文壺の見どころ紹介動画も撮影済み）するとともに、展示作品の解説キャプションに「デジタル大阪ミュージアムズ」Webサイトへリンクする二次元コードパネルを設置したことで、アクセス数の増加につなげた。	3
大阪市立科学館	2025年大阪・関西万博開催期間において、「大阪博」にある「大阪の宝」コンテンツを活用したプロモーションを行うとともに、「大阪の宝」の実物展示を通じて、来館者の誘致を行う。	「大阪の宝」については、当館の公式「X」や、科学館だより、月刊『うちゅう』、館内チラシ等を通じて展示情報や資料の解説、広報を行った。また、ラジオ出演などマスコミでの広報も行えた。 「大阪の宝」の展示に当たっては、各資料の展示解説に「デジタル大阪ミュージアムズ」Webサイトの二次元コードを掲出したほか、当館Webサイトにて、「大阪博」へのリンクバナーを設置し、Webサイト来訪者への「大阪博」の周知及び便宜を図った。	3
大阪歴史博物館	事務局と連携した広報活動を実施する。	事務局が取りまとめるPR TIMESへのプレスリリースを活用するとともに、人流データによる展覧会分析をおこなった。 Web広告の検討を進め、サブサイト「推せる！なにわ歴博」にかかるInstagram広告を実施した（9～3月）。特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」では事務局と連携してランディングページの公開とインターネット広告を実施した。	3
大阪中之島美術館	SNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるような発信情報等を行う。	民間事業者等の知見やノウハウを活かしてSNSを積極的に活用し、魅力ある特別展を年間8本開催し海外からの入場者の増加を図った。海外からの旅行者に対してはよりわかりやすい表現での情報発信に努めた。 【令和7年度実績】 ・「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション」:60,551人（令和7年度中のみ） ・「生誕150年記念　上村松園」:89,698人（令和7年度中のみ） ・「日本美術の鉱脈展　未来の国宝を探せ！」:91,500人 ・「ルイ・ヴィトン『ビジョナリー・ジャーニー』展」:169,223人 ・「小出楢重　新しき油絵」:27,737人 ・「新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展」:47,551人 ・「拡大するシュルレアリスム　視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ」:62,639人 ・「サラ・モリス　取引権限」:17,907人（令和8年3月31日時点） ・「没後50年　髙島野十郎展」4,163人:（令和8年3月31日時点）	4
事務局	2025年大阪・関西万博を契機とした大阪博や各種の魅力ある展覧会の開催に関するWEB等のプロモーション活動を積極的に展開し、6館で年間総来館者360万人を達成する。	来館促進や展覧会魅力の発信を目的とし、「大阪の宝」や各種の魅力ある展覧会に関するWeb広告を適宜配信し、来館者の獲得に努めた。また、経営会議においては月別の数値を、事務局においては日々の来館者データを精査し、投資により更なる上振れや改善が見込まれる展覧会については、会期途中の広告宣伝・プロモーション活動等を検討・実施し、目標達成に向けて時宜に応じた活動をオンラインにより積極的に展開した。 【令和7年度実績】 6館合計来館者数実績　約402万人（目標360万人、対目標比111.6%）	4

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (4) **戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信** 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。	中項目No.	4
	小項目No.	23

中期計画	**23. エビデンスに基づいた戦略的広報の展開** マーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、その分析結果をもとに戦略的な広報を展開する。

法人自己評価	
3	**オンライン・オフラインの両面からアンケートを実施するとともに、その分析結果をもとに広報・プロモーション活動を展開した。特に「大阪博」事業においては日次及び月次での来館者数の把握、各Webサイトのアクセス解析、モバイル端末を用いた人流データの把握等、エビデンスに基づく戦略的な広報・プロモーション活動を実施し、過去最高の来館者数の獲得に繋げた。** **【主な実績】プレスリリース配信サービス(PR TIMES):累計配信数62件　累計PV数113,866、人流データ:分析レポート数20件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	・特別展開催毎にアンケートを実施する。	オンラインチケットの購入者属性情報を分析し、来館者像の分類を行った。合わせて、日本国宝展の入館者推移をデータ化し、ゴッホ展の日次入館者予測に反映させ、追加広告の要不要やタイミングの意思決定に活用した。 また、Webアンケートフォームを設置し、来館者の満足度を測定した。 【実績】 ・大阪市立美術館アンケートフォーム(回答者数:24人) ・ゴッホ展アンケートフォーム(回答者数:322人) ・天空のアトラス展アンケート(回答者数:20,856人)	3
大阪市立自然史博物館	ア　モバイル端末によるビッグデータの活用等を広報委員会で検討し、データ分析に基づく広報展開を行う。 イ　SNSなどのアクセス情報を利用する。 ウ　大規模改修に伴う調査の解析などを行う。	ア　携帯電話の位置情報に基づく人流データを利用して貝に沼る展の来場者の属性分析を行うとともに、過去の同時期の特別展との比較や来場者アンケート回答集計の補正分析を行った。また、「学芸員のおしごと」展では事務局と協力し、SNS(X、Instagram)広告で効率的にプロモーションする業務を広告代理店に委託し、SNS投稿からオンラインチケット購入までの流入の解析と、投稿やWebサイトのコンテンツの最適化を行った。 イ　Instagram自然史博物館公式アカウントの運用について助言するコンサルティング業務を広告代理店に委託し、フォロワー数をベンチマークとして投稿運用の改善を進めた。 ウ　大規模改修に向けた調査は、今後も大阪市と相談しながら実施を進める。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア　最適な時期を踏まえ、ターゲティングを活用した戦略的なWeb広報を展開する。 イ　アクセス解析を通して広報効果を把握し、効果的な広報を展開する。	ア　広報業務委託を行い、戦略的なWeb広報を展開した。 【特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」】 ・Web広告配信:7回、配信結果速報:6回 ・配信分析結果を踏まえ、夏季行楽や万博来阪者を見据えたライト層向け集客施策として、7月にインフルエンサーを起用し、写真やコラムをWebで発信した。 【特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」】 ・Web広告配信:7回、配信結果速報:6回 ・配信分析結果を踏まえ、2月にライト層をターゲットとしたインフルエンサーによる情報発信を実施した。 イ　夏季には、Web配信分析で成績が良好であったグッズやカフェ情報を中心に配信内容を適宜更新した結果、広告効果の向上が見られた。 ・アンケート回答者数 　・特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」:136件 　・特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」:34件 　・MOCOファミリースペシャルデー:1件	3
大阪市立科学館	ア　来館者アンケートやホームページのアクセスチェック、SNSの反応分析等を実施して、事業に関するニーズを把握し、SNSやホームページ、チラシ等の広報媒体を有効に用いた広報活動を行う。 イ　各種活動を広く紹介する広報誌「科学館だより」、月刊誌「うちゅう」を発行し、市内外施設や友の会会員など効果的な配布を行う。 【令和5年度実績】「科学館だより」2号、「うちゅう」12冊発行	ア　来館者アンケートをオンラインにより実施した。 回答数は以下の通り:来館者アンケート371件、プラネタリウムアンケート662件サイエンスショーアンケート5,310件 Webサイトのアクセス解析を行い、閲覧者の多いトップページを中心に、適宜更新をしている。 Instagramの広告宣伝を1/11～2/7に行い、広告を行っていない昨年同時期と比べ、約3倍(349人)のフォロワーを獲得した。 イ　「科学館だより」を4回発行し、市内外施設等(約95件)に配布している。また月刊「うちゅう」を毎月発行し、現在12冊を発行、友の会会員、ジュニアクラブ会員へ送付した。	3
大阪歴史博物館	ア　特別展・特別企画展、特集展示及び常設展示のアンケートを実施し、その分析により有効な広報手法を模索する。 【令和5年度実績】アンケート実施　特別企画展1回、特集展示4回 【令和7年度目標】アンケート実施　特別展・特別企画展4回、特集展示5回 イ　ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。 【令和5年度実績】Xポスト396件 【令和7年度目標】Xポスト400件以上、Instagram投稿250件以上 ウ　事業に応じてSNSと紐づけたWeb広告を実施し、発信力を高めるとともに実施レポートにより有効な広報ターゲット、メディアを選択する。	ア　特別展2回、特別企画展2回のアンケートを実施した。特集展示では令和6年度からの継続分を含めて5回実施した。 (参考)令和6年度実績 特別展・特別企画展4回、特集展示7回 イ　館Webサイトには展覧会・イベント情報を逐次掲載している。各投稿メディアには、X382件、Instagram411件、YouTube3件の投稿を実施した。 (参考)令和6年度実績 X414件、Instagram433件、YouTube2件 ウ　事業に応じて有効な広報ターゲット、メディアを選択している。常設展示および特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」において、インターネット広告を実施した。また、常設展示では民間連携事業によりサブサイト「推せる！なにわ歴博」を運用した。	3
大阪中之島美術館	SNSのフォロワー等の増減、ツイート数などを定期的に確認し、更なる効果的な発信に努める。	民間事業者の知見やノウハウを活かしてSNSによる広報を積極的に行い、その状況を適宜分析・検証し効率的・効果的な発信を図った。 【令和7年度実績】X投稿390件、Instagram投稿180件	4
事務局	WEBサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い戦略的な広報を展開する。	各Webサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析するとともに、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い、分析結果に基づくターゲット選定及びクリエイティブの制作を行う等、戦略的な広報を迅速に展開した。	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (4) **戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信** 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。	中項目No.	4
	小項目No.	24

中期計画	**24. 学芸員の専門的な知識を活かした広報の展開** 地域の広報誌や新聞への寄稿等を通じて、専門情報の平易な発信に努める。 テレビ等メディアへの出演機会を捉え、各館の魅力の効果的発信を行う。

法人自己評価	
4	**各館においては、各種事業の開催やコンテンツ制作、研究発表等の機会を捉え、積極的な情報発信を行い、館の魅力向上に努めた。特に市立美術館では、「日本国宝展」や「ゴッホ展」の開催に際し、多様なメディアに出演することで展覧会の魅力を広く発信し、認知度の向上と集客の促進に寄与した。** **【実績】メディア出演回数 日本国宝展：115件 ゴッホ展：160件 妙心寺展：193件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	リニューアル・オープン後の館の魅力向上を全国的にアピールするため、テレビ、新聞及び美術雑誌等に向けた情報発信（出演・寄稿・広告掲出等）の頻度を高める。	リニューアルオープン後の館の魅力向上を国内外に発信するため、館長をはじめとする様々な学芸員がテレビ、新聞及び美術雑誌等において展覧会情報の発信等を積極的に進めた。また全国博物館大会において登壇する等、学術分野にかかる情報発信も実施した。 【令和7年度実績】 メディア（TV・新聞・雑誌等）出演回数 ・日本国宝展：115案件 ・ゴッホ展：160案件 ・天空のアトラス展：32案件 ・妙心寺展：193案件	4
大阪市立自然史博物館	ア 適切なプレスリリースにより専門的な情報の提供を着実に行う。 イ 平常からSNSなどを通じた平易な情報発信を行う。また新規のSNSへの対応を検討する	ア 特別展、関連イベント、研究成果発表などを含め74件の新着情報掲載を実施している。 イ X（89件），Facebook（217件），Instagram（105件）を活用し発信している。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	Web広報媒体などに関する広告業務の一部代行業者との協働により、エビデンスに基づいた広報戦略を検討し、国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信するとともに、新聞やテレビ等メディアでの紹介や取材協力により館蔵品に関する研究成果等を発信する。	国内外の関連雑誌等と提携して館蔵品に関する研究成果等を発信するとともに、館蔵品に関する研究成果等を発信した。 【実績】 ・メディア出演回数3回（MBS毎日放送、新唐人電視台、ネット配信：ニコニコ美術館） ・展開した広報施策 【特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」】 ・産経新聞広告・特集記事・作品紹介連載 ・交通広告（デジタルサイネージ：阪急神戸三宮駅・梅田駅） ・広報配信委託業者によるWeb広告（国内・国外）・X・Instagramでの展覧会情報配信 【特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」】 ・毎日新聞広告・特集記事・作品紹介連載 ・交通広告（Osaka Metro駅チラシ配架） ・広報配信委託業者によるWeb広告（国内・国外）・X・Instagramでの展覧会情報配信 ・インフルエンサー5名によるSNS上でのPR投稿実施 ・ニコニコ美術館生配信（web）	3
大阪市立科学館	情報誌・新聞・テレビ・ラジオなど様々なメディアに学芸員が寄稿・出演することにより、研究成果や事業情報を発信する。	・新聞・情報誌・テレビ・ラジオ等のメディアへの出演、対応は、307件実施した。 ・プレスリリースをメルマガ発行を含め8回発信した。	3
大阪歴史博物館	ア 地域の広報誌や新聞誌上等への寄稿を行い、専門情報の発信を行う。 【令和5年度実績】「MACHINAMI」、産経新聞、北國新聞、読売新聞など イ 様々なメディアに学芸員が執筆・出演することにより研究成果を紹介する。 【令和5年度実績】BS11「偉人・敗北からの教訓」、読売テレビ「す・またん」、「関西情報ネットten」、NHK「美の壺」、「有吉のお金発見突撃！カネオくん」、「ウィークエンド関西」 等	ア 大阪府建築士事務所協会機関誌「MACHINAMI」の歴史記事について、企画・編集に協力し、連載投稿を継続している。 イ NHK「ほっと関西」・「ウィークエンド関西」、ABC「なるみ・岡村の過ぎるTV」、MBSラジオ「福島のぶひろのいんじゃない」、NHKラジオ第一「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～大阪歴史散策」、日本経済新聞「なるほど！ルーツ調査隊」、朝日新聞（4件）、読売新聞（3件）、毎日新聞、産経新聞などに出演した。 （参考）令和6年度実績 NHK総合「ほっと関西」nanでnan？（2件）・ええやんトレンド&カルチャー、NHKラジオ第一「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～大阪歴史散策」（6件）、産経新聞、日本経済新聞（2件）など	3
大阪中之島美術館	新聞、美術雑誌、地域の広報誌、テレビ、ラジオなどで展覧会の広報を行う際は、学芸員による紹介を行うよう努め、研究成果を発信する。	展覧会にかかる情報発信において新聞、ラジオをはじめとした各種の媒体に積極的に参画し専門的な知見を活かして情報発信を行った。また、展覧会関連イベントとして実施した講演会に参画し館の魅力を発信した。 【令和7年度実績】NHK「日曜美術館」、NHK 関西ラジオワイド、他講演会等	3

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (4) **戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信** 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。	中項目No.	4
	小項目No.	25
中期計画 **25. 他の博物館等関係機関との連携及び協働を通じた広報の展開** 他の関係機関とのHP・SNS等の相互リンクにより、より幅広い層への広報を展開する 市立の生涯学習施設等を利用した講座などの事業展開や、施設との広報連携を進める。		

法人自己評価	
3	**各館においては、関係機関や周辺施設等と積極的に連携し、計画に基づき各種事業を展開した。特に「大阪博」の開催を契機として、大阪観光局と連携し、「日本国宝展」の訪日外国人向けプロモーションを実施した。また、JR西日本や関西MaaS等の鉄道・旅行事業者が企画する来阪者の周遊性向上に資する事業にも、コンテンツ提供等を通じて参画し、協働による効果的な情報発信を行った。** **さらに、ブルームバーグ・コネクツが運営するアプリに各館の施設情報を掲載するとともに、音声ガイドや作品紹介動画を追加するなど内容の充実を図り、国内外への魅力発信を強化した。加えて、科学館、東洋陶磁美術館、中之島美術館では「クリエイティブアイランド中之島」への参画を通じ、事業の共同実施や広報連携を推進した。** **【実績】JR西日本：プラスワントリップ・大阪デスティネーションキャンペーン等、関西MaaS：アプリへの参画** **【令和7年度実績】ブルームバーグ・コネクツ：総ユーザー数 3,767（うち外国語ユーザー39.7%）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大阪観光局と連携した広報展開を行う。	大阪観光局の公式サイト「OSAKA MICE」に当館を掲載し、ユニークベニュー事業についてアピールを行った。合わせて、ユニークベニューの状況も含めて文化観光推進の状況について意見交換も行った。 また、大阪観光局が運営する留学生コンソーシアムと連携して、2月14日開催の「妙心寺展」の禅体験イベントに留学生13名を迎えるとともにアンケート調査に協力を得た。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大阪市立中央図書館及び各区の図書館などでの巡回展示などを実施する。 イ 万博期間中長居植物園で開催されるLille3000企画展示（フランス）と連携した広報活動を展開する。（再掲）	ア 大阪市内の各区図書館、中央図書館で「貝に沼る」関連展示や港区図書館でのSDGs関連展示を実施した。 イ Lille3000は展示以外のイベントがほとんどなく、設営協力などにとどまった。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。 社会教育機関などを利用した講座や講演会などの開催に協力して、施設との広報連携を進めてゆく。	中之島エリアの博物館・美術館へのポスター掲示やチラシの配布などの共同広報を実施した。 生涯学習センター発行「いちょう並木」にて6回の展覧会情報の発信。うち1回は学芸員が推す作品紹介の記事を掲載。特別展「MOCOコレクション オムニバス―初公開・久々の公開― PART1」の展覧会紹介についても掲載した。	3
大阪市立科学館	ア 大阪市立東洋陶磁美術館や大阪中之島美術館とともに「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。 イ 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を提供する。 ウ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。 エ 日本プラネタリウム協議会と連携したオンラインイベント「プラネタリウム100周年・クロージングイベント(仮)」により国内外のプラネタリウム機関等と連動した事業・広報を展開する。	ア 「クリエイティブアイランド中之島」では、実行委員会に加えてワーキンググループに参加し、連携したイベントや広報の企画や実施に協力した。 イ 生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を毎号提供した。 ウ 科学館だよりやリーフレットを、Osaka Metro、京阪電車、近隣の図書館やホテルなどに配布・設置した。 エ 日本プラネタリウム協議会と連携したオンライン事業「プラネタリウム100周年クロージングイベント（5/24）」に参加し、全国約30の関係施設と共同で事業を行った。また企画展「プラネタリウム100年」においても、日本プラネタリウム協議会が作成したパネル掲出を行った。	3
大阪歴史博物館	ア 大阪市生涯学習情報誌月刊「いちょう並木」に展覧会等情報を定期的に提供する。 イ 本法人が連携開催する「ミュージアム連続講座」へ講師派遣を行う。	ア 「いちょう並木」へ毎月情報提供し、「ミュージアムトピックス」（9月号）に特別企画展の情報を掲載した。「おすすめコレクション」（10月号）にも情報を掲載した。 イ 本法人と住民学習センター等が連携開催する「ミュージアム連続講座」について、2月に学芸員1名が出講した。	3

大阪中之島美術館	ア　全国美術館会議の機関誌への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努める。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。	ア　機関誌への執筆や、周辺地域の公的機関への講師派遣など幅広い広報活動に努めた。 イ 「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」と連携した事業「ARでめぐる『中之島15の場所での物語』」において、AR総合演出および体験プラットフォームの提供を行った。また協働した広報を展開した。 5月に「大阪中之島美術館×大阪市立科学館：ドット絵で宇宙を見る～ドット絵・電波ぬりえにチャレンジ！」を開催し、親子など多世代が参加できるワークショップを展開した。 大阪・関西万博と連動した都市文化事業である「中之島パビリオンフェスティバル2025」に参画し、大阪の都市魅力の国内外への発信に寄与した。	4
事務局	ア　大阪観光局、関西MaaS、その他の関係機関等と連携した広報展開を行う。 イ ブルームバーグ・コネクツのアプリに法人全体で参画し、国内外への魅力発信を実現する。	ア　大阪観光局と連携し、「日本国宝展」の訪日外国人向けプロモーションを実施した。また、JR西日本や関西 MaaS等の鉄道事業者・旅行事業者が企画する来阪者の周遊性を高めるための事業にもコンテンツ提供などを通じて積極的に参画し関係機関との協業による情報発信を行った。 【令和7年度実績】JR西日本：プラスワントリップ、大阪デスティネーションキャンペーン等　関西MaaS：アプリへの参画 イ ブルームバーグ・コネクツが運営するアプリに、各館の施設情報を掲載するとともに、内容の充実を図るため、音声ガイドや作品紹介の動画を掲載し、国内外への魅力発信を行った。 【令和7年度実績】 ブルームバーグ・コネクツ：総ユーザー数 3,767（うち外国語ユーザー39.7%） ウ　難波市民学習センターでミュージアム連続講座を3回6講座実施し、各館の特別展の広報等を行った。 【令和7年度実績】 延べ参加者数196人	4

大項目Ⅰ-① 1 博物館等の活動の発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	大項目No.	1-①
中期目標 (4) **戦略的広報の展開及び各種活動の成果の発信** 博物館等を一体的に運営するメリットを活かし、定期的にマーケティング・リサーチやアンケート等を実施し、各館の認知度向上に向けてエビデンスに基づいた戦略的な広報活動を展開するとともに、各種活動の成果を国内外に向けて効果的に発信する。	中項目No.	4
	小項目No.	26

中期計画	**26. 多様な媒体及び手段を通じた各種活動の成果の発信** 図録・紀要等印刷物の発行によって調査研究その他の活動の成果を公表する。 講演会や学会発表映像、収蔵標本データ観察記録などのアーカイブ化と公開を促進する。 紙・マスメディア・SNSなど各種媒体の特徴を生かした情報発信を行う。

法人自己評価	
3	**各館においては、紙媒体やSNS等の各種媒体の特性を活かし、活動や研究成果に関する情報発信を行った。特にSNSにおいては、時宜を捉えた広報を積極的に展開し、発信力の強化を図った。** **法人全体としては、事務局が運営するSNSを活用し、各館の展覧会情報を中心に博物館・美術館活動の情報を効果的に発信した。さらに、投稿後の効果測定に基づき内容の改善を継続することで、発信の質を高め、フォロワーの着実な増加に繋げた。加えて、外部のプレスリリース配信サービス(PR TIMES)も積極的に活用し、多様な媒体を通じた効率的かつ広範な情報発信を実現した。** **【令和7年度の主な実績】** **Instagramフォロワー増加 美術館＋約6,900人、事務局＋約5,700人、歴史博物館＋約4,600人、科学館＋約4,100人** **プレスリリース配信サービス(PR TIMES)累計配信数62件、累計PV数113,866回**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	SNSによる情報発信を積極的に進める。 Instagram:30回以上 X:30回以上	展覧会関連の広報・出版活動を推進し、「日本国宝展」、「ゴッホ展」、「根来展」、「妙心寺展」の図録を制作するとともに、研究紀要を発刊した。また、各展覧会の公式Webサイト及び公式Xを開設し、情報発信の強化に努めた。さらに、NHK「日曜美術館」に出演し、「日本国宝展」及び「妙心寺展」の魅力発信に貢献した 【実績】 X ポスト100件、リポスト215件 Instagram 美術館9件 美研41件	3
大阪市立自然史博物館	ア 研究報告の継続的な発行とホームページ上での公開を行う。 イ 共同研究報告書、館蔵資料集などを継続的に発行する。 ウ 年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を公開する。 エ SNSやブログ、ホームページを活用した学術情報や研究過程の発信を行う。	ア 研究報告などを継続的に発行し、リポジトリサイトを通じて公開した。 イ 共同研究報告書、資料目録などを継続的に発行し、公開している。 ウ 館報を発行し、公開している。 エ 博物館アカウントだけでなく、学芸員個人アカウント、友の会blogなど様々なメディアを通じて情報発信、研究課程の発信を行っている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 公式ウェブサイト、YouTube、X、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。 イ 調査研究その他の活動の成果をウェブサイトや雑誌等によって公表する。	ア 公式Webサイトにて府内の高等支援学校でのオープンデータの活用事例の発信を行い、該当コンテンツの利用促進を計った。 また館のコレクションを紹介する配信用ショート動画を作成した。 【実績】Instagram投稿回数:50回、フォロワー数:11,883人 イ 調査研究その他の活動の成果をWebサイトや雑誌等によって公表した。	3
大阪市立科学館	ア 学芸員の調査研究成果などを、研究報告の出版や学会発表、ホームページを通じて公開する。 イ 月刊誌「うちゅう」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。 【令和5年度実績】12冊発行 ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、各種活動や所蔵資料を広く紹介する。 エ 適宜マスコミに対してメールマガジンの配信、プレスリリースを実施する。 オ SNSツールを利用した情報発信を行う。 【令和5年度実績】 科学館公式HPへのページアクセス数:約128.1 万件、X発信数:「大阪市立科学館広報」180件、「学芸員@大阪市立科学館」83 件、Instagram発信数:226件 カ 学芸員の執筆によるミニブックを発行する。 キ 学芸員の専門性を生かしたホームページを作成する。	ア 学芸員の調査研究内容、事業実施報告を取りまとめた大阪市立科学館研究報告 第35号を発行(8/1)し、Webサイトにも掲載した。 イ 月刊誌「うちゅう」を12冊発行し、科学館の活動や科学情報、所蔵資料の紹介を行った。 ウ 3か月ごとに「科学館だより」を発行し、科学館の各種活動の告知や紹介を行った。 エ メールマガジンを2件配信した。またプレスリリースを6件実施した。 オ SNSツールを利用した情報発信を行っている。 【令和7年度実績】X 発信数「大阪市立科学館広報」 254件、フォロワー数11,638人、「学芸員@大阪市立科学館」 91件、フォロワー数12,156人「館長のひとりごと」 64件、フォロワー数567名、Instagram「大阪市立科学館」 投稿数239件、フォロワー数7,297人 カ ミニブック1冊の版下を完成させ、発行の準備を終えた。発行については、新業者によるショップ運営の契約事項に関する協議があり、状況が整い次第発行する。また、学芸員の執筆による「こよみハンドブック」(p146)を発行し、2026年4月からの2年間の大阪の日の出入りの時刻や天体現象等を照会する冊子を製作した。 キ 学芸員によるホームページを作成・公開し専門の情報等を発信している。	3

大阪歴史博物館	ア　年1号の研究紀要を継続的に発行し、データをWeb上に公開する。 【令和5年度実績】「大阪歴史博物館研究紀要」第22号 【令和7年度目標】「大阪歴史博物館研究紀要」第24号 イ　共同研究報告書、館蔵資料集等を計画的に発行する。 【令和5年度実績】「大阪歴史博物館館蔵資料集」第19号 【令和7年度目標】「共同研究報告書」の発行 ウ　年報の作成及びホームページ上での公開を通じ、館の活動を周知する。 【令和5年度実績】「大阪歴史博物館年報」令和4年度 【令和7年度目標】「大阪歴史博物館年報」令和6年度 エ　自主企画展（特別展・特別企画展）において、図録・リーフレット等を作成する。 【令和5年度実績】リーフレット：特別企画展1種 【令和7年度目標】特別展：図録1冊、特別企画展：リーフレット2種 オ　特集展示リーフレットを作成するとともに、その内容をホームページで公開する。 【令和5年度実績】特集展示4本 【令和7年度目標】特集展示6本 カ　ホームページ、X、Instagram、YouTubeでの情報発信を継続して行う。 【令和5年度実績】Xポスト396件 【令和7年度目標】Xポスト400件以上、Instagram投稿250件以上 キ　事務局で導入されたプレスリリース配信サービスを活用し、プレス情報を配信する。	ア　大阪歴史博物館研究紀要24号を編集・発行した。 （参考）令和6年度実績 「大阪歴史博物館研究紀要」第23号 イ『共同研究成果報告書18』を編集・発行した。 （参考）令和6年度実績 『共同研究成果報告書17　大阪市の中世城館』 ウ『大阪歴史博物館年報　令和6年度』を編集・発行し、当館Webサイト上で公開した。 （参考）令和6年度実績 『大阪歴史博物館年報　令和5年度』 エ　自主企画展（特別展・特別企画展）において、図録・リーフレット等を作成した。 （参考）令和6年度実績 図録：特別展1件、リーフレット：特別企画展1件 【令和7年度実績】 図録：特別展1件、リーフレット：特別企画展2件 オ　特集展示リーフレットを5種作成し、Webサイトで公開した。 【令和7年度実績】 特集展示5件 カ　館Webサイトでの情報発信をはじめ、X382件、Instagram411件、YouTube3件の投稿を実施した。 （参考）令和6年度実績 X414件、Instagram433件、YouTube2件 キ　事務局が導入したプレスリリース配信サービスを活用し、情報を配信した。 （特別企画展2件、特集展示5件、その他1件） （参考）令和6年度実績 情報配信10件	3
大阪中之島美術館	ア　展覧会カタログへの論文執筆をはじめ、展覧会関連の紹介記事等を執筆し、多様な媒体に情報発信する。 イ　公式ウェブサイト、YouTubeサイト、InstagramなどのSNSを通して、展覧会情報や館蔵品情報などを継続的に発信していく。 【令和5年度実績】 X　投稿数327回 Instagram　投稿数129回 YouTube　総再生回数0回	ア　展覧会カタログへの論文執筆、展覧会関連の紹介記事等の執筆などにより情報発信に努めた。 イ　公式Webサイトや各種SNSを効果的に活用し、展覧会情報や館蔵品情報などの発信を行った。 【令和7年度実績】 X　投稿数390回 Instagram　投稿数180回	3
事務局	SNS等による情報発信を積極的に進める。	事務局が運営する各種のSNSを活用し、各館の展覧会情報を中心に博物館・美術館活動についての情報発信を積極的に行った。また、投稿後の効果測定を行い、投稿内容の質を向上させることで、更なるフォロワーの獲得に努めた。 加えて外部のプレスリリース配信サービス（PR TIMES）を積極的に活用し、多方面に向けた情報発信を効率的かつ効果的に展開した。 【令和7年度実績】 Instagram　投稿数242件、フォロワー11,118人（前年度より5,703人増加） X　投稿数240件、フォロワー10,113人（前年度より1,403人増加） プレスリリース配信サービス（PR TIMES）累計配信数62件、累計PV数113,866回	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	27

中期計画	**27. 2025年大阪・関西万博を契機とした博物館等の周知及び来館者の獲得（再掲）** 「大阪博」にむけて、Web等のプロモーション活動を積極的に展開するとともに、各館のターゲット分析に基づき、各館事業を周知し、国内外からの来館者を獲得する。

法人自己評価	
5	**来館促進および展覧会の魅力発信を目的として、「大阪の宝」や各種展覧会に関するWEB広告を戦略的に配信し、来館者の着実な獲得に繋げた。 また、経営会議において月別の来館実績を把握するとともに、事務局において日々の来館者データを精査することで状況を的確に分析し、さらなる上振れが見込まれる展覧会については会期途中における追加の広告宣伝やプロモーションを機動的に実施し、法人発足後最高となる来館者数を達成した。 【令和7年度実績】 6館合計来館者数実績 約402万人（目標360万人、対目標比111.6%）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	大阪博を通じて、市立美術館の告知や事業内容を周知して来館者数を獲得する。	大阪市立美術館の保有する「大阪の宝」を公開する展覧会「大阪の宝@大阪市立美術館」(8/2～9/15)を開催した。合わせて、Webページも作成しSNSによる発信も行った。 また、2025大阪・関西万博のイタリア館で展示されていた文化財を万博のレガシーとして展示する特別展「天空のアトラス」を開催し多くの来館者を迎えた。 【実績】 大阪の宝展示期間中の企画展示鑑賞者数:28,654人 天空のアトラス展:目標数値:104,000人　実績:227,087人	5
大阪市立自然史博物館	ア 大阪博と連携してプロモーション活動を行う。 イ 万博期間中長居植物園で開催されるLille3000企画展示(フランス)と連携したプロモーション活動を行う。	ア 大阪・関西万博「住友館」連動企画である書籍「日本の森の歩き方」に博物館の紹介ページを執筆した。また、事務局と連携して長居地区のプールや植物園と連携したNFTを活用したキャンペーンを実施した。自然史博物館の利用実績は332(うち、コンプリート:197)件であり、長居公園エリアでは最大だった。 イ Lille3000は展示以外のイベントがほとんどなく、設営協力などにとどまった。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	各館と連携して「大阪博」を開催するために、事務局とともに各種プロモーション活動やコンテンツの作成等の協議を行い、準備を進めて実施する。	スペシャルコンテンツ「大阪の宝バーチャル体験展示室」では油滴天目茶碗のARコンテンツを制作して好評を博し、あわせてInstagram・X・YouTubeにて「大阪の宝―MOCOの宝20選」を配信(青花虎鵲文壺の見どころ紹介動画も撮影済み)するとともに、展示作品の解説キャプションに「デジタル大阪ミュージアムズ」Webサイトへリンクする二次元コードパネルを設置したことで、アクセス数の増加につなげた。	3
大阪市立科学館	2025年大阪・関西万博開催期間において、「大阪博」にある「大阪の宝」コンテンツを活用したプロモーションを行うとともに、「大阪の宝」の実物展示を通じて、来館者の誘致を行う。	「大阪の宝」については、当館の公式「X」や、科学館だより、月刊『うちゅう』、館内チラシ等を通じて展示情報や資料の解説、広報を行った。また、ラジオ出演などマスコミでの広報も行えた。 「大阪の宝」の展示に当たっては、各資料の展示解説に「デジタル大阪ミュージアムズ」Webサイトの二次元コードを掲出したほか、当館Webサイトにて、「大阪博」へのリンクバナーを設置し、Webサイト来訪者への「大阪博」の周知及び便宜を図った。	3
大阪歴史博物館	事務局と連携した広報活動を実施する。	事務局が取りまとめるPR TIMESへのプレスリリースを活用するとともに、人流データによる展覧会分析をおこなった。 Web広告の検討を進め、サブサイト「推せる！なにわ歴博」にかかるInstagram広告を実施した(9～3月)。特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」では事務局と連携してランディングページの公開とインターネット広告を実施した。	3
大阪中之島美術館	SNSを活用することで、海外からの入場者の増加を図る。また海外からの旅行者にわかりやすく伝わるような発信情報等を行う。	民間事業者等の知見やノウハウを活かしてSNSを積極的に活用し、魅力ある特別展を年間8本開催し海外からの入場者の増加を図った。海外からの旅行者に対してはよりわかりやすい表現での情報発信に努めた。 【令和7年度実績】 ・「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション」:60,551人(令和7年度中のみ) ・「生誕150年記念　上村松園」:89,698人(令和7年度中のみ) ・「日本美術の鉱脈展　未来の国宝を探せ！」:91,500人 ・「ルイ・ヴィトン『ビジョナリー・ジャーニー』展」:169,223人 ・「小出楢重　新しき油絵」:27,737人 ・「新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展」:47,551人 ・「拡大するシュルレアリスム　視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ」:62,639人 ・「サラ・モリス　取引権限」:17,907人(令和8年3月31日時点) ・「没後50年　髙島野十郎展」4,163人:(令和8年3月31日時点)	3
事務局	2025年大阪・関西万博を契機とした大阪博や各種の魅力ある展覧会の開催に関するWEB等のプロモーション活動を積極的に展開し、6館で年間総来館者360万人を達成する。	来館促進や展覧会魅力の発信を目的とし、「大阪の宝」や各種の魅力ある展覧会に関するWeb広告を適宜配信し、来館者の獲得に努めた。また、経営会議においては月別の数値を、事務局においては日々の来館者データを精査し、投資により更なる上振れや改善が見込まれる展覧会については、会期途中の広告宣伝・プロモーション活動等を検討・実施し、目標達成に向けて時宜に応じた活動をオンラインにより積極的に展開した。 【令和7年度実績】 6館合計来館者数実績　約402万人(目標360万人、対目標比111.6%)	4

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	28

中期計画	**28. 所蔵するコレクションを積極的に活用した来館者の鑑賞機会の確保（再掲）** これまで受け継いできた各館が所蔵するコレクションの魅力を伝えるための常設展示について、その充実に努める。 ※年度計画では、所蔵するコレクションの魅力を伝える常設展示における展示替え（再掲）

法人自己評価	
3	**各館が所蔵するコレクションを用いた企画展示を実施し、魅力の発信を図るとともに大阪の都市魅力の向上を実現した。 大阪・関西万博開催による学校の遠足利用の減少があったが、インバウンドを含めた観光客の増加等の好影響もあり、特に科学館では、目標を大きく上回まわるなど、6館では、目標数を超える来館者を迎えた。 【実績】常設展6館合計 1,800,521人（目標：1,713,260人）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	日本と中国をはじめとする東アジアの美術・歴史・文化の理解の促進に寄与する展示を多彩な作品ジャンルから企画する。東アジアの美術・歴史・文化に特化したテーマによる「特集展示」も開催する。 【令和7年度目標】 中国石仏・カザールコレクションの常設化、特集展示「売茶翁と花月菴」（仮称）の開催、「企画展示」の300日開催、有料入館者数35,000人 （特別展有料入館者400,000人除く）	令和7年度の企画展示として、南2階で4月1日～6月15日に「中国の彫刻」ほか2展（51点）、南1階で7月5日～8月1日（117点）、8月23日～9月28日に「アジアの彫刻」ほか2展（122点）、北1階で8月2日～9月15日に「絵になる人々」ほか3展（53点）、9月20日～10月19日に「売茶翁から花月菴展」（134点）などの企画展示を実施し、所蔵するコレクションを積極的に展示した。 【令和7年度実績】 有料 30,628名 無料 691,959名 ※特別展チケット持参者を含む 合計 722,587名	3
大阪市立自然史博物館	常設展示室内で行う企画展示やテーマ展示・ミニ展示などで、所蔵コレクションを用いて深掘りした情報を来館者に伝えていくとともに、SNS、動画配信などデジタルメディアを活用して展示品の背景情報についても伝えていく。 ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施していく。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催する。 イ 展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。また、適宜アンケートなどによる評価を強化する。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組を引き続き配信する。	ア ミニ展示・企画展示を積極的に実施した。特に今年度は「大阪の宝」展示を長期にわたりナウマンホールで開催し、多くの収蔵品を紹介した。自由研究展示は「学芸員のおしごと」展の中で展示した。来場人数としては、遠足利用が万博へと流れたことなどが影響し、計画値に1割ほど届かなかった。野心的な目標には至らなかったものの十分高い来館者数に資料を公開できたと考えている。 ・4/12(土)～6/15(日)「大阪の宝 第一期」（一部は前年度3/11より開始） ・7/5(土)～10/13(月・祝)「大阪の宝 第二期」 ・4/1(火)～6/29(日)ミニ展示「植物の標本を使って研究する」 ・9/9(火)～10/13(月・祝)ミニ展示「東アジアのカラスアゲハの仲間」 ・7/19(土)～8/31(日)テーマ展示「種類の多さ日本一！？琵琶湖・淀川のドジョウたち」 ・10/18(土)～11/16(日)テーマ展示「化石を楽しむ2025」 ・1/6(火)～1/25(日)新春ミニ展示「午年展」～ウマにちなんだいろいろな標本～ 【令和7年度常設展来館者数実績 実績/計画、 266,503人/297,960人】 イ 子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。36回実施し、2198人が参加した。 ウ 所蔵コレクションを解説する学芸員のトーク番組について助成事業を活用して植物園来場者誘客用動画、展示品紹介コンテンツ12編などを作成した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	安宅コレクションや李秉昌コレクションなどの、国宝、重要文化財、重要美術品を含む世界的なレベルの館蔵品に対して、その魅力を最大限引き出した展示方法や展示室での作品構成など、多様な切り口から鑑賞できるようにする。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」（目標来館者数：71,300人、実績：45,022人）で館蔵品を利活用した展覧会を開催した。 特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」（目標来館者数：26,100人、実績：16,953人）で館蔵品を利活用した展覧会を開催した。	2
大阪市立科学館	物理学・化学・天文学・気象学・科学史・科学技術に関する書物、実験装置及び、観測装置等の実物・複製資料の展示並びに現象を確認できる体験型展示を行う。 また、展示化が困難な現象については、サイエンスショーによって幅広い年齢層に対する科学への興味関心を高める。 ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、またサイエンスショーなどの演示を行う。 【令和5年度実績】常設展示入場者 234,629人 【令和7年度目標】常設展示入場者428,000人 イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置する。 ウ 展示化が困難な現象等はサイエンスショーで演示する。 エ 企画展示コーナーにおいて、企画展などで所蔵コレクションを公開する。	ア 「宇宙とエネルギー」をメインテーマに、1階から4階の各フロアで展示を行い、また来館者の前で実際の科学の現象をサイエンスショーなどの演示をとおして紹介、解説している。 【令和7年度実績】 入場者数 460,985名（1989年の開館以来の最高を更新） 有料観覧者率は目標55%に対して64.7%（目標比118%）、観覧料は予算比の126%。 （参考）令和7年度目標 常設展示入場者428,000名 イ 実験装置・観測装置等の実物資料の静態展示や、体験型展示を設置し、来館者に対し、科学の理解を深めてもらっている。今年度は、大阪・関西万博のアメリカ館で展示されていたSLSロケット模型を寄贈されたことうけ、4階展示場に常設展示を行った。 ウ 今年度よりサイエンスショーを毎回異なる実験内容で、演示をしている。 エ 企画展「プラネタリウム100年（4/22～6/29）」、「大阪の宝」の貴重書展示「科学館資料で見る科学のあゆみ（9/9～10/13）」を実施し、「大阪の宝」を含めた所蔵コレクションの展示、公開を行った。また、常設展示している「大阪の宝」資料については、「大阪博」のコンテンツに誘導するための掲示を行い、資料の魅力を伝えている。「静電気の世界展（12/5～2/8）」においても、当館所蔵の貴重本を公開し、「万博体験のパートナー、手持ちデバイス展」でも、ドイツ館のサーキュラーなど当館に寄贈を受けたり借用したデバイス類13種類を公開した。	4

大阪歴史博物館	第1期で整備したインターネット環境を活用した柔軟性のある展示空間をつくる。展示更新を継続的に行い、展示機会の少なかった館蔵品、寄託品の展示を行う。さらに展示場を会場とした事業を実施することにより、ソフト面でも展示場の魅力を向上する。 ア　古代から中近世、近現代にわたる「都市大阪のあゆみ」を模型・映像や実物資料などで展示する。 【令和5年度実績】常設展示入場者243,229 人 【令和7年度目標】常設展示入場者429,000 人 イ　最新の調査研究成果に基づき、季節や時宜に応じた内容、話題性のあるテーマの展示を行うことで常設展示の更新に取り組む。 【令和5年度実績】テーマ展示1回、展示更新39回 【令和7年度目標】テーマ展示2回、展示更新30回 ウ　館蔵資料を紹介するため、5本の特集展示を実施する。 ・オープンtheタイムカプセル　4/16～6/23 ・新収品お披露目展　6/25～9/1 ・YABU MEIZAN　9/3～11/3 ・デザインの玉手箱・鐔　11/5～1/12 ・郷土玩具が好き―風土と造形の愉しみ―　1/14～4/7 エ　様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表記の充実を図る。 オ　個人端末による音声ガイド（多言語）の利用を促進し、展示の理解度を高める。 カ　常設展示の理解を促進するためにハンズオンを実施する。	【令和7年度】　常設展示入場者288,471人 ア　常設展示の更新は63件を実施した。また、両替商の道具の露出展示を行うなど、体感的な展示を実践した。さらに、考古学体験ゾーンの一部を、ボランティア監視員の配置を前提に再開し、活気ある展示空間を実現した。 イ　季節や時宜に応じた展示を目指し、7月には天神祭に関する展示を常設展示9階で実施した。 ウ　特集展示は予定している下記5本を実施した。特に郷土玩具の展示は、当館開館後初めてのまとまった展示機会となり、当館が所蔵する郷土玩具の魅力を新たに引き出す機会を提供した。 ・オープン the タイムカプセル　4/16～6/23 ・新収品お披露目展　6/25～9/1 ・YABU MEIZAN　9/3～11/3 ・デザインの玉手箱・鐔　11/5～1/12 ・郷土玩具が好き―風土と造形の愉しみ―　1/14～4/6 エ　キャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物（考古学体験ゾーンの解説等）については四か国語のリーフレットを整備した。 オ　スマートフォンを用いた多言語対応のミュージアムガイドを運用し、様々な国籍の方、視覚・聴覚障害のある方にも展示解説を提供した。 カ　常時体験できる文楽人形かしらメカや、土器の立体パズルを展示し、拓本体験と両替商体験を月1回交互に実施した。実際の展示物を展示空間内で触る体験を提供した。	3
大阪中之島美術館	所蔵コレクションの鑑賞機会の確保を図るため、令和9年度から所蔵コレクションを活用した展示を実施する準備を進める。 ア　年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備をする。 イ　4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を行う。	万博開催年度において、国内外から来阪した多くの来館者に対し、館所蔵コレクションの鑑賞機会を拡充する成果を上げた。具体的には、「大阪博」の開催に合わせ、当初予定になかった「小出楢重展」開催時に特別コーナーを新たに設置し、代表的な所蔵コレクションを効果的に展示することで、来館者サービスの向上とコレクション発信の強化を実現した。 ア　年間8本の展覧会枠の中で2枠を目安としてコレクション展を行う準備を進めた。 イ　4階と5階の展示室にあわせるかたちでコレクション展を制作する準備を進めた。	4

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	29

中期計画	**29. 文化観光拠点施設としての集客力のある展覧会の誘致及び開催** 社会教育施設としての基本的な活動を踏まえつつ、各館の特徴を活かしながらマスメディア等との連携を図り集客力のある展覧会を誘致・開催する。 鉄道事業者や旅行社、宿泊施設等と連携した広報やチケット販売等を実施する。

法人自己評価	
4	**各館においては、マスメディア等との共催による展覧会を開催し、いずれも目標を大きく上回る来館者数を達成した。特に再開館した市立美術館では、想定を大幅に超える来館者を迎え、年間約78万人を超える実績を記録したほか、中之島美術館においても年間約57万人を記録するなど、顕著な集客成果を挙げ、地域の賑わいの創出に大きく寄与した。** **【主な展覧会実績】日本国宝展（目標：250,000人、実績：278,864人）、ゴッホ展（目標：222,500人、実績：217,522人）、天空のアトラス展（目標：104,000人、実績：227,087人）、昆虫MANIAC展（目標：81,000人、実績：79,846人）、正倉院 THE SHOW（目標：79,740人、実績：101,799人）、ルイヴィトン展（目標：100,000人、実績：169,223人）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	新聞社やテレビ局との共催による特別展の企画を推進し、大型特別展の誘致に注力する。また、大阪観光局等と連携を図り、効率的かつ効果的に館の市場浸透を図り、主催する展覧会の告知を行う。 【令和7年度目標】 「日本国宝展」「ゴッホ展」「妙心寺展」 有料入館者数 合計 400,000人	新聞社やテレビ局との共催による大型特別展を開催し多くの来館者を迎えた。 【実績】 日本国宝展 ・目標来館者数：250,000人 ・実来館者数：278,864人（内有料：245,826人） ゴッホ展 ・目標来館者数：222,500人 ・実来館者数：217,522人（内有料：188,348人） 根来展 ・目標来館者数：30,000人 ・実来館者数：13,809人（内有料：9,189人） 天空のアトラス展 ・目標来館者数：104,000人 ・実来館者数：227,087人（内有料：208,088人） 妙心寺展 ・目標来館者数：81,000人 ・実来館者数：44,459人（内有料：31,085人） 【令和7年度目標】有料入館者数合計40万人に対し、170％となる。	4
大阪市立自然史博物館	マスメディア各社と連携して魅力ある特別展の誘致を行うとともに、必要に応じ、所蔵のコレクションを追加・活用することで展示の意義や魅力を向上させる。 また、当館企画による巡回展の企画についてマスコミ各社との協議を行う。	今年度は「昆虫MANIAC」展を実施、わずかに計画には届かなかったものの、猛暑の影響を受けながらも多数の来場者にお越しいただけた。（実績79,846人/目標81,000人、計画比98.6%） 3月14日に開幕した特別展「鳥」も順調な滑り出しとなっている。令和8年度以降も、「大絶滅展―生命史のビッグファイブ」、「ダーウィンが来た」など集客力を見込める展示に付いて誘致を進めている。また、当館発の巡回展示も検討を進めている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	新聞社や放送局関連のマスメディアとの連携・共催による特別展を企画・開催し、SNSを中心としたWeb広報を推進するとともに、地域の様々な施設・機関との連携による共同広報の充実やチケット販売の促進を図る。 【令和7年度目標】 ・特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」71,300人（再掲） ・特別展「蔵出しコレクション―安宅・李秉昌コレクションとともに―」26,100人（再掲）	・産経新聞社との共催による特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」の開催（目標来館者数：71,300人、実績45,022人） ・毎日新聞社との共催による特別展「MOCOコレクション オムニバスー初公開・久々の公開－PART1」の開催（目標来館者数：26,100人、実績16,953人） ・特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」以降、産経新聞開発株式会社やクリエイティブアイランド中之島と連携し、チケット販売の促進を図っている。	2
大阪市立科学館	近隣の大阪中之島美術館、国立国際美術館、クリエイティブアイランド中之島の参加施設などと連携した活動を行い、新規来館者の増加に努める。また、中之島地域の施設・企業等が協働で実施する「中之島パビリオンフェスティバル2025」に参加し、広報やチケット販売、共同事業などを実施する。	・「中之島パビリオンフェスティバル」に参加し、フェスティバルの周遊チケットに協力した。 ・中之島美術館での展覧会に関連した普及事業を1件（2回）、連携事業として実施した。 「大阪中之島美術館×大阪市立科学館 ドット絵で宇宙を見る～ドット絵・電波ぬりえにチャレンジ！」（5/24）参加者70名 【令和7年度目標】常設展示入場者428,000名 令和7年度入場者数 460,985名	3

大阪歴史博物館	マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。観光関連事業者等と連携した広報展開を模索する。 ア　在阪の新聞社・放送局等と平素より展覧会企画に関する情報交換を行い誘致に努め、特別展1本を開催する。 【令和5年度実績】特別展示室の改修により特別展の開催実績なし 【令和7年度目標】「正倉院「THE SHOW」」観覧者数79,740 人 イ　OsakaMetro 駅構内でのポスター掲示の継続や、各鉄道事業者 の事業への協力などを通じての広報を推進する。 【令和5年度実績】OsakaMetro駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展、特別企画展で実施	マスメディア等と連携した特別展・特別企画展を誘致するとともに、館蔵品を活かし、国内外の博物館やコレクター、大学や企業などと連携した自主企画により、特別展・特別企画展を開催する。また、観光関連事業者等と連携した広報展開も模索する。 ア　読売新聞社・読売テレビ等と共催する特別展「正倉院 THE SHOW」を開催し、目標を上回る101,799人の来館者を得た。 （参考）令和6年度実績 特別展「川瀬巴水　旅と郷愁の風景」 イ　OsakaMetro駅構内の掲示板へのポスター掲示を、特別展、特別企画展で実施した。 （参考）令和6年度実績 OsakaMetro駅構内の掲示板へのポスター掲示を実施（特別展、特別企画展）	3
大阪中之島美術館	ホール、芝生広場の貸し出し等と連動した展覧会を実施し、館全体で多様な利用者が楽しむことができる機会の創出を図る。 マスメディア等と連携した特別展を企画・開催する。 【令和5年度実績】 「開館1周年記念特別展　大阪の日本画」:43,093人（通年） 「デザインに恋したアート♡アートに嫉妬したデザイン」:31,785人 「佐伯祐三 ― 自画像としての風景」:81,466人 「民藝 MINGEI―美は暮らしのなかにある」:52,594人 「Parallel Lives 平行人生 ー 新宮 晋＋レンゾ・ピアノ展」:21,091人 「特別展　生誕270年　長沢芦雪ー奇想の旅、天才絵師の全貌ー」:81,956人 「テート美術館展　光ーターナー、印象派から現代へ」:122,736人 「決定版！　女性画家たちの大阪」:29,012人 「モネ 連作の情景」:451,842人（通年） 「没後50年 福田平八郎」:54,539人（通年）	マスメディア等と連携し大型の展覧会を誘致・開催し、多くの来館者を獲得するなど地域の賑わいの創出に寄与した。また、開催に際しては附帯設備を積極的に活用し各種イベントを開催し、来館者の満足度の向上を図った。 【令和7年度実績】 ・「大カプコン展 ―世界を魅了するゲームクリエイション」:60,551人（令和7年度中のみ） ・「生誕150年記念　上村松園」:89,698人（令和7年度中のみ） ・「日本美術の鉱脈展　未来の国宝を探せ！」:91,500人 ・「ルイ・ヴィトン『ビジョナリー・ジャーニー』展」:169,223人 ・「小出楢重　新しき油絵」:27,737人 ・「新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展」:47,551人 ・「拡大するシュルレアリスム　視覚芸術から広告、ファッション、インテリアへ」:62,639人 ・「サラ・モリス　取引権限」:17,907人（令和8年3月31日時点） ・「没後50年　髙島野十郎展」4,163人:（令和8年3月31日時点）	4

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	30

中期計画	**30. 来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長（再掲）** 2025年大阪・関西万博開催を契機として、マーケティング・リサーチにより把握した来館者のニーズを踏まえて、来館者の利便性向上に向けた開館時間の延長を計画的に進める。 具体的には、大阪歴史博物館及び大阪中之島美術館においては、夜間開館を2024年度に試行実施し、大阪市立美術館を含め3館は2025年度の大阪・関西万博期間中に本格実施をしていく。 それらの検証結果を踏まえ、2026年度以降に最適な開館時間の延長を実施できるよう計画的に進めていく。
法人自己評価 **4**	**2025年大阪・関西万博を契機として、各館において利用者サービスの向上に向けた取組を実施した。** **市立美術館および中之島美術館では適切な日時における開館延長を実施し、東洋陶磁美術館では中学生以下及びその保護者を対象とした臨時開館を行った。また、科学館ではプラネタリウムの追加投影を実施し、利用機会の拡充を図った。** **さらに、歴史博物館では大阪迎賓館とのタイアップによるナイトツアー開催にあわせて開館延長を実施するなど、柔軟な開館時間の確保に取り組んだ。** **【主な実績】（市立美術館）・日本国宝展：13日 ・ゴッホ展：14日 ・天空のアトラス展：23日 ・企画展示：51日** **（中之島美術館） ・日本美術の鉱脈展：16日 ・ルイ・ヴィトン展：23日 ・小出楢重展：4日**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	閉館時間以降も開店するカフェの入店状況を把握し、2025年大阪・関西万博期間中に、夜間開館対応を実施して来館者利便性向上を実現する。	利用者サービス向上のため、「日本国宝展」、「ゴッホ展」及び「天空のアトラス展」期間中において2時間の開館時間の延長を実施した。 【実績】 ・日本国宝展：13日 ・ゴッホ展：14日 ・天空のアトラス展：23日 ・企画展示：51日	4
大阪市立自然史博物館	ア TeamLABO事業などとの関係から夜間開館が難しい状況にあるものの、夏の特別展などの機会を捉えた特別鑑賞、団体向けの特別夜間開館などを行う。 イ 観察会や講演会などを伴った特別な付加価値を持ったイベントとして、ナイトミュージアムの開催等について検討と試行を行う。	ア 巡回特別展は共催者の意向により夜間鑑賞は実施しなかった。独自主催特別展では友の会等向けの夜間展示鑑賞【11月1日、72人参加】の企画を試行実施した。 イ 友の会とともにナイトミュージアム事業の試行を行った。【7月26日、135人申し込み、抽選の結果47名参加】	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 光の饗宴開催期間中の令和7年12月19日に夜間開館を実施する。 イ 中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリーデーを令和7年8月4日開催する。 ウ マーケティングによるニーズ把握をおこなっており、開館日や各種のイベントにも反映する。GW中の令和7年4月28日、お盆期間中の8月12日は、祝日の翌日であるが通常開館とする。	ア 光の饗宴開催期間中の12月19日に夜間開館（17:00～19:00）を実施するとともに館長による特別講座を開催した（参加者68名） イ 8月4日に中学生以下の子どもとその保護者を対象としたファミリースペシャルデーを開催し家族連れのお客様が安心して鑑賞できる機会を提供した。【来館者数：来館者実績は70名】 ウ GW中の令和7年4月28日、お盆期間中の8月12日は、祝日の翌日であるが通常開館した。	4
大阪市立科学館	多数の来館者が見込まれる土日祝日とお盆時期については、プラネタリウムの追加投影を行いオープン時間を延長し、来館者ニーズに応える。	来館者が多い毎土・日・祝日並びに8/12～15の多客期にプラネタリウムを17時から追加投影し、通常のプログラム番組と異なる学芸員の専門性を活かした投影内容の「学芸員スペシャル」を実施している。これにより多数の来館者の対応、並びに紹介する科学知識についてややレベルの高い専門的内容の話題を提供している。	3
大阪歴史博物館	過去の実績やデータなどを含めたマーケティング・リサーチに基づき、特別感のあるコンテンツとして夜間開館や貸切開館などを実施する。	ア 令和6年度など過去の取組実績のデータや費用対効果などを勘案し、夜間開館延長は実施しなかったが、特別展「正倉院 THE SHOW」では夜間貸切開館を実施した。 イ 大阪迎賓館と連携して7/31・8/8にナイトツアーを実施し、ツアー参加者向けに開館時間を30分延長した。	3
大阪中之島美術館	来訪者や地元市民の来館機会を拡大するため、夏期間の特別展において、開館時間延長を実施する。（予定：計22日間）	来訪者や地元市民の来館機会を拡大すべく、夏期に実施した「日本美術の鉱脈展」「ルイ・ヴィトン展」「小出楢重展」開催中の金曜日、土曜日及び祝前日において開館時間の延長を行った。 ※延長時間：2時間（17:00～19:00） 【実績】 開館延長時間の延べ来館者数 計7,513人 ・日本美術の鉱脈展 16日 1,111人（1日平均：69,4人） ・ルイ・ヴィトン展 23日 6,331人（1日平均：275,2人） ・小出楢重展 4日 71人（1日平均：17,8人） 「日本美術の鉱脈展」関連イベントとして、親子連れが休館日の展示室をゆったり鑑賞できる特別開室を実施（8月18日開催）し、家族連れの利用者が快適に鑑賞できる機会の創出を実現した。	4

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	31

中期計画	**31. 多言語表記やICTの活用等によるさまざまな来館者への快適な鑑賞環境の提供** パンフレット、展示解説文等の多言語化を進めることとし、デジタル機器（情報端末）などを積極的に活用する。高齢者、障がい者、ベビーカー利用者等の利便性の向上を図るため、バリアフリー化を推進する

法人自己評価	
3	**各館においては、ICTを活用した多言語化を計画に基づき着実に推進した。特に、市立美術館の「日本国宝展」「ゴッホ展」や、自然史博物館の「昆虫MANIAC」では、自動翻訳サービスを活用して章立てパネルを15言語に対応させ、多言語化を実現した。また、「大阪博」においても自動翻訳により5言語でWebサイトを運営するとともに、「大阪の宝」の展示期間を分かりやすく発信するなど、多様な来館者に配慮した情報提供を行った。** **さらに、「デジタル大阪ミュージアム」Webサイトでは「大阪の宝」を日英で紹介するとともに、3D映像やVRによる展示を導入し、実物に近い体験型の鑑賞環境を提供した。またデジタルガイド「ブルームバーグ・コネクツ」においても館の活動を紹介し、国内外へ館の魅力を紹介する等、これらの取組により、来館者の満足度向上と快適な鑑賞機会の充実を図った。** **【令和7年度実績】** **ブルームバーグ・コネクツ：総ユーザー数 3,767（うち外国語ユーザー39.7%）**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	館パンフレットの情報更新と多言語化、及び「企画展示」の解説、サイネージ情報のgoogle翻訳による多言語化を実施する。	特別展には、「QRトランスレーター」を導入し、展示解説を多言語で提供した。 （日本国宝展15言語、ゴッホ展14言語） 加えて、展示室入り口で、サイネージによる「QRトランスレーター」の紹介も行った。 企画展示には、各室の章解説及び各展示品のキャプションには、英字を併記した。	3
大阪市立自然史博物館	ア これまでに実施した外国人を含む利用者動向調査の成果等を活かし、やさしい日本語を含め、多言語での情報発信の見直しを進める。 イ 常設展示場内における外国語表記について二次元コードを利用した解説など多様な手法について展示委員会にて他館事例などの情報収集を進め、試行を行う。 ウ 館内表示や非常放送の多言語対応などについて検証とスタッフによる案内の改善を行う。	ア 特別展については「QRトランスレーター」などで主題パネルの多言語による発信を行った。教員向け研修の場などでも非日本語話者の生徒の増加などが伝えられており、学校利用も含めた包摂的な取り組みが必要と検討をしている。 イ 外国人旅行者のスマートフォンによる自動翻訳利用が進み、最適な案内方法について再検討が必要な状況にあると考えている。Webサイトの英語ページのCMS、レスポンシブル対応を進め、スマートフォン対応と適時の情報提出対応を行った。 ウ スタッフ間での研修を進めた。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア 主要館蔵品61件の多言語対応の無料解説アプリ「ポケット学芸員」の提供とその充実を図る。 イ 令和7年度は、インバウンドの来館者への利便性向上を訴求する目的で、QRトランスレーターによる館内パンフレットのペーパーレス化を推進する。※対応言語数は11ヶ国語〔日本語、英語、中国語(簡体字、繁体字)、韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語〕	ア 特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」、コレクション展示などにおける多言語対応の無料解説アプリ「ポケット学芸員」を提供した。 ※対応言語数：5言語［日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語］ イ 館内パンフレットに二次元コードを利用した多言語対応ソリューション（QRトランスレーター）を取り入れ、スマートフォン等で11言語の翻訳表示を可能にする等、多様な来館者へ快適な鑑賞環境を継続して提供することができた。インバウンドの来館者への利便性向上をすることが出来た。 ※対応言語数：11言語［日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、タイ語、インドネシア語、ベトナム語］	3
大阪市立科学館	ア Osaka Free Wi-Fiサービスを提供し、来館者の利用に供する。 イ 施設案内サイン等（非常時の案内を含む）は多言語表記・ピクトを活用する。 ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース等、来館者ニーズに応じたサービスを提供する。 エ 展示解説文をQRコードを利用して、日英中韓の4か国語で紹介する。また、当館公式HPでも公開する。 オ オンラインを利用した展示場解説文の多言語化に取り組む。	ア Osaka Free Wi-Fiの、時間制約がなく接続できるなど利便性と安全性に優れたサービス向上版（Osaka Free Wi-Fi OpenRoaming）を導入した。 イ 令和6年度の館内リニューアルにおける施設案内サイン等は多言語表記・ピクトで設置した。 ウ 救護室、おむつ交換用ベビーベッド、授乳専用のスペース設置、ベビーカー、車椅子等多様な層のニーズに対応している。 エ 展示解説文を二次元コードを利用して、日英中韓の4言語で紹介する。また、当館公式Webサイトでも公開中。 オ 当館公式Webサイトで展示場内の展示物について、4言語解説を掲示しており、展示物の二次元コードから、その解説文を読むことができるようにしている。 また、プラネタリウム「GALAXY」において英語ナレーションを作成し、赤外線補聴器システムで提供し、必要とする来館者に機器を貸し出した。	3
大阪歴史博物館	ア 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。 イ 展示室のネットワーク環境を活用し、個人端末による音声ガイド（多言語）を充実させる。	ア 特別展・特別企画展・特集展示においてキャプションの英語表記を充実させるとともに、固定の配布物（考古学体験ゾーンの解説等）については四言語のリーフレットを整備した。 イ 常設展示において、多言語対応のスマートフォンを用いたミュージアムガイドを運用し、視覚障害だけではなく聴覚障害の方にも対応している。また、来館者を威圧しないような禁止マークの改訂方法について検討を始めている。	3
大阪中之島美術館	施設案内等の多言語化を推進し、外国人の受入れ体制の充実に努める。	引き続きWebサイトや施設案内等の多言語化を推進するとともに、携帯端末を用いた展示解説を行うなど、外国人の受入れ体制の充実を図った。	3
事務局	大阪博や各館の展覧会において、自動翻訳サービス等を活用し多言語化を実現するとともに、各所蔵品の展示期間をわかりやすく発信する等、来館者に対して快適な鑑賞機会を提供する。	市立美術館の「日本国宝展」「ゴッホ展」、自然史博物館の「昆虫MANIAC」において、自動翻訳サービス（QRトランスレーター）を活用し章立てパネルを15言語に翻訳し、多言語化を実現した。また、「大阪博」においても、自動翻訳により5言語でWebサイトを運営するとともに、各館における「大阪の宝」の展示期間をWebサイト上でわかりやすく発信する等、さまざまな来館者に対して快適な鑑賞機会を提供した。 「デジタル大阪ミュージアム」Webサイトにおいても「大阪の宝」を日英で紹介し、3D映像やVRによる展示を行うなど、より本物に近い館蔵品の展示を行うことで来館者の満足度の向上や快適な鑑賞機会の提供を実現した。	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (1) **ソフトの充実及び来館者の受入れ体制の整備** 幅広い来館者を獲得するため、中長期的な戦略に基づき、展覧会及び展示物に係るソフトの充実並びに来館者目線に立った徹底的なサービス向上による受入れ体制の整備を図る。	中項目No.	5
	小項目No.	32

中期計画	**32. 施設内外における来館者目線に立った分かりやすいサイン表示の充実** 施設内外に、図柄や多言語を用いた直感的に認識できるサインを掲出することにより、来館者の利便性の向上を図る。

法人自己評価	
3	**各館においては、施設内サインの充実に取り組み、案内機能の向上を図った。特に、大規模改修を実施した市立美術館および科学館では、引き続き視認性の向上に努め、来館者の円滑な動線確保を進めた。また、東洋陶磁美術館では新たにデジタルサイネージを設置し、分かりやすい案内・誘導を実現するなど、来館者サービスの向上に寄与した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	改修工事時に施した館内サインについて、来館者利便性等を検証する。	本館1F・2Fのトイレサインが見分けがつきにくいなどの来館者意見を汲み、サインの変更(ピクトを増やし、色目変更)を行い、来館者の視認性向上に寄与した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 長居植物園・長居パークセンターと協調して進める。	ア 花と緑と自然の情報センター1階のレイアウト変更に伴う点字ブロックの更新については、指定管理業者であるわくわくパーククリエイト㈱※と設置案を協議。整備については令和8年度以降となる見通し。(※で予算化の上、工事実施)	2
大阪市立東洋陶磁美術館	リニューアル開館に合わせて実施したエントランス棟と展示室でのピクトサイン、キャラクター、数字、色彩などを生かしたサイン表示をふまえながら、より来館者に分かりやすい案内誘導に努める。	展示室ごとに釉薬の色にちなんだ色分けバナーや数字バナーを設け、館蔵品のモチーフや色彩を活かした新たなサイン計画を導入することで、来館者にとって分かりやすく展示の特色が明確に伝わる案内誘導を実施した。また、9月には玄関口に65インチのサイネージを設置して展覧会や開館情報を発信している。さらに、特別展とコレクション展の確認ができるバナーマップを改良するとともに、館内マップやフリーWi-Fi、ポケット学芸員のダウンロード用二次元コードを掲載した英訳付きハンドアウトを配布している。	3
大阪市立科学館	ア 施設案内等に日英を中心とした多言語表記を導入するとともに、ピクトグラムを使用し、来館者にわかりやすい案内を行う。	令和6年度の館内リニューアルに伴い、施設案内等に日英を中心とした多言語表記と、JISZ8210ピクトグラムを使用し、来館者にわかりやすい案内を行っている。	3
大阪歴史博物館	ア 来館者状況を注視しつつ施設案内等の多言語化について見直しを進める。 イ 大阪城及び難波宮への来訪者にもわかりやすい屋外デザイン表示の拡充を進める。 ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、日本語以外の表示の充実を図る。	ア インバウンドの来館状況や個人端末による翻訳技術の進展を注視し、今後の施設案内等の多言語化の検討を進めている。 イ エントランスから屋外にかけて、博物館を案内するビジュアルサインを更新設置した。 ウ 様々な国の人々が展示を理解できるように、レストランに関する案内表示を新設するなど日本語以外の表示の充実を図った。	3
大阪中之島美術館	施設案内等の多言語化を推進する等、外国人にもわかりやすい案内表示を行う。	施設案内等の多言語化を推進するとともに、展覧会ごとにわかりやすい案内掲示の掲出を行った。	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (2) **周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携** 各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携し、相互割引やイベントの企画及び実施並びに広報の展開を通じて各館及びその周辺エリアの魅力向上を目指す。	中項目No. 小項目No.	6 33
中期計画	**33. 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携** (大阪市立美術館)「慶沢園」や「てんしば」「天王寺動物園」との誘客連携 (大阪市立自然史博物館)「長居公園を中心とする周辺施設」との誘客連携 (大阪歴史博物館)「大阪城」や「難波宮跡」との誘客連携 (大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館及び大阪中之島美術館等)地域の関連施設等との誘客連携	

法人自己評価	
3	**各館においては、周辺施設との連携を積極的に推進し、共同事業の実施や共同広報を通じて地域の活性化を図った。市立美術館では天王寺動物園やこども美術館と連携した教育普及事業を実施したほか、東洋陶磁美術館、科学館、中之島美術館では「中之島パビリオンフェスティバル2025」に参画し、地域連携の強化を進めた。 また、歴史博物館では民間事業者との協働事業を展開し、利用促進と連携強化を図った。さらに法人全体としては、「大阪博」の開催にあわせて各館及び周辺施設を回遊するNFTスタンプラリーを実施するなど、地域連携による回遊性向上と地域活性化に大きく寄与した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ア 慶沢園との共通チケットを販売する。 イ 周辺エリア(てんしば等)の事業者等との連携を図る。	ア 4月1日より、慶沢園共通チケットの販売を開始した。 (販売枚数:一般9,679枚 高大1,216枚 計10,895枚) イ 天王寺動物園、こども美術館、てんしば、天王寺MIO、あべのハルカス、阿倍野地下街、UNIQLO、ロフト、マリオットホテルと各種連携を行った。天王寺動物園及びこども美術館との教育普及事業として3者連携ワークショップを2件実施、天王寺MIOとの相互割引、UNIQLOあべのキューズモール店での大阪市立美術館の収蔵品等の画像を利用した商品販売など。 【実績】連携事業数:12件	4
大阪市立自然史博物館	ア 特別展などの機会を捉えた周辺飲食店との連携を行う。 イ セレッソ大阪のヨドコウ桜スタジアムでの試合開催時の特別展PRなどを推進する。 ウ 大阪自然史センターと連携したショッピングモールなどでのPR展開を特別展などの催事に合わせて企画・推進する。 エ 万博期間中長居植物園で開催されるLille3000企画展示(フランス)と連携したプロモーション活動を行う。(再掲)	ア 特別展関連のキャンペーン商品企画などを進めている。 イ ヨドコウ桜スタジアム試合時の昆虫MANIAC展の告知、ユニフォーム着用割引などを行った(14名利用)。 ウ イオン藤井寺店にて大阪自然史センターが自然史ワークショップを実施、合わせて博物館のPRを展開した。 エ Lille3000は展示以外のイベントがほとんどなく、設営協力などにとどまった。「昆虫MANIAC」展開催期間中、長居植物園との協働誘客事業として、AR体験の中で植物園内に生息する昆虫を捕縛して遊ぶAR体験事業「逃走虫(とうそうちゅう)」を実施。約8,000人が参加した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」への参加により、中之島パビリオンフェスティバル2025 Natural Ligth Display等の中之島エリアの各種機関との連携事業や共同広報などを推進する。	「中之島パビリオンフェスティバル2025」春・秋へ参画し、クリエイティブアイランド中之島が企画し、3月29日に発信された海外PR雑誌『Arcadia』をはじめ、クリエイティブライランド中之島に参加する各施設の紹介を記載した。多言語版マップチラシや、令和7年度春コア期間(5月10日～5月25日)に関する情報発信や周遊パスの発売により、中之島エリアへのインバウンド客の誘致や中之島の新たな魅力向上に繋げた。	3
大阪市立科学館	ア Osaka Metro、京阪電鉄、JR等の交通機関にポスターを掲示する。 イ Osaka Metro、京阪電鉄、近隣図書館、動物園、近隣ホテル等の各種施設にチラシ・リーフレット等を設置する。(再掲) ウ 中之島地域の各組織が連携したクリエイティブアイランド中之島実行委員会に参加して連携に協力し、中之島パビリオンフェスティバル等の連携事業に参加・実施する。 エ 中之島地域のエリアネットワーク(中之島ウエスト・エリアプロモーション等)と連携したイベントに協力、実施する。 オ 国立国際美術館、大阪大学中之島センター内カフェとの連携を検討する。	ア Osaka Metro、京阪電鉄にポスター掲示を行っている。 イ 科学館だよりやリーフレットを、Osaka Metro、京阪電車、近隣の図書館やホテルなどに配布・設置した。 ウ クリエイティブアイランド中之島では、実行委員会に参加するとともに、ワーキンググループに参加して連携事業の企画や実施に協力している。館内には、クリエイティブアイランド中之島の事業を広報する「ミーティングポイント」を設置し、チラシの配架を行っている。共同の広報への情報提供も行っている。また、「中之島パビリオンフェスティバル」では、連携事業や広報に参加するとともに、共通チケット「中之島パビリオン周遊パス」に参加することにより来館者の誘致を行った。 エ 中之島ウエスト・エリアプロモーションの事業に参加した。またアートエリアB1と大阪市北区役所、京阪ホールディングスとの共催事業を実施した。 オ 年度途中でカフェ運営事業者の営業が終了したが、次期運営業者との検討に入っている。	3

大阪歴史博物館	ア　大阪城天守閣との相互割引を検討し、新規来館者の増加に努める。 イ　Osaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や各鉄道事業者の事業への協力等を通じて広報を推進する。 ウ　周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE、近鉄百貨店各店など）との広報協力を継続する。また、令和7年度に開業する難波宮跡公園北部ブロック整備事業との連携を継続する。 エ　「民間企業による新規事業連携」事業で採択された企業による提案をもとに「ユニークベニュー事業」や「学び×エンタメ事業」に協力して実施することで館の魅力を向上させる。 オ　「生きた建築ミュージアムフェスティバル（イケフェス大阪）」や「OSAKA CLASSIC」など大阪市で開催されている文化イベントの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行う。 カ　NHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、BK大感謝祭等にあわせた企画を実施する。 キ　大阪迎賓館等と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーの企画を立案する。（再掲） ク　各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出する。 ケ　民間企業と協働でイベントを企画し実行する。 【令和5年度実績】クラブツーリズム5件、大阪迎賓館1件、JTB1件 【令和7年度目標】クラブツーリズム2件、大阪迎賓館1件	ア　大阪城天守閣との相互割引については、費用対効果の観点からいったん解消し、新たな連携を模索中である。 イ　Osaka Metro駅構内でのポスター掲示の継続や各鉄道事業者の事業への協力等を通じて広報を推進した。 ウ　周辺の商業施設（もりのみやキューズモールBASE、近鉄百貨店各店など）との広報協力を継続した。また、令和7年度に開業した難波宮跡公園北部ブロック整備事業との連携を継続した。 エ　JTBコミュニケーションデザイン株式会社を代表とする事業者が進める「民間企業による新規事業連携」事業に協力し、「学び×エンタメ事業」を実施することで館の魅力向上に努めた。 オ　「生きた建築ミュージアムフェスティバル（イケフェス大阪）」など大阪市で開催されている文化イベントの関連を深めることで、博物館に関心が低い方々への周知を行った。 カ　NHK大阪放送局との共同企画を立案・推進するとともに、同局イベントへの参画を継続し、BK大感謝祭等にあわせて歴博ブースの設置などを行った。 キ　大阪迎賓館と連携し、常設展示と周辺史跡等を活用したガイドツアーを2回実施。 ク　各館と共同で、あべのハルカス近鉄本店内に特別展等のポスターを掲出した。 ケ　クラブツーリズムにおけるツアー企画を7件実施した。 （参考）令和6年度実績 クラブツーリズム9件	3
大阪中之島美術館	ア　「クリエイティブアイランド中之島実行委員会」に参加し、連携したイベントや広報に協力、実施する。 イ　周辺施設との誘客策に取組む。	ア　クリエイティブアイランド中之島実行委員会と連携した事業「ARでめぐる『中之島15の場所での物語』」において、AR総合演出及び体験プラットフォームの提供を行った。また協働した広報を展開した。 イ　「クリエイティブアイランド中之島」と協働し、エクスチェンジプログラムや講演会、ワークショップなどの開催情報を発信した。また鉄道会社や周辺の飲食店等と連携した広報を展開した。	3
事務局	大阪博の開催において、NFTスタンプラリーや大阪博WEBサイト等の広報の展開や事業の実施を通じて各館及びその周辺エリアの魅力向上を目指す。	「大阪博」の開催において、各館及びその周辺施設を周遊するNFTスタンプラリーを開催する等、周辺施設との連携を図り地域の賑わいの創出を図った。また、「大阪博」Webサイトにて、各館の楽しみ方を周辺施設とともに紹介する記事を公開し、その内容と連動したショート動画をSNSで発信することで、地域の魅力向上を図った。 【令和7年度実績】 スタンプラリーにおける累計スタンプ発行数 天王寺・谷町エリア：2,915件、長居公園エリア：1,101件	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (3) **民間企業等との協働等** 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。	中項目No.	7
	小項目No.	34

中期計画	**34. 各館のミュージアムショップ、カフェ等における民間企業等と連携したサービスの充実** ミュージアムショップやカフェ・レストランについて、民間事業者と連携して、商品開発や快適な空間の提供など来館者サービスの充実を図る。

法人自己評価	
3	**各館においては、特別展と連動した商品開発等を積極的に推進し、カフェやミュージアムショップにおけるコラボレーションメニューの開発を行った。これにより、展覧会の魅力を館内サービスにも展開し、来館体験の向上を図った。 特に科学館では、令和8年度から営業を開始するカフェ・ショップの事業者と意見交換を重ね、運営体制の充実に向けた準備を進めた。また、歴史博物館では連携する民間事業者とともに体験型イベントを年間11回実施し、来館者参加型の事業展開を積極的に推進した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ミュージアムショップやカフェの委託事業者と協議を行い、館運営とリンクした来館者サービスの向上を実現する。	特別展と連動した来館者サービスの充実に取り組み、カフェでのコラボメニュー提供やミュージアムショップでの関連グッズ販売を実施した。特に「根来展」では、根来塗漆器の特別販売及び同漆器を用いたスイーツ提供を行い、また「妙心寺展」においてもコラボスイーツを展開するなど、展覧会の魅力向上と付加価値創出に貢献した。	3
大阪市立自然史博物館	ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、アンケートによるフィードバックを得ながら常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供できるように努める。	ア ミュージアムショップを継続的に提供し、主催の「貝に沼る」展、巡回の「昆虫MANIAC」展ともに主題に寄り添ったオリジナルグッズ企画(合計10点以上)と関連商品展開を行った。特に「貝千種風呂敷」は大変好評を博し、ネットニュースなどにも度々紹介された。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供している。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア カフェ、ショップ事業者とのコラボ商品開発を推進する。 イ カフェでは、展覧会やイベントにちなんだ当館オリジナルメニューを継続して開発し、来館者に提供する。オリジナルメニューとしては、陶片をイメージしたクッキー、展示作品をモチーフとしたスイーツやドリンクを中心にSNSなどでも発信し来館者数増に貢献する。 ウ ショップでは、当館作品とのコラボ商品を数多く開発し、お客様の増加に努める。	ア カフェ、ショップ事業者とのコラボ商品開発を推進した。 イ カフェでは、当館オリジナルメニューを開発、顧客に提供した。オリジナルメニューとしては、白磁刻花、木葉天目をモチーフとしたスイーツ、作品をイメージしたうつし絵クッキー、釣青茜映し花生をモチーフとしたドリンク、黒織部波文茶碗をモチーフとしたコーヒーゼリーなどがあり、SNSなどで人気メニューとして発信された。 ウ ショップについても、当館作品とのコラボ商品を数多く開発、一例として、ポケットサーモボトル、トートバッグ、しおり、マグネットなどが好評を博した。	3
大阪市立科学館	民間事業者と連携し、カフェのオリジナルのメニュー開発や、ミュージアムショップのオリジナル商品開発、販売を行い、快適な空間の提供など来館者サービスの充実を図る。	リニューアルオープンに伴い、1階ミュージアムショップを移転、面積を拡大したことにより、付せん、マグカップ、トートバッグ、マスキングテープ、ラバーキーホルダー、タオルハンカチなどのオリジナル商品の開発し配置できるようになったことから、オリジナル商品の販売を充実させた。 また、令和8年度からの営業を開始するカフェ及びショップの新規運営事業者との打ち合わせをとおし、カフェやショップの新規商品開発の検討を開始した。	3
大阪歴史博物館	ア JTBコミュニケーションデザイン株式会社を代表とする事業者とともに進める「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、展覧会コラボレーションメニュー(レストラン)を展開する。各種ワークショップなどの開催など体験型メニューに力を入れる「コト消費」にシフト(ミュージアムショップ)するなど館の魅力向上に努める。 【令和7年度目標】コラボメニュー4品目 ワークショップ4開催 イ 来館者の属性などマーケティングデータに基づいたメニュー、サービス提供を目指す。	ア JTBコミュニケーションデザイン株式会社を代表とする事業者とともに進める「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、展覧会コラボメニュー(レストラン)を4展覧会10品目、体験型イベント等を11回(シルクスクリーン体験、妖怪イマーシブイベント、大阪ツアーイベント、利き酒会など)企画・実施した。 (参考)令和6年度実績 コラボメニュー3展覧会9品目、ワークショップ等10回 イ 来館者の属性などマーケティングデータに基づいたメニュー、サービス提供を検討中である。	4
大阪中之島美術館	他企業と連携し、展覧会にかかる商品開発に努める等、来館者サービスの充実を図る。	他の企業や団体と連携して、展覧会の企画・テーマ等に沿って商品開発を進めるなど、来館者サービスの向上を実現した。	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (3) **民間企業等との協働等** 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。	中項目No.	7
	小項目No.	35

中期計画	**35. 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発** 民間事業者等と協働したミュージアムグッズの企画と商品化等を図る。 民間事業者等と協働し、AIの活用などによる展示設備の開発を進める。

法人自己評価	
3	**各館においては、ミュージアムショップや館内カフェ事業者と連携し、博物館・美術館に関連するグッズやメニューの開発・商品化を進めた。これらの商品は来館者から好評を得るなど、館の魅力向上及び来館促進に寄与した。 【主なグッズ開発の実績】自然史博物館：10点以上、東洋陶磁美術館：14件、科学館9点、歴史博物館：7件24点**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	ミュージアムショップ委託事業者と連携し開発したオリジナルグッズについて、改良等検討する。	すでに開発している館蔵品や施設外観をあしらったオリジナルグッズ（15アイテム－73SKU）に加えてオリジナルグッズを追加した。	3
大阪市立自然史博物館	ア ミュージアムショップサービスを継続的に提供できるように努め、常設展や特別展と連携した商品展開のための情報提供など、魅力の向上に努める。 イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供できるように努める。（再掲） ウ 民間出版社と協力した書籍の作成を行う。	ア ミュージアムショップを継続的に提供し、主催の「貝に沼る」展、「学芸員のおしごと」展、巡回の「昆虫MANIAC」展ともに主題に寄り添ったオリジナルグッズ企画と関連商品展開を行った。【合計10点以上】特に「貝千種風呂敷」は大変好評を博し、ネットニュースなどにも度々紹介された。（再掲） イ 自動販売機設置などアメニティを継続的に提供した。 ウ 過去に出版した書籍の改定新版作成の企画を進め、執筆スケジュールを確定させるなど具体化が進んだ。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	民間企業と連携し、展覧会や所蔵作品にちなんだオリジナルグッズの企画と商品化をおこない、来館者増に努める。	民間企業と連携し、展覧会や所蔵作品にちなんだオリジナルグッズの企画と商品化を行った。 【実績】 ・商品化件数：14件 ・ロールステッカー、アクリルマグネット、アクリルバッジ、Tシャツ（婦女俑）、コットンポーチ、ポケットサーモボトル、有田焼ガラスペン、しおり、トートバッグなど、今までにないコラボ商品のため、他では買えない記念品として購入される方が多い。（特別展「MOCOコレクション オムニバス－初公開・久々の公開－PART1」からスライドミラーとボールペン追加）	3
大阪市立科学館	民間事業者との連携で、ミュージアムショップの商品の充実を検討する。	館のロゴやカールツアイスⅡ型プラネタリウムをデザインした記念メダルやマグカップなど、9点のミュージアムグッズを開発・販売した。また学芸員が監修者として関与し、新商品の開発を進めている。 令和8年6月以降は、プロポーザルにて選定された事業者がカフェ、ミュージアムショップを運営する。科学館と事業者が協同して、より魅力的なメニューやオリジナルグッズを開発し科学館の魅力を発信するとともに、来館者が体験や実験を楽しめる機会の提供にむけ、検討・開発を行っている。	3
大阪歴史博物館	「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が運営するミュージアムショップで販売するグッズの選定・開発を進める。 【令和5年度実績】2種類開発、発売 【令和7年度目標】4種類開発、発売	「民間企業による新規事業連携」事業の一環として、民間連携事業体が運営するミュージアムショップで販売するグッズを7件24点開発し、展覧会コラボメニュー（レストラン）を4展覧会10品目開発した。 （参考）令和6年度実績 ミュージアムグッズ商品化3件5点、レストランでの展覧会コラボメニュー3展覧会9品目	4
大阪中之島美術館	民間事業者等と協働したミュージアムグッズの企画と商品化等を図る。	展覧会に関係する民間事業者等と連携し、利用者のニーズに応えるグッズの企画・開発を行った。 【実績】 ・「小出楢重 新しき油絵」「新時代のヴィーナス！アール・デコ100年展」の特別企画として、展覧会の出品作品を用いた限定デザインの巾着を作成。 「拡大するシュルレアリスム」展において人気ベーカリー と協働し、展覧会テーマを味覚として体験できるオリジナル商品を開発・販売。 ・その他展覧会ごとに関連したバッグ、ポストカードを作成。	3

大項目Ⅰ-② 2 幅広い来館者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	大項目No.	1-②
中期目標 (3) **民間企業等との協働等** 各館のサービスの充実及び観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野の活性化のため、次の通り民間企業等との協働及び相互支援を推進する。	中項目No.	7
	小項目No.	36

中期計画	**36. 各館の専門性や博物館等資料を活用した民間企業等との活動の支援** 専門的知識に基づく助言等を行うことにより、民間企業や住民活動を行う団体等を支援する。 博物館等資料を使った出版活動や商品開発を支援する。 企業のCSR活動の支援を行う。

法人自己評価	
3	**各館とも計画通り、学芸員の派遣や画像提供等を通じて民間事業者等の活動の支援を行った。 特に自然史博物館では大阪府内の市町村や周辺自治体の環境行政への延べ40人を超える学芸員の派遣・協力を行った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	各種出版や商品開発のための画像データを提供する。 【令和5年度実績】 60件	・各種出版や商品開発のための画像データの提供を実施した。 提供件数:10件 ・「全力！名宝物語展」グッズ製作用に作品画像データを提供した。 ・硯箱の作品・画像を提供し、展覧会事業に協力した。 ・印籠の画像と解説文を提供し、出版事業に協力した。 ・「豊臣秀長像」「豊臣秀吉像」(いずれも禅林寺所蔵)の画像を提供し、展覧会事業に協力した。 ・「檜原図及びいろは歌図屏風」(禅林寺所蔵)の画像を提供し、出版事業に協力した。 ・「推古天皇像」(叡福寺所蔵)の画像を提供し、番組制作事業に協力した。 ・「小早川秀秋像」(高台寺所蔵)の画像を提供し、番組制作事業に協力した。 ・「楼閣山水図屏風」渡辺了慶筆(大阪市立美術館所蔵)の画像を提供し、修士論文の執筆に協力した。 ・「豊臣棄丸像」(妙心寺所蔵)の画像を提供し、番組制作事業に協力した。 ・ミュージアムグッズ事業者に根付作品画像を提供し、グッズ商品化に協力した。	3
大阪市立自然史博物館	ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、京都府等の環境行政に委員等として協力を行う。 イ 大阪府のレッドリスト、生物多様性地域戦略について、有識者として協力を行う。 ウ 兼業等を含め、民間企業等への講師派遣を行う。 エ 長居公園みどり自然部会への協力を行う。 オ 長居公園が実施する植物園内鳥類モニタリング調査への協力を行う。	ア 大阪府、堺市、吹田市、岸和田市、河内長野市、京都府、奈良県等の環境行政に委員等として学芸員を派遣、協力を行っている。【2025年度延べ40人を超える】 イ 特に大阪府のレッドリストには部会長及び分科会委員として多くの学芸員が、生物多様性戦略には部会委員として学芸員が参画している。 ウ 兼業等を含め、民間団体等への講師派遣を行っている。 エ 長居公園みどり自然部会への協力を行っている。 オ 鳥類モニタリング調査(夜間照明の鳥類への影響調査)の委員及び事務局として協力している。 その他 和泉市の委託を受けて文化財調査を行なった。	4
大阪市立東洋陶磁美術館	出版社などとの書籍類の開発など、直接的な民間事業者との協働やオープンデータ化した館蔵品画像による出版事業や商品開発を促進する。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」にあわせて、東京の株式会社求龍堂とともに、同展担当者の監修による展覧会関連書籍『CELADON―東アジアの青磁のきらめき』を出版した。 またミュージアムショップやカフェにおける、絵葉書やうつし絵クッキーなどの商品開発に協力した。 【実績】 ・オープンデータ画像を活用した出版事業:1件(JTBパブリッシング)	3
大阪市立科学館	館蔵資料や展示物の画像データの提供、専門的な問い合わせ・取材対応等を通じて、企業、自治体活動の要請に応える。 【令和5年度実績】民間事業者への画像有償提供12件	館蔵資料や展示物の画像データの提供や専門的な問い合わせはなく、民間事業者への画像有償提供は3件である。	3
大阪歴史博物館	ア 館蔵資料の写真利用、問い合わせ対応等を通じて、企業、自治体、住民団体の要請に応える。 【令和5年度実績】特別観覧276件 イ 「民間企業による新規事業連携」事業の一環で、民間連携事業体が展開する「学びエンタメ事業」について、共同で事業の実施を進める。 【令和7年度目標】10件 ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行する。 【令和5年度実績】3件	ア 各方面より館蔵資料利用についての問い合わせを日常的に受けており、企画が実現するよう対応した。 (参考)令和6年度実績 特別観覧167件 【令和7年度実績】 特別観覧163件 イ NTT都市開発による難波宮跡の整備運営事業にかかわって、専門的知識の助言や写真提供などの協力を行った。 ウ 通常の博物館運営並びに展示改修の支援を得るべく法人賛助会員の獲得活動を実行中。2件	3
大阪中之島美術館	博物館等資料の貸出を積極的に行う。	館で開催する展覧会の状況等を勘案しつつ、博物館等資料の貸出を積極的に行った。 【館蔵品資料・データ提供実績数】 84件(利用料免除除く)	3

大項目Ⅰ-③　　3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	大項目No.	1-③
中期目標　（1）**こども及び教員等への支援** 博物館等の活動に関連するこどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。	中項目No.	8
	小項目No.	37

中期計画	**37. こども及び教育等への支援** 博物館等の活動に関連するこどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。 こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施を行う。 教員等を対象とした研修及び教材の開発に係る支援を行う。 学校教育との連携をさらに推進し、共同で博物館内での学習、出前授業など学習支援を行う。
法人自己評価 **3**	**各館において、講演会や見学会、ワークショップ等の教育普及活動を積極的に展開した。また、教員の資質向上に資する教員支援施策を実施し、学校教育との連携強化を図った。さらに法人全体としては、包括連携をもとに大阪市教育委員会との意見交換を実施し教育現場のニーズ把握に努めた。** **【実績】市立美術館：こども美術展等6件、自然史博物館：子供向けワークシート参加者数　約2,500人、東洋陶磁美術館：「Love Stone Project – MOCO 大阪市立東洋陶磁美術館×冨長敦也》」、科学館：プラネタリウム学習投影　207回・ジュニア科学クラブ　12回、中之島美術館：「ナッカ・スクール・プログラム」計13日、「教員のための博物館の日」2日間　他**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	子ども、家族を対象とする、ワークショップやイベントを実施する。 アートカードによる対話型鑑賞、及び朗読と映像・音楽による作品鑑賞会を開催する。	子供向けワークショップ・関連事業を6件実施した。 1. 天王寺動物園及びこども美術館との3者コラボによる教育普及事業 「こどもの美術展　～わたしがみつけた天王寺動物園のすてき」 ・ワークショップ参加者38名、展示を7月23日～8月24日に実施 2. 小学生向け鑑賞ワークシートを開発・制作し、学校団体の教育活動に活用 ・①美術館入門編、②探検MAP編、③キャラクター誕生編　計3種類 3. ファミリーデー関連事業を実施 「アート・ヒーロー大集合！アートカードで楽しむ美術館」ワークショップ ・開催日：12月13日、ファミリーデー参加者小中学生140名、アートカードワークショップ参加者33名 4. 天王寺区連携の「小学校体験学習交流会」の実施 ・4回実施（10/9 、11/26、12/9、12/11）し、 計820名が参加 5. 親子向け禅体験イベント「妙心寺にまなぶ ―親子でふれる禅のこころ」　開催日：2026年2月28日、参加者：40名 6. 特別展における教育普及機能の強化 ・「根来展」「煎茶展」「妙心寺展」において子ども向け解説を23件作成した。	3
大阪市立自然史博物館	ア　子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し、配布する。 イ　展示室内での子どもワークショップを継続的に実施することによって、既存の展示室の活用を活発化する。 ウ 「教員のための博物館の日」を開催し、学校利用のための研修や相談を実施する。 エ　教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用方法の周知に努める。 オ　教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努める。 カ　職場体験を受け入れる。	ア　子ども向けのセルフワークシートとして探検ノートを開発し、定期的に新たな問題を作成し配布している。（年間約2,500人が参加） イ　子どもワークショップも特別展の主題や常設展示内の展示物と連動した企画を行い、来館者の理解を促進した。（再掲） ウ 「教員のための博物館の日」を開催（2025年8月7日実施、全日参加69名、午前のみ31名）し、そのほかにも大阪市教育センターなどと協力して学校利用のための研修（7月31日実施など11件）や相談に対応した。 エ　教員向けサポート連絡誌TM通信を発行し、利用方法の周知に努めている。【年4回発行、登録数165人。他に大阪市・大阪府教育センターで100部ずつ配布】 オ　教員と連携した貸出資料・学習キットの開発に努めている。【2025年度実績113件】 カ　職場体験を受け入れている。【10件】 その他　長居小学校、長居文庫（学童向け図書館）に対し図書を寄贈。（ミニガイド35冊、特別展図録15冊、共催展図録9冊　計59冊）	3
大阪市立東洋陶磁美術館	家族連れや児童・生徒などを対象とした、ワークショップやイベント等を計画を進めていく。	・「Love Stone Project - MOCO 大阪市立東洋陶磁美術館×冨長敦也》」を5月17日に実施するとともにワークショップを開催し体験者から好評を博した。（参加人数：15人） また大阪大学の学部1年生向けの授業の一環として、5月25日に学芸員のレクチャーと展覧会の見学を行った。	3
大阪市立科学館	ア　学習指導要領に対応した新展示場ワークシートを制作・公開する。 イ　学校団体向けプラネタリウム学習投影を実施し、観覧者に天体の運行などに関する学習理解の手助けとなる学習用資料を配布する。 【令和5年度実績】学習投影実施151回 ウ　小学校5・6年生を対象とした会員制事業「ジュニア科学クラブ」を実施する。 【令和5年度実績】会員数64人 エ　小学校向けの出張サイエンスショーを実施する。 オ　幼稚園児や小学校低学年とその家族を主な対象としたプラネタリウム「ファミリータイム」の投影を実施する。 【令和5年度実績】実施280回	ア　新ワークシートを制作した。（公開は、令和8年度中） イ　学校向けのプラネタリウムの学習投影を207回実施した。 ウ　小学校5・6年生を対象としたジュニア科学クラブについて春夏組と秋冬組の2組に分けて実施。春夏組50名については9月末までに6回実施、秋冬組51名については、3月末までに6回実施した。 エ　小学校向けの出張サイエンスショーについては、業務見直しのため、取りやめ。 オ　幼稚園児や小学校低学年とその家族を主な対象としたプラネタリウム「ファミリータイム」の投影を453 回実施した。 他、 ・教員研修を2回実施。5月14日　サイエンスショーを見学後、意見交換。さらに当館展示場のワークシートについて検討した。 ・新任教員研修として、大阪市立の中学校教員1名を受入れ、8月及び9月の2日間に館内での研修を行った。 8月20日量子化学に関する研修を行い量子化学に関してゲームを通じて、最新の知見を教員に教授した。 ・大阪市立自然史博物館で開催された「教員のための博物館の日2025 in 大阪市立自然史博物館（8/7）」において、当館学芸員が、「新技術でリアル・バーチャルの天体観察」という講義を行った。	3

大阪歴史博物館	ア 「わくわく子ども教室」「考古学体験教室」等のこども向け事業を実施する。 【令和5年度実績】「わくわく子ども教室」実施件数5件、参加人数205人 「考古学体験教室」7校、参加人数456人 【令和7年度目標】「わくわく子ども教室」実施件数7件、「考古学体験教室」6校 イ 教員研修への協力として「教員のための博物館の日」を実施する。またワークショップの開催等を通じて、館活動の周知と教材開発への支援を行う。 【令和5年度実績】実施件数2件、参加人数68人 【令和7年度目標】実施件数2件 ウ 地元の学校を対象とした郷土史学習コンテンツやイベントを共同で企画し、館への参画・利用を働きかける。 【令和5年度実績】「綿繰り体験」1校、ほか職業体験など7校 【令和7年度目標】5校	ア ①わくわく子ども教室7件 238人(「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」(5/3・4:166人)、「なりきり三英傑～ 戦国武将のお面を作つくろう」(8/11:17人)、「はっけん！“織りもの”のヒミツ」(8/11:21人)、「金箔瓦をつくろう、郷土玩具であそぼう」(9/21)、「凧づくりと凧あげ」(2/7:16人)、「れきはく鉄道の切符をつくろう！」(3/20:15人)、「れきはく場所で紙相撲を楽しもう！」(3/28:3人)) ②考古学体験教室を11/13に実施。1校67人 (参考)令和6年度実績 ①わくわく子ども教室8件302人 ②考古学体験教室 2校 111人 イ 大阪市総合教育センターとの連携で8/4に教員研修を実施し(50人)、博物館機構主催「教員のための博物館の日」を同時開催した(22人)。今年度は令和6年度に中大江小学校3年生を対象に実施した「大大阪時代のレクチャーと展示見学」等の成果について報告し、学校団体の来館及び展示利用の促進を図った。 (参考)令和6年度実績 2件 69人 ウ 地域学習等3校、職場体験等3校を受け入れた。 (参考)令和6年度実績 「綿繰り体験」等3校、職業体験など7校	3
大阪中之島美術館	こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のための支援施策を実施する。	学校団体向けの対話型鑑賞会「ナッカ・スクール・プログラム」や子どもたち向けの鑑賞支援資料の提供を通じてこどものリテラシー向上に努めた。 「日本美術の鉱脈展」関連イベントとして、親子連れが休館日の展示室をゆったり鑑賞できる特別開室を実施し(8月18日開催)、こどもの美術への関心の啓発を図った。 展覧会の垂れ幕を再利用する小学生参加型のワークショップ「アップサイクル・ワークショップ」を開催し、参加型教育による環境意識の醸成に努めた。 【実績】「ナッカ・スクール・プログラム」計13日、「アップサイクル・ワークショップ」:計5日開催	4
事務局	大阪市教育委員会との連携協定を基に、大阪市の学校教育の現状や今後に向けての情報収集に努める。	大阪市等における各館への学校見学の状況や教育ニーズ等について情報収集を行った。また、学校現場の教育ニーズについて教育委員会担当部局と意見交換を行い、教育普及のために求められる学校現場におけるテーマについて協議を行い各館との調整を行った。	3

大項目Ⅰ-③　　3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	大項目No.	1-③
中期目標　(2) **幅広い来館者への支援** 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。	中項目No.	9
	小項目No.	38

中期計画	**38. 幅広い来館者への支援** 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧等に関する教育及び普及の事業を行う。

法人自己評価	
3	**各館においては、講演会の実施や教育実習の受入れを通じて、幅広い教育支援の取組を推進した。また法人全体としては、大阪公立大学等への講義提供や大阪商工会議所との包括連携に基づく「なにわなんでも大阪チャレンジ」への問題提供や、事務局職員による機構の活動を紹介する出前講座等を行い、多様な連携事業を積極的に展開した。** **【令和7年度実績】** **キャンパス・メンバーズ加盟校：7校・5館のべ利用者数11,664人、講義提供数：41コマ、なにわなんでも大阪チャレンジ：3回実施、出前講座：4件**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	博物館実習の受け入れを再開する。(30人程度) インターンシップ受入れ再開に関して、募集方法や実施内容について協議する。	学生支援として、大学教員と学生の観覧の受け入れ、解説を行った。 ・神戸大学　日本国宝展　50名 ・神戸大学　天空のアトラス展　30名 ・四天王寺大学　企画展示　26名 ・京都芸術大学　妙心寺展　15名 ・大阪大学　日本国宝展　27名 ・大阪大学　根来展　30名 ・大阪大学　妙心寺展　30名 ・甲南女子大学　根来展　25名 ・奈良大学　日本国宝展　39名 ・奈良大学　根来展　38名 ・筑波大学　日本国宝展　17名 ・大谷大学　日本国宝展　20名	2
大阪市立自然史博物館	ア　特別なニーズを持つ利用者からのヒアリングを含め、対話の取組を進める。 イ　博物館実習生・インターン・専門研究のための利用など多くの学生を受入支援する。	ア　特別なニーズを求める利用者の支援団体との意見交換、イベント協力などを進めた。来年度以降拡充の方針である。 イ　夏期の実習生18名、秋期18名、冬期12名の実習生を全国各地から受け入れた。標本調査は資料利用実績に含む。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ア　市民の多様な学習ニーズに対応した、コレクションや展覧会に関連する講演会や講座などの教育普及事業を実施する。 イ　博物館学を開講する大学の見学実習の受け入れなどを無理のない範囲で実施する。	ア　コレクションや展覧会に関連する記念講演会や学芸員研究講座などの教育普及事業を行った。また、新規来館者を獲得するため、初心者向けの『いまこそ聞きたい』シリーズ講座を新たに全10回開催した。 ・記念講演会（1回実施） ・学芸員研究講座（2回実施） ・『いまこそ聞きたい』シリーズ講座（全10回実施） イ　公立大学の博物館学展示論の講義や見学実習を実施した。	3
大阪市立科学館	ア　プラネタリウム番組において、英語ナレーションを用意し、副音声での提供を試行する。 イ　キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促す。 ウ　博物館実習を実施し、学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行う。 【令和5年度実績】実習受講者5名 エ　　市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所事業を行う。 【令和5年度実績】コロキウム6回実施、参加者80名	ア　プラネタリウム番組において、文化庁の日本博の補助金を使用し英語ナレーションを用意し、副音声での提供を行った。機器の貸出し件数は142件。 イ　キャンパスメンバーズ対応館であることをPRし、大学生等の来館を促している。また、大阪公立大学の広報誌の取材を直接受け、キャンパスメンバーズのことを広報した。 ウ　博物館実習を実施し、今年度は、6名の学芸員資格の取得を目指す学生の支援を行った エ　市井の研究者と学芸員の協働による中之島科学研究所の普及事業を11回行った。参加者144名 また、大阪教育大学の令和7年度教育コラボレーション演習として、学生4名を受入れ、ジュニア科学クラブ等での事業支援を行ってもらっている。	3
大阪歴史博物館	ア　学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、連続講座・見学会などを実施する。 【令和5年度実績】講座20回、参加人数1,002人、見学会14回、参加人数207人 【令和7年度目標】講座6回、参加人数350人、見学会4回、参加人数60人 イ　博物館実習等を通じ、学芸員資格の取得を目指す実習生を受け入れるとともに、学校からの要望に応じて職業体験や出前授業を実施する。 【令和5年度実績】博物館実習：実施2回、参加数12大学50人、見学実習7大学、参加人数255人、中学生向け職業体験：3校7名、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等：高等学校4校 【令和7年度目標】博物館実習：実施2回、参加人数40人、見学実習 中学生向け職業体験、職場訪問・職業インタビュー・地域学習授業等	ア　学芸員が各自の専門の最新の研究成果にもとづき、なにわ歴博講座（3回）、講演会「大阪の歴史を掘る」、「16mmフィルム〈表情1970〉デジタルリマスター上映会」、現地見学会「初めての歴史散歩」（2回）などを実施した。10月には特別企画展関連行事として現地見学会を実施した。 （参考）令和6年度実績 講座・講演会4回 464人、見学会8回 125人 イ　博物館実習は2回（8/18～22、8/25～29）実施し、10大学37人を受け入れた。特集展示「デザインの玉手箱・鐔」において博物館実習により制作したキャプションを展示し、学生の学習発表に資した。このほか、見学実習は10大学264人、中高生向け職業体験は3校9人、職場訪問・職業インタビュー等は4校18人を受け入れた。地域学習授業等は3校である。 （参考）令和6年度実績 ①博物館実習2回、参加数9大学29人　②見学実習9大学、参加人数366人　③中高生向け職業体験4校11人　④職場訪問・職業インタビュー等3校15人　⑤地域学習授業等3校	3

大阪中之島美術館	美術とデザイン作品を楽しみ、想像力を高めることができるプログラムを、さまざまな専門機関と連携して企画・実施する。	「生誕150年記念 上村松園」や「日本美術の鉱脈展　未来の国宝を探せ！」などの展示室において、民間団体との協働により、こども向けの対話型鑑賞支援プログラムを積極的に開催し、来館児童が作品への理解を主体的に深める鑑賞体験の創出を実現するとともに、教育普及機能の強化および多様な来館者層の拡大を図った。また、積極的に博物館実習生の受入れを行った。 【実績】 ・博物館実習：2025年8月5日～9日開催。受入れ人数：6名	4
事務局	ア　キャンパスメンバーズを実施し、大学生等が各博物館を気軽に訪れられるようにし、常設展示・特別展等で行う文化・知識に触れやすくする環境を整え、専門的な知識内容の理解を深められるようにする。 イ　包括連携協定に基づき、大阪公立大学の博物館講座「資料保存論」「展示論」「博物館経営論」の3講座に対する取りまとめを行い、職員の出講を行う。	ア　キャンパスメンバーズ制度の実施により、学生及び教職員が気軽に各博物館を訪れられるよう環境を整備し学生等の専門知識の向上に寄与した。令和7年度からは2校の加盟校を新たに加え、より多くの人々を迎える体制整備を実現した。また、新森之宮キャンパスを開設する大阪公立大学の学生が運営・発行する「森之宮ジャーナル」においてキャンパスメンバーズ制度を紹介するための取材対応を積極的に行った。 イ　大阪公立大学との包括連携協定に基づき、大学における講義「博物館保存論」「博物館展示論」「博物館経営論」の取りまとめを行い、職員の出講を行った。また、大阪市内の団体からの要請に応え、博物館・美術館の魅力を伝える出前講座に事務局職員が参画した。 その他、様々な人々への教育メニューとして出前講座（出張講義）を実施し、博物館・美術館運営等にかかる事業の紹介を行うことで多様なニーズに応えた。 【令和7年度実績】 令和7年度キャンパスメンバーズ加盟校：6校 大阪公立大学　講義提供数：41コマ 出前講座：4件	3

大項目Ⅰ-③　　3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	大項目No.	1-③
中期目標　(3) **参画機会の提供** 芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。	中項目No.	10
	小項目No.	39

中期計画	**39. ボランティアやNPO等の各館の活動への参画の促進** 各種ボランティア(ガイドや学芸補助等)活動の拡充を図る。 友の会等の自主性を活かした運営を積極的に支援する。

法人自己評価	
3	**各種ボランティア等が参画する行事やボランティア研修を積極的に展開した。特に自然史博物館及び中之島美術館では、NPO団体との協働事業を実施し、連携による活動の充実を図った。 また科学館では、科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーを170回実施し、延べ9,844名が観覧した。加えて、科学デモンストレーター有志による実験ショーを大阪・関西万博会場の電力館において6か月間にわたり実施し、38回の演示実験・ワークショップを通じて2,789名の参加を得るなど、各種ボランティア活動の展開を積極的に支援した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	各種ボランティア活動、NPO等の館活動への参画等をサポートする人員の配置について、引き続き館内で協議する	ボランティア活動についての議論を行った。人員は割けず、スタッフスペース不足の問題など課題を協議した。	3
大阪市立自然史博物館	ア　ボランティア活動を維持し、自然科学的な研修を実施して活動が充実するよう引き続き注力する。 イ　学生向けのボランティアについては、自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、人材育成を強化する。 ウ　関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施する。 エ　人材育成を目的として講座や見学会への講師派遣など、友の会への連携を継続する。	ア　野外行事の補助スタッフ導入を進め、令和7年度は131人が登録、のべでは500人を超えるスタッフが活動している。 イ　上記のうち学生向けのボランティアについては、受入数を制限して27人の学生を受け入れた。自然科学的な研修とともに、教育手法についての研修を充実させ、3月21、22日の両日に博物館こどもまつりを実施した。 ウ　関連NPO法人等との協働事業を積極的に実施し、きょうといきものフェスティバルへの出展、友の会サミット2025などを実施した。 エ　友の会をはじめ、大阪自然環境保全協会、シニア自然大学、たかつき市民大学、近畿植物同好会など様々な自然関連団体に講師を派遣した。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	新たにボランティアを受け入れて、所蔵作品のガイド等活動の実施を進め、活動の充実を図り検討を行う。	特別展「CELADON―東アジアの青磁のきらめき」についてのボランティア研修を行った(3回)また特別展「MOCOコレクション オムニバス ―初公開・久々の公開― PART1」についてボランティア研修を行った(2回)。	3
大阪市立科学館	ア　各種友の会活動等への学芸員の協力、関与を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行う。 イ　ボランティアによる展示ガイドやエキストラ実験ショーを実施するほか、ジュニア科学クラブをはじめとした大阪市立科学館の各種活動を支援する。 ウ　デモンストレーターによるアウトリーチ活動(SCIENCE de DOYA)を推進する。SCIENCE de DOYAの活動の一環として、万博に出演する。	ア　各種友の会活動等へ学芸員が参加・協力を行い、科学に対して興味関心の高い住民に対する専門的な助言等の支援を行っている。友の会例会・総会6回実施。友の会の各種サークルに対する助言、月刊『うちゅう』を12回送付した。 イ　ボランティアによる展示ガイドやプチサイエンスショーを随時実施。また、科学デモンストレーターによるエキストラ実験ショーを170回実施、9,844名観覧があった。また、ジュニア科学クラブをはじめとした普及事業を6回実施した。 ウ　当館ボランティアの科学デモンストレーター有志による実験ショーを大阪・関西万博会場の電力館において6か月間に渡り、38回の演示実験・ワークショップを行い2,789名の参加者を集めた。	4
大阪歴史博物館	ア　ボランティア活動を円滑に実施するとともに、自己研修として展示の見学、講座への参加を通じてボランティアスタッフの資質を高める。 【令和5年度実績】ボランティア活動を再編し、164名を登録した イ　友の会行事への参加や講師派遣などを通じて、友の会の運営を支援する。 【令和5年度実績】友の会講師派遣4回 ウ　近隣地域に活動拠点を置くNPO法人等と協働事業を実施する。 【令和5年度実績】「わくわく子ども教室」1回、参加人数23人 【令和7年度目標】1回実施	ア　ボランティア登録人数は155人である。個別研修は6件(130人)実施し、自己研修として特別展見学1件(103人)、講座等参加13件(251人)を実施した。 (参考)令和6年度実績 ボランティア登録人数 164人 ①個別研修4件167人、②自己研修:特別展見学2件209人、講座等参加13件358人 イ　友の会の会員数は149人、講師派遣は3回行った。 (参考)令和6年度実績 友の会会員数 170人、講師派遣4回 ウ　NPO法人まち・すまいづくりとわくわく子ども教室「凧づくりと凧あげ」1回(16人)を実施した。 (参考)令和6年度実績 わくわく子ども教室「凧づくりと凧あげ」1回33人	3
大阪中之島美術館	計画なし	NPO法人と協働し、展覧会の垂れ幕を再利用する小学生参加型のワークショップ「アップサイクル・ワークショップ」を開催し、参加型教育による環境意識の醸成に努めた。	3

大項目Ⅰ-③　　3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	大項目No.	1-③
中期目標　(3) **参画機会の提供** 芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。	中項目No.	10
	小項目No.	40

中期計画	**40. 各館の活動に関するさまざまな人々との対話の機会及び場の設定** ボランティア・友の会会員等との意見交換の場を設け、その意見を聴取し活動に活かす。 住民団体との共同事業を通じて、利用者との対話を図る。

法人自己評価	
3	**各館においては、ボランティアや委託事業者等との定例的かつ丁寧な意見交換を行い、幅広く意見を聴取し、日々の館運営に反映した。特に自然史博物館では、友の会評議員会を年5回、総会を年1回開催するとともに、メーリングリストを活用して多様な意見の収集を行うなど、多様な形で意見聴取を行った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	カフェ及びミュージアムショップの委託事業者から、美術館運営における意見を聴取する。	カフェ・ミュージアムショップ及び他の委託業者も含めて、月に1回の会議を開催した（計12回）。	3
大阪市立自然史博物館	ア　ボランティアやNPOとのさらなる連携などに関する方針を普及委員会等で検討する。具体的には、博物館と博物館周辺での活動活性化のための資金獲得のあり方について、公開での議論を受けて制度検討をする。 イ　友の会の総会及び評議員会、各種ワーキンググループを通じ、意見を聴取する。 ウ　協働するNPOとの定期的な協議の機会を設け連携を密に行う。	ア　寄付収受や自然史フェスティバルの運営体制など幅広い項目についての連携方針についての議論を進めている。項目ごとにワーキンググループを設け、従来以上に密接な連携や意見交換の場を設けている。 イ　年5回の評議員会、友の会総会（1月26日）をはじめ、メーリングリストなど多様な場での意見聴取を行っている。 ウ　定例（月1回）の事務局連絡会、定例（月1回）のフロアミーティングなど連携を密に行う体制を保っている。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	ボランティアとの意見交換の場を設け、意見を聴取し活動に活かしてゆく。	新たな制度見直しのためボランティア制度ににかかる例会を1月に2回開催した。	3
大阪市立科学館	サイエンスガイドリーダーとの定期的な打ち合わせを通じて、展示や普及活動に関して意見聴衆する。	ほぼ毎日サイエンスガイドリーダーからの意見・連絡を受け取り、それをWeb上のアプリケーションを使用して、学芸課で内容を共有し、展示物の不具合に対処している。昨年度まで行っていたサイエンスガイドリーダーとの定期的な確認作業よりも効率的になり、対処性が向上した。	3
大阪歴史博物館	ア　メール配信や懇談会等を通じて、ボランティアとの情報共有と意見交換を行う。 【令和5年度実績】「たより」発行0回、解散式1回　※活動は実質1か月 【令和7年度目標】メールによる連絡随時、懇談会1回 イ　友の会の総会および幹事会を通じて、友の会との意見交換を行う。 【令和5年度実績】総会1回、幹事会5回	ア　メール配信・質問票等による情報共有・意見交換を随時実施した。 （参考）令和6年度実績 ボランティア懇談会1回、メール配信・質問票等による情報共有・意見交換を随時実施 イ　友の会の総会を1回（5/17）、幹事会を8回実施した。 （参考）令和6年度実績 総会1回、幹事会8回	3
大阪中之島美術館	計画なし	館内の飲食店やショップとの定期的な意見交換等の場を通じ、利用者の意見を聞きつつその声を活動に活かした。	3

大項目Ⅰ-③　　3　人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	大項目No.	1-③
中期目標 （3）**参画機会の提供** 芸術文化に係る活動及び市民活動に寄与するため、各館の活動への幅広い参画の機会を提供する。	中項目No.	10
	小項目No.	41

中期計画	**41. さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励** 住民参加のフェスティバル等を開催し、活動成果発表の場を提供する。

法人自己評価	
3	**各館の特性に応じて、市民の活動や学習成果の発表の場を提供した。また、市立美術館及び中之島美術館では、市民や民間団体等への施設貸出を積極的に行い、文化活動の促進に寄与した。 さらに自然史博物館では、全国の博物館友の会指導層を対象とした研修会「友の会サミット2025」を2日間にわたり開催するなど、多様な人々に学びの機会を提供した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
大阪市立美術館	教育普及事業の一つとして位置付けている美術研究所を再開する。また、そのワークスペースを利活用する試みを実施する。	美術研究所は、令和7年4月1日より開所した。合わせて、ワークスペース等活用については7件行った。 ・神戸大教員・学生の日本国宝展見学会　50名 ・大阪芸術大学生レクチャー＆ツアー　14名 ・関西の今後を考える会　20名 ・天平会　7月例会　100名　＊於：じゃおりうむ ・天平会　11月例会　100名　＊於：じゃおりうむ ・三井住友銀行＆旭化成セミナー　50名 ・美術研究所ジョイントセミナー「石仏を描こう」　20名	3
大阪市立自然史博物館	ア　住民の自然に関わる文化活動の発表の場として大阪自然史フェスティバルを開催する。 イ　博物館と連携して活動する住民団体・アマチュア団体・学術団体の指導・支援を継続的に行う。 ウ　関連学会と連携した住民の発表機会を誘致する。 エ　大阪府高等学校生徒生物研究発表会や自由研究展など生徒・児童の発表機会の確保に努める。	ア　今年度は自然史フェスティバルを開催せず、将来のあり方検討の機会とした。全国の博物館友の会指導者層の研修を目的とした「友の会サミット2025」を11月29、30日の2日間実施し、延べ247人が参加した。 イ　様々な団体に指導や支援を行っている。友の会をはじめ、大阪自然環境保全協会、シニア自然大学、たかつき市民大学、近畿植物同好会など様々な自然関連団体に講師を派遣した。（再掲） ウ　3月に関西自然保護機構「地域自然史と保全大会」を実施し、市民の研究発表の機会とし、27件のポスター発表、117人の参加を得た。 エ　今年度も11月23日に開催し、26件の発表、182名の参加を得た。	3
大阪市立東洋陶磁美術館	計画なし	—	–
大阪市立科学館	ア　サイエンスガイドや科学デモンストレーターによるボランティア活動、友の会有志による、自主的な活動を支援する。 イ　ボランティアの科学デモンストレーター有志による万博共創チャレンジへの参加とその活動を支援する。 ウ　科学に関する冊子を制作するグループと市民が交流するフェスタを開催する。	ア　当館ボランティアの「サイエンスガイド」による展示品解説、プチサイエンスショーの実施。「科学デモンストレーター」が、エキストラ実験ショーやサイエンスショー、またジュニア科学クラブへの実験教室への対応を行っている。また、天体観望会指導員の補助を得ながら、天体観望会を実施している。友の会有志による、サイエンスフェスタへの活動も支援した。 イ　科学デモンストレーター有志による実験ショーを大阪・関西万博会場の電力館において6か月間に渡り実施し、38回の演示・ワークショップを行い2,789名の参加者を集めた。また、オーストラリア国立科学博物館クエスタコンのスタッフと協働し、当館のサイエンスステージや大阪・関西万博会場のオーストラリア館で実験ショーを実施した。 ウ　科学に関する冊子を制作するグループと市民が交流するフェスタを11月に開催した。	3
大阪歴史博物館	ア　施設のエントランス等を利用し、関係団体による成果展示を支援する。 【令和5年度実績】凧づくりと凧揚げ1回、関西考古学の日1回 イケフェス1回（参加者0名） 【令和7年度目標】教育活動企画2回	ア　施設のエントランスや展示場等を利用し、関係団体による成果展示を支援した。 （参考）令和6年度実績 教育活動企画2回。NTT都市開発と協定を結び、難波宮整備事業の紹介ポスターを特別展会場内に掲出。（一財）大阪市文化財協会解散に際し、エントランスで『葦火』表紙展を開催。 【令和7年度実績】 教育活動企画2回。NTT都市開発と協定を結び、難波宮整備事業と連携を継続。JR 東海×アイドルマスターコラボ企画デジタルスタンプラリーを展示場内各所に設置。	3
大阪中之島美術館	計画なし	回遊型プロジェクト「ARでめぐる『中之島15の場所での物語』」において、物語の原案やARコンテンツに使われる挿絵・イラスト・音声などを広く一般公募することで、クリエーターの活動成果発表の機会を創出した。	3

大項目Ⅱ-①　　1　自主的かつ自律的な組織運営

中期目標			
	（1）経営と運営の一元化による効果の発揮 理事長のマネジメントの下、経営と運営の一元化により中長期的視点を備えた事業展開ができる組織として、取り組むべき課題に対して機動的かつ柔軟に対応する等、自主的かつ自律的な組織運営を安定的に行う。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	42

中期計画	
	42. 全職員に対する博物館機構の経営理念及び活動方針等への理解の促進によるガバナンス強化 機構の経営理念及び活動方針等について、様々な階層の職員研修等を通じて理解促進を図る。 また、理事会や経営会議の議決事項等については、事務局より総務課長連絡会議や学芸課長連絡会議、グループウェア等を活用して各館へ伝達し、法人全体の決定事項を職員へ共有することにより、組織のガバナンスの強化を図る。

法人自己評価	
3	**総務課長会及び学芸課長会において理事会・経営会議の議決内容を適宜共有するとともに、グループウェア等を活用して審議内容を周知し、法人全体の情報共有と意思統一の徹底を図った。また、事務局及び各館の管理職会議においても適時情報共有を行い、連携強化に努めた。 さらに事務局では、副理事長及び管理職による定期会議を通じて議案整理や6館横断課題の検討を行い、組織のガバナンス強化と円滑な組織運営の推進に寄与した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	定例で開催される理事会や経営会議の議決事項等を、総務課長連絡会・学芸課長連絡会、グループウェアを用いて各館構成員に適宜周知・徹底し、情報の共・各会議の議事録を会議終了後に迅速に共有することで組織全体の意思一致を図る。	総務課長会、学芸課長会において理事会・経営会議の議決内容を適宜共有するとともに、経営会議等にかかる審議内容をグループウェアにて周知するなどを、法人全体の情報共有・意志一致を図った。 また、事務局及び各館においては管理職会議等において適宜その情報共有を図った。 加えて、事務局においては、副理事長及び管理職による定期的な会議を開催し、理事会や経営会議に向けた議案の整理を行うとともに、6館を横断する課題に対する解決策を協議・検討する等、組織のガバナンス強化に向けたスムーズな組織運営に寄与した。	3

中期計画			
	43. 中長期的な視点を備えた事業の企画及び実施 6館一体経営による人事や財務の一元化のメリットを活かし、経営会議における議論を経て機構全体の総合調整機能を発揮し、展覧会の企画・立案等についてもよりコミットするなど中長期的視点を備えた事業を企画、実施する。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	43

法人自己評価	
3	**「大阪博」の開催等に向け、人流データやアクセス解析等を活用し広報・プロモーション活動を積極的に展開するとともに、その成果を全職員で共有し、6館一体となった事業推進を図った。下半期には各館の展覧会等の情報発信を強化し、次年度に向けた広報・プロモーションの準備を進めた。 また、5年間の改修計画に基づき施設整備・改修を計画的に実施し、館機能の維持向上を図ったほか、PFI運営状況の検証では外部有識者を含む検証ワーキンググループ（WG）の提言を踏まえ、PFI事業者との合意形成を行い安定的な運営スキームの構築に繋げた。 さらに、事務局主導のもと各館情報の集約や広報施策の調整を行うとともに、次年度以降の事業情報を整理し館長間で共有するなど、横断的な事業推進と組織連携の強化に努めた。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　大阪博の開催や下半期の事業実施にあたり、経営会議での協議等を経て、エビデンスに基づいた各種の広報・プロモーション活動を実施する。 イ　5年間の改修計画に基づき、施設整備改修を実施する。 ウ　PFIコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館のこれまでの運営について検証・改善を行う。 エ　各館の展覧会の企画・立案について複数年度の計画の情報集約をし、各館の連携・調整を図る。	ア　「大阪博」の開催等に向けてこれまで進めてきた人流データやアクセス解析等をもとに、広報・プロモーション活動を積極的に展開した。活動の結果等については適宜グループウェアへの掲示等により全職員に共有化するなど、6館一体となり事業の推進にあたった。また展覧会やその他の活動等、各館の活動を積極的に発信するとともに、次年度の広報・プロモーション活動の準備を着実に進めた。 イ　5年間の改修計画に基づいた施設整備改修を着実に進めた。 ウ　PFIコンセッション方式によるこれまでの運営状況を検証し改善を図るため、運営協議会のもとに、2名の外部有識者を迎えた運営検証WGを設置しこれまでの運営状況と解決のための方策案を策定した。本方策をもとに運営協議会において課題解決施策についてPFI事業者と合意を図り、今後の更なる安定的な運営スキームを構築した。 エ　年度当初に各館の展覧会や各種イベントの情報を事務局にて集約し、集客のための施策を実施するとともに、広報・プロモーション活動や外部機関との連携について法人としての参画の是非について各館と協議を行う等、事務局主導のもとで連携・調整を図った。また、下半期には、次年度以降複数年の展覧会等の情報を集約し、館長意見交換会で情報交換を行った。	3

中期計画			
	44. 各館におけるノウハウや事業成果、課題等の博物館機構全体での共有 経営会議等の場において、各館の成功事例を展開するとともに、課題等についても迅速に共有することにより未然・事前の危機回避を図る。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	44

法人自己評価	
3	**経営会議、総務課長連絡会、学芸課長連絡会議等を通じて事業成果や課題を共有し、グループウェアを活用した迅速な情報共有と併せて、6館を横断して協議・意見交換会等を適宜実施することで、組織内の意思統一と課題解決を図った。また、来館者データや人流データによる来館者分析結果を月次で各館へ共有し、展覧会等のプロモーション活動の改善等に活用した。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　経営会議、総務課長連絡会・学芸課長連絡会議等の場において、事務局及び各館から事業成果や課題を報告し、その成果やノウハウ等を共有する。また、グループウェアを活用することにより迅速に情報を伝達する。 イ　人流データ分析の情報を広報活動に活かすべく、事務局から他館に展開し情報の共有を図る。	ア　経営会議、総務課長連絡会、学芸課長連絡会議において事業成果や課題の報告等を通じて各館の活動に活かすとともに、グループウェアを活用し各職員への迅速な情報共有を行い職員の意志一致を図った。またデジタル・アーカイブ化や広報・プロモーション等の専門分野において6館を横断した打合せを適宜開催し、必要な課題解決の為の協議や情報共有を行った。 イ　人流データを用いて各館における主要な展覧会の来館者属性を分析するとともに、事務局から各館に情報を共有し、展覧会等のプロモーション活動に活用した。	3

中期計画	45. エビデンスに基づいた戦略による事業の実施及び評価 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータの活用と分析により戦略的な事業を実施し、事業の結果と成果が達成できているのか評価する。 過去に積み上げてきた来館者動向などのデータや、携帯電話端末等の情報から取得した性別や年代、居住地データを用い、来館者データを分析・評価し、適正な目標設定により展覧会・各種事業等を実施し、PDCAサイクルのもと、館の魅力向上に繋げる。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	45

法人自己評価	
3	6館の展覧会情報や過去データ、他館のオープンデータ等を収集・分析し、年度当初に広報戦略を策定するとともに、アクセス解析等に基づき時機を捉えた広報・プロモーション活動を展開し、来館者の獲得及び博物館・美術館の魅力発信を行った。また、Webサイトのアクセス解析、人流データ、来館者実績等を用いて広告・プロモーション効果を検証し、その結果に基づくターゲット設定やクリエイティブ制作を行うなど、データに基づく戦略的広報を展開した。

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　万博関係事業を中心に、オープンデータ並びに独自のリサーチに基づくマーケティングデータを駆使しながら広告宣伝・プロモーション戦略を組み立てる。 イ　アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証行う。	ア　年度当初に6館で開催する展覧会における情報について過去の情報や他館のオープンデータを収集し広報戦略を策定するとともに、適宜アクセス解析等を実施し、時機に応じた広報・プロモーション活動を展開し来館者の獲得や博物館・美術館魅力の発信を実現した。 イ　各Webサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析するとともに、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い、分析結果に基づくターゲット選定及びクリエイティブの制作を行う等、戦略的な広報を展開した。（再掲）	3

中期計画	46. PFI事業に係るモニタリングによる大阪中之島美術館の安定的な運営 PFIコンセッション方式により運営する大阪中之島美術館においては、本法人が運営事業者である（株）大阪中之島ミュージアムとの定期的な対話やモニタリングを通じ、相互のパートナーシップのもと大阪中之島美術館の安定的な運営を図り中之島地区をはじめとする地域の活性化や住民サービスの向上を実現し、賑わいの創出に寄与する。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	46

法人自己評価	
3	運営協議会（年2回）や部会（月1回）を定期的に開催するとともに、必要に応じて担当者会議を実施し、PFI事業者との緊密な連携を通じて館の安定的な運営を確保した。また、PFIコンセッション方式による運営状況の検証にあたっては、外部有識者を含む運営検証ワーキンググループ（WG)を設置し、課題整理と改善方策を策定の上、運営協議会においてPFI事業者と合意形成を行い、より安定的な運営スキームの構築に繋げた。さらに、四半期ごとのモニタリングに加え、来館者数や月次・日次の運営状況を把握・分析し、その結果を踏まえたPFI事業者との対話を通じて課題解決を図った。

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　定期的に運営協議会（年1回）や部会（月1回）を開催し、PFI事業者との連携を図る等、安定的な運営を行う。 イ　PFIコンセッション方式によるこれまでの運営手法結果について（株）大阪中之島ミュージアムと協働して検証・改善を行う。 ウ　4半期ごとのモニタリングに加えて適宜来館者数の把握や日々の課題抽出を行う。	ア　年間を通じて運営協議会（年2回）や部会（月1回）を開催するとともに必要に応じて担当者による会議を実施することでPFI事業者と緊密に連携を図り、館の安定的な運営を実現した。 イ　PFIコンセッション方式によるこれまでの運営状況を検証し改善を図るため、運営協議会のもとに、2名の外部有識者を迎えた運営検証WGを設置しこれまでの運営状況に基づき課題解決のための方策案を策定した。本方策をもとに運営協議会において課題解決施策についてPFI事業者と合意を図り、今後の更なる安定的な運営スキームを構築した。 ウ　4半期ごとのモニタリングに加え、適宜来館者数の把握や月次・日時による活動報告を把握・分析し、PFI事業者との対話のもとで課題解決等を行った。	3

中期計画	47. ICTの積極的活用等による業務の効率化 2019年度に導入した勤怠・財務会計・給与支給等のシステム適用範囲の拡充を図り、更なる業務の効率化を実現する。また、意思決定の迅速化や業務の省力化を図るため、文書管理や電子決裁にかかるシステムを本格稼働させる。 各種の規定やマニュアル等の整備・見直しを行い、業務の効率化・平準化を実現する。コレクションや展示物の情報をデータベース化し、効率的な検索や管理を行うことにより学芸分野の業務の効率化を図る。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	47

法人自己評価	
2	各館において館蔵品データのコンテンツの増加や充実化を一定程度進めたものの、学芸分野における業務の効率化には十分に至らなかった。 一方で、導入済みの文書管理システムを安定的に運用するとともに、新たに年末調整システムを導入し、省資源化および省力化を大幅に推進した。また、オンライン研修の活用により移動時間・交通費の削減を図るとともに、クラウドサービスの活用による共同作業の効率化や人的ミスの低減を進め、事務処理全体の効率化に寄与した。

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　引き続き、館蔵品データベースのコンテンツの増加を図ることにより、学芸分野の業務の効率化を目指す。 イ　文書管理システム等、導入したシステムの活用により業務の省力化を進める。	ア　各館において館蔵品データのコンテンツの増加や充実化は一定進めたものの、学芸分野における業務の効率化には至らなかった。 イ　導入した文書管理システムを安定的に活用するとともに、新たに年末調整にかかるシステムを導入し、大幅な省資源化及び省力化を実現した。また、オンライン研修を積極的に行い移動時間・交通費の削減を図るとともに、クラウドサービスを活用し、共同作業による事務効率化や人的ミスの削減を進めた。	2

中期計画	48. より一層のサービス向上実現に向けた民間活力の導入、渉外及び広報機能の強化 利用者サービスの向上や業務の効率化を目指し、民間活力を効果的に導入する。 各種のマーケティング・リサーチ等やビッグデータの活用を積極的に行い、リサーチ結果に基づいた戦略的な渉外・広報を展開する。	大項目No.	2-①
		中項目No.	11
		小項目No.	48

法人自己評価	
3	各Webサイトのアクセス解析データ、人流データ、来館者実績等を分析し、広告・プロモーション活動の効果検証を行うとともに、その結果に基づくターゲット設定やクリエイティブ制作を行うなど、データに基づく戦略的広報を展開した。また、民間のプレスリリース配信サービスを積極的に活用することで、法人全体の広報活動の発信力強化と業務の効率化を図った。 【令和7年度実績】 プレスリリース配信サービス（PR TIMES）累計配信数 62件、累計PV数 113,866回（再掲） 【令和6年度実績】 累計配信数 52件、累計PV数 104,292回

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　アクセスツールを用いたアクセス解析、人流データ、各館の来館者実データを分析し、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行う。（再掲） イ　引き続き、プレスリリース配信サービス（PR TIMES）を積極的に活用し、機構全体の広報活動の規模拡大と効率向上を図る。	ア　各Webサイトのアクセス解析データ、人流データ、各館の来館者実データを分析するとともに、広告宣伝・プロモーション活動の効果検証を行い、分析結果に基づくターゲット選定及びクリエイティブの制作を行う等、戦略的な広報を展開した。（再掲） イ　プレスリリース配信サービス（PR TIMES）を積極的に活用し、法人全体の広報活動の規模拡大と業務の効率化を図った。 【令和7年度実績】 プレスリリース配信サービス（PR TIMES）累計配信数 62件、累計PV数 113,866回（再掲） （参考）令和6年度実績 累計配信数 52件、累計PV数 104,292回	3

中期目標	(2) **内部統制の強化** 業務の有効性及び効率性、財務報告の信頼性、事業活動に関わる法令等の遵守並びに資産の保全を達成するための内部統制の仕組みについて、強化を図る。	大項目No.	2-①
		中項目No.	12
		小項目No.	49
中期計画	**49. 内部統制の強化に向けた環境整備** コンプライアンスの遵守を徹底するため、法令や社会的規範に基づき法人規程を整備するとともに、理解促進のための職員研修を実施する。		

法人自己評価	
3	**全職員へのハラスメント研修や、研究者を対象とした倫理研究を実施など、コンプライアンス遵守を徹底するための、職員研修を実施した。また、国際発信をした「大阪博」Webサイトにおいては、国内外の個人情報保護法令に対応、年間を通じた監査の実施など、計画通りに実施し、内部統制の強化に向けた環境整備を行った。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　コンプライアンス遵守に関する研修等を実施する。(年間1回) イ　研究者及び学芸員としての倫理観の確保、理解増進に向けた研修を実施する。(年間1回) ウ　個人情報保護ポリシーの見直し、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPRA等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応する。 エ　監事監査及び内部監査により、内部統制環境を点検し、有効性をモニタリングするとともに、内部統制に関する必要な見直しを適宜行う。 オ　法令や業務方法書等に基いた内部統制の推進に関する規程に沿った運用を行う。	ア　全職員を対象にハラスメント研修を実施した。(11月～12月eラーニングにより実施) イ　研究者を対象とした倫理研修を実施した。(令和8年3月実施) ウ　「大阪博」Webサイトにおいて、クッキーポリシーの策定、CMPツールの採用・導入により、GDPR、CPRA等の国内並びに諸外国の個人情報保護法令に対応した。 エ　年間を通じて監事監査・内部監査ともに各館1回実施し、内部統制環境を点検するとともに課題を抽出し改善に寄与した。 オ　諸規定に沿った運用についての点検を行うとともに、課題の洗い出しや共有を図った。	3

中期計画	**50. 事業継続計画(BCP)の策定及び継続的改善** 大規規模災害等に備え、緊急事態における事業の継続又は早期復旧を図るため、事業継続計画（ＢＣＰ）を策定し、継続的に見直し・改善を行う。	大項目No.	2-①
		中項目No.	12
		小項目No.	50

法人自己評価	
3	**前年度に選定した民間事業者と協働し、事務局及び各館へのヒアリングを行いながら、事業継続計画(BCP)を策定した。また、BCPに関する職員研修を実施するとともに、研修動画のアーカイブ化を行うことで、継続的な学習機会を確保し、職員の意識向上を図る体制を整備した(職員研修1回、受講人数77人、アーカイブ配信視聴110回)。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	民間事業者と協働し、事務局及び各館のヒアリングを行い事業継続計画(BCP)を策定するとともに、職員研修を実施する。	前年度選定した民間事業者と協働し、緊密な連携を図りつつ、事務局及び各館のヒアリングを行い事業継続計画(BCP)を策定した。また事業継続計画(BCP)にかかる職員研修を実施するとともに研修動画のアーカイブ化を行い職員の継続的な意識向上のための体制整備を行った。(職員研修1回、受講人数77人　アーカイブ配信視聴　110回)	3

大項目Ⅱ-②　　2　職員の育成に向けた取組			
中期目標	2　職員の育成に向けた取組 職員の意欲、能力及び経験等を活かすための柔軟な適材適所の人員配置の実施や評価制度を活用することによる職員の勤労意欲と能力の向上等により、職員の育成に取り組む。	大項目No.	2-②
		中項目No.	13
		小項目No.	51
中期計画	**51. 職員の育成に向けた取組** 働きやすい職場環境の充実を図るとともに、職員の能力向上や職員のモチベーション向上のため、下記の取組を実施する。 職種や職階に応じた研修プログラムを策定し、実施する。 インセンティブが適切に働く人事評価制度を実施する。 個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組み作りに取り組む。 職員のキャリア形成に寄与するため、国等の他機関等との人事交流について計画を策定し、実施する。 定期的なジョブ・ローテーションにより、職員の多様なキャリア形成を実現する。		

法人自己評価	
3	**組織の最適化に向けた方針に基づき人事交流を実施するとともに、年間を通じてジョブローテーションを適宜行い、職員のキャリア形成の推進を図った。また、外部講師を招聘し各館広報担当者を対象としたSNS運用能力向上のための研修等を実施するなど、広報・プロモーション能力の向上に取り組んだ。 さらに、DX推進関連研修(「3Dプリンターを利用した触察モデル」(自然史博物館開催)やシンポジウム「博物館のデジタルアーカイブと学校をつなぐ」(オンライン開催)への職員参加を通じて専門性の向上を図るとともに、事例紹介等の情報共有を行った。 人事評価に係るインセンティブ制度については調査・検証を行い、経営会議において協議を進めたほか、他機関との調整を踏まえ令和7年度の人材受入れを実施した。一方で、 職種に応じた必要な研修を適宜実施したものの、当初目標としていた各階層別研修の年1回実施には至らなかった。 【主な組織内研修】 ・新規採用者研修1回　・ハラスメント研修1回　・科研費倫理研修2回　・BCP研修1回　・DX研修2回　・Instagram研修2回　・Xマーケティング研修1回**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　階層別の研修を各階層1回は実施する。 イ　適切な人事交流を行うべく、人事方針を策定する。 ウ　昨年度に引き続き、広報、マーケティング、Webマーケティング等研修を企画・実行し、デジタルマーケティングへのシフトを志向する。 エ　博物館のDX化の推進に向けた研修等を年間2回実施する。 オ　個人のモチベーション向上に寄与するような組織的なインセンティブが働く仕組みについて検討を行う。 カ　他機関等との人事交流の策定に向け組織内で協議を進める。 キ　職員の多様なキャリア形成に寄与するため、定期的なジョブ・ローテーションを実施する。	ア　職種に応じて必要な研修は適宜行ったものの、当初目標とした各階層1回の研修の実施には至らなかった。 イ　組織の最適化に向けた方針をもとに人事交流を行った。 ウ　外部から講師を招聘のうえ、各館の広報担当者を対象に、SNSの運用能力向上を目的とした研修を実施した。(再掲) エ　DX推進に関係した研修「3Dプリンターを利用した触察モデル」(自然史にて開催)、シンポジウム「博物館のデジタルアーカイブと学校をつなぐ」(オンライン開催)に法人職員が参加したほか、事例紹介等も行った。 オ　人事評価にかかるインセンティブ制度について調査・検証を行い、経営会議において協議を行った。 カ　他機関等と協議を行い、令和7年度に人材の受け入れを行ったものの、国等との人事交流制度の検討・策定には至らなかった。 キ　年間を通じてジョブローテーションを適宜行い、職員のキャリア形成を図った。 【主な組織内研修】 ・新規採用者研修1回　・ハラスメント研修1回　・科研費倫理研修2回　・BCP研修1回　DX研修2回　・Instagram研修　2回　・Xマーケティング研修　1回	3

大項目Ⅲ	財務内容の改善に関する事項		
中期目標	1　収入の確保 展覧会収入並びに図録及びミュージアムグッズの販売収入に加え、施設の活用等による新たな収入確保に取り組む。	大項目No.	3
		中項目No.	14
		小項目No.	52
中期計画	**52. 収入の確保** 各館の展覧会等の来館者の増加を実現する等、収入の増加に務める。 積極的に民間企業と連携し、共同事業の実施や、商品開発、デジタルコンテンツの提供等を行うことにより新たな購買者層を獲得する。 法人資産の利活用のスキームを構築し、収入確保を図るとともに、貸出施設の稼働率の向上を実現する。		

法人自己評価	
3	**チケット購入促進を目的として、「大阪の宝」や各種展覧会に関するWeb広告を配信し、来館者の獲得に努めた。また、各館においては民間企業と連携し、展覧会等に関連した商品開発に資するデジタルコンテンツの提供を行ったほか、事務局では大阪商工会議所が作成するチェンバーカレンダーに各館コンテンツを提供し、館蔵品の魅力発信と来館促進に寄与した。 さらに、ユニークベニューを専門とする民間事業者と協働し、市立美術館・中之島美術館ユニークベニューを実施するとともに東洋陶磁美術館で試行実施し次年度の本格導入に目途を立てた。実施にあたっては中之島美術館の知見を活用しつつ、各種規程の整備を進めるとともに、民間事業者との意見交換を通じて過去の成功事例や専門的ノウハウの蓄積を図り、事業の質の向上に繋げた。またキャンパスメンバーズ制度についても継続的に運用を行った 【主な実績】ユニークベニュー件数　市立美術館：15件、中之島美術館：51件　キャンパスメンバーズ制度加盟校：7校**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　収入確保に向け、各種の展覧会の広報・プロモーション活動を実施する。 イ　各館において、民間企業と連携した商品開発やデジタルコンテンツの提供等を行う。 ウ　ユニークベニュー専門事業者と連携し、先行する館においてユニークベニュー事業のモデルケースを策定する。	ア　チケット購入の促進を目的に、「大阪の宝」や各種の魅力ある展覧会に関するWeb広告を配信し、来館者の獲得に努めた。（再掲） イ　各館において民間企業と積極的に連携し、展覧会等に関連した商品開発に資するためデジタルコンテンツの提供を行った。また、事務局においては大阪商工会議所が作成するチェンバーカレンダーに各館のデジタルコンテンツを提供し、館蔵品の魅力を発信することで来館促進の一助とした。 ウ　ユニークベニューを専門とする民間事業者と協業し、市立美術館において15件のユニークベニューを実施した。また実施に際しては中之島美術館のノウハウを基に各種の規定整備を図るとともに、適宜意見交換い過去の成功事例や専門の民間事業者からノウハウ等を獲得した。	3

中期目標	2　外部資金の獲得 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金及び協賛金、科学研究費並びに国等からの補助金の獲得に積極的に取り組む。	大項目No.	3
		中項目No.	15
		小項目No.	53
中期計画	**53. 外部資金の獲得** 経営会議のもとに外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織を設置する。 科学研究費補助金等の外部資金に積極的に申請するとともに、採択率の向上に向け、先行している館のノウハウを学芸連絡会議や研修会などを通じて法人内で共有し、採択率の向上を目指す。 寄附金等の獲得に向けた戦略を策定し、実行する。 「大阪博」の開催に向け、文化庁等の関係事業に申請するなど、外部資金の獲得を目指す。		

法人自己評価	
3	**外部資金の獲得に向けた戦略的な検討体制の構築に向け、国等の設置状況に関する情報収集を行うとともに協議を進めた。また、科学研究費補助金等の採択率向上を図るため、学芸連絡会議等において外部資金獲得に関する情報共有や意見交換を実施し、組織全体での取組強化を図った。 さらに、令和7年度に実施する万博関連事業について「令和7年度 日本博2.0　最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」に申請し採択を受けるなど（1件、採択金額22,185千円）、外部資金の積極的な獲得に取り組んだ。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、他機関等の調査結果をもとに諸会議で検討を行う。 イ　科学研究費補助金等の採択率の向上に資するべく、学芸連絡会議等の場を活用し成功事例の共有を図る。 ウ　令和7年度に法人が実施する万博関係事業において、文化庁等への補助金申請を行い、採択を目指す。	ア　外部資金の獲得に向けた戦略を検討するための内部組織の設置に向け、国等の設置状況について情報収集を図るとともに協議を行った。 イ　科学研究費補助金等の採択率の向上に向け、学芸連絡会議等の場において科学研究費補助金を含む外部資金獲得にかかる情報共有・意見交換を行った。 ウ　令和7年度に法人が実施する万博関係事業において、「令和7年度 日本博2.0　最高峰の文化資源の磨き上げによる満足度向上事業」に申請し、採択された。（1件、採択金額：22,185千円）	3

中期目標	3　経費の縮減 全職員が常にコストを意識するとともに、博物館機構による博物館等の一体的な運営の強みを活かした計画的な事業の実施や施設及び設備の整備等により、経費の縮減に取り組む。	大項目No.	3
		中項目No.	16
		小項目No.	54
中期計画	**54. 経費の縮減** 既に発行している紙媒体の広報誌の電子化や縮小など、事業のスクラップアンドビルドを積極的に行うとともに、各種の規定やマニュアル等の見直し、業務のICT化を推進することにより、経費の抑制を図る。 業務委託等を含めた共同調達について、有効なものから引き続き計画的に実施する。		

法人自己評価	
3	**契約事務審査会を定期的に開催し、適切な契約手法の選定を通じて経費節減に努めるとともに、契約監視委員会を開催し競争入札の拡充を図った。また、各館の展覧会・イベント情報を集約し「大阪博」Webサイトへ掲載することで情報の一元化を図った。 さらに、「大阪の宝」の見どころ等を紹介する動画を5本制作しYouTubeで公開するとともに、動画広告としても活用することで効率的な広報活動を展開した。加えて、「大阪博」終了後のWebサイト運用方針を整理し、クロージングに向けたWebサイトの改修を行うなど、計画的な情報発信体制の整備を進めた。 【実績】契約事務審査会：18回、契約監視委員会：2回**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　事業の効率化はもとより、契約事務審査会等を通じて、適切・効率的な契約手法を検討し、経費節減に繋げる。 イ　デジタル化と集約化のために、万博専用LPに各館展覧会・イベント等の情報を集約する。 ウ　学芸員の研究等を紹介する動画を編集の上、本動画を活用し視聴者の満足度の向上を実現するとともに、同動画を広告宣伝ツールとしても活用する。 エ　引き続きオウンドメディアの目的、機能の整理を行い、スクラップアンドビルドを継続していく。	ア　契約事務審査会・契約監視委員会を定期的に開催し、適切な契約手法を採ることにより経費節減に繋げた。 イ　各館展覧会・イベント等の情報を集約し、「大阪博」Webサイトへ掲載し情報の集約化を図った。 ウ　「大阪の宝」の見どころ等を紹介する動画を5本制作し、YouTubeで公開した。また、本動画を動画広告としても活用することで効率的な広報活動を展開した。 エ　「大阪博」終了後の、「大阪博」Webサイト運用目的・方針等を整理し、「大阪博」のクロージングに向けたWebサイトの改修作業を行った。 【実績】契約事務審査会：18回、契約監視委員会：2回	3

大項目Ⅳ　その他業務運営に関する重要事項			
中期目標	1　SDGsの概念に基づく取組の推進 SDGsの理念に基づき、展示や教育普及活動等においても、ダイバーシティ、バリアフリー、循環型社会の構築及び生物多様性等の視点に立った取組を推進する。	大項目No. 中項目No. 小項目No.	4 17 55
中期計画	**55. SDGsの理念に基づく取組の推進** 人材確保においては、被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。 展覧会やその他の事業実施において、SDGsに配慮した取組を実践する。 さまざまな来館者を念頭に、ジェンダーに配慮するなどユニバーサルデザイン化を推進する。 博物館等の活動に関連するこどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施のみならず、さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるための支援メニューの充実に取り組む。（再掲）		

法人自己評価	
3	**雇用条件等において被雇用者の多様性に配慮した採用を年間を通じて実施し、ダイバーシティの推進に努めた。 また、施設整備面では、自然史博物館において照明器具のLED化工事を実施し、総消費電力量の削減を図ったほか、歴史博物館及び科学館では令和8年度のLED化工事に向けた設計を行い、東洋陶磁美術館では令和8～9年度の受変電設備更新に向けてトップランナー変圧器を採用するなど、省エネルギー化に向けた計画的な取組を推進した。 さらに、教育普及分野では「教員のための博物館の日」への参画や大阪市との連携による出前講座の実施、包括連携協定に基づく大阪市教育センターとの協議を通じて教育支援メニューの充実を図ったほか、キャンパスメンバーズ制度の周知・促進により教員等の学習機会の拡充に寄与した。加えて、中之島美術館では展覧会垂れ幕を再利用した小学生参加型ワークショップ「アップサイクル・ワークショップ」を実施し、参加型学習を通じた環境意識の醸成にも取り組んだ。 【実績】教員のための博物館の日：2日間、キャンパスメンバーズ制度加盟校：7校、「アップサイクル・ワークショップ」：計5日開催**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　被雇用者の多様性に配慮した雇用に努める。 イ　建築物の大規模改修時にて、はじめて訪れる人にも理解できるサインの設置、トップランナー機器等の導入や照明器具のLED化、バリアフリートイレの設置など、SDGsの理念に基づく取組を推進する。 ウ　こどものリテラシーの向上や教員等のスキルの向上のため、支援メニューの充実に取り組む。	ア　雇用条件などについて被雇用者の多様性に配慮した採用を年間を通じて実施した。 イ　自然史博物館について、照明器具のLED化工事を実施し、総消費電力量の削減を図った。歴史博物館及び科学館について、令和8年度の照明器具のLED化工事に向け、設計を実施した。東洋陶磁美術館について、令和8～9年度の受変電設備更新に向け、トップランナー変圧器を採用するなど省エネ機器の導入を図る設計を実施した。 ウ　大阪市と連携し「教員のための博物館の日」や出前講座を開催・実施した。また、包括連携協定に基づき大阪市教育委員会・大阪市総合教育センターと連携し、小・中学校現場における教育支援メニューについて協議を行った。 加えてキャンパスメンバーズ制度の利用を積極的に周知・促進することで教員等の知識向上に寄与した。 その他、中之島美術館において、展覧会の垂れ幕を再利用する小学生参加型のワークショップ「アップサイクル・ワークショップ」を開催し、参加型教育による環境意識の醸成に努めた。 【実績】教員のための博物館の日：2日間、キャンパスメンバーズ制度加盟校：7校、「アップサイクル・ワークショップ」：計5日開催	3

中期目標	2　来館者の安全確保 来館者へ良好かつ安全な利用環境を提供するとともに、職員が快適かつ安全な労働環境で業務に従事できるよう安全対策と事故発生時の対応を徹底する。	大項目No. 中項目No. 小項目No.	4 18 56
中期計画	**56. 来館者の安全確保** 災害対策マニュアルを策定する。 来館者の安全確保のための訓練を定期的に実施する。 職員研修を通じて、職員の安全への意識啓発や災害時の知識の向上を図る。 各館において、隣接する機関と緊密に連携を図り、緊急時の対応に備える。		

法人自己評価	
3	**前年度に選定した民間事業者と協働し、事務局及び各館へのヒアリングを行いながら、事業継続計画（BCP）を策定した。また、BCPに関する職員研修を実施するとともに、研修動画のアーカイブ化を行うことで、継続的な学習機会を確保し、職員の意識向上を図る体制を整備した（職員研修1回、受講人数77人、アーカイブ配信視聴110回）。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	民間事業者と協働し、各館のヒアリングを行い事業継続計画（BCP）を策定するとともに、職員研修を実施する。（再掲）	前年度選定した民間事業者と協働し、緊密な連携を図りつつ、事務局及び各館のヒアリングを行い事業継続計画（BCP）を策定した。また事業継続計画（BCP）にかかる職員研修を実施するとともに研修動画のアーカイブ化を行い職員の継続的な意識向上のための体制整備を行った。（職員研修1回、受講人数77人　アーカイブ配信視聴　110回視聴）（再掲）	3

中期目標	3　情報公開の推進 運営状況の透明性を確保し、広く博物館機構の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。	大項目No. 中項目No. 小項目No.	4 19 57
中期計画	**57. 情報公開の推進** 法令に定める情報のみならず業務内容に関する法人・各館情報を積極的に公開する。 利用者等が情報を効果的に享受できるよう、理解しやすいホームページの運用を行う。		

法人自己評価	
3	**各館及び法人Webサイトにおいて入札・採用情報を適宜掲載するとともに、中期計画・年度計画、評価結果、年報、諸規程、議事録等の法人情報を積極的に公開し、条例に基づく情報公開請求にも適切に対応した。 また、WebサイトやSNS等を活用し法人及び各館の情報発信を継続的に行ったほか、「大阪博」に関する情報発信や各作品の展示場所・展示期間の集約を行い、専用サイトにおいて分かりやすい情報提供を実現したほか、利用者の利便性向上を図るためWebサイトの運用改善に取り組み、「大阪博」Webサイトとの次年度以降の統合に向けた方針を決定するなど、情報発信機能の強化に努めた。**

	年度計画	評価の判断理由	評価
事務局	ア　ホームページ等を積極的に活用し、情報の提供に努めるとともに、情報公開等に対しては速やかに対応していく。 【令和5年度実績】情報公開0件 イ　ホームページやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信する。 ウ　令和7年度に実施予定の大阪博の情報を適宜ホームページ等にて発信する。 エ　利用者等が理解しやすいホームページの運用を行う。	ア　各館及び法人Webサイトにおいて入札・採用情報を適宜掲載するとともに、中期計画・年度計画、評価結果、年報や諸規程・議事録をはじめとする法人情報を公開するとともに、条例に基づいた情報公開請求に対して積極的に対応した。 イ　WebサイトやSNS等を活用し、法人・各館情報を積極的に発信した。 ウ　法人及び各館のWebサイトやSNSで、「大阪博」の情報を発信するとともに、各作品の展示場所・展示期間を集約し、「大阪博」Webサイトにて発信した。 エ　利用者等にとって必要な情報が得られやすいWebサイトの運用に努めるとともに、更なる利便性の向上に向けて「大阪博」Webサイトとの次年度以降の統合に向けた方針を決定した。 【情報公開件数】1件	3